

地域連携センター
教育・研究年報
(創る 繋ぐ 育てる)
創刊号 (令和5 (2023) 年度)



令和6年(2024)年 3月

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学

地域連携センター教育・研究年報（令和5年度創刊号）

発刊日時	令和6年3月1日
発行者	室井 廣一
編集者	杉元 康志

九州栄養福祉大学 東筑紫短期大学

地域連携センター 教育・研究年報 創刊にあたって

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学

学長 室井 廣一

昨年七月九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学・附属認定こども園の地域連携センターが設置され、教育的連携という視点からのそれぞれの試みをまとめた「教育・研究年報創刊号」も上梓できることになりました。大学・短大・附属認定こども園それぞれの部門から教育的連携の視点からの寄稿をいただき本当に有難うございました。この教育・研究年報は本大学のそれぞれの部門の多様な教育研究活動の状態を一覧できるように工夫して編集されました。

それはまた本学園の「建学の精神・四つの心の芽」がそれぞれの部門でどのように発芽し育まれ発展しているのかを一覧しその現在進行形を概観しておくことの必要性を感じたからでもあります。

折しも東筑紫学園百周年(12年後)に向かって新学部「こども教育学部こども教育学科」と食物栄養学部「食環境データサイエンス学科」設立企画(令和7年開学予定)が進行している中でのセンター設立、創刊号発刊ということで寄稿者、編集企画者には大変負担がかかったと思われます。しかしその負担と努力は必ず報いられると思います。言うまでも

なくすさまじい少子化の荒波は全国の私学を緊張震撼させています。そういう中で「地域連携」はとても大切であり私立大学の地域貢献内容も明らかにしていくと思います。そしてこのような試みの何より大切なことは、連携や貢献の前に自らの学園内各部門の連携自覚の重要性が浮き彫りになってくるということです。内側の連携自覚なしに本物の地域連携は難しいからであります。本誌が建学の精神を共有した教職員・学生の本物の地域連携の機関誌になることを心から願っております。

最後にこの教育・研究年報が本学園の教育理念の益々の発展の大きな力になることを念じて発刊の言葉とさせていただきます。

(令和6年2月24日初春の陽ざしうららかな日)

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学地域連携センターの設立と
研究・教育年報（創刊号）（令和 5(2023)年度）の刊行にあたって

このたび、九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学に地域連携センターを開設しました。これによりセンター長として任命されましたことを心より光栄に思います。このセンターは、地域と大学の架け橋として、共に持続可能な未来を築くための重要な拠点となることを目指しています。

私たちは、地域社会との協力関係を強化し、お互いが抱える課題に対処し、持続可能な発展を促進するために努力します。地域のニーズや課題を正確に把握し、大学の知識やリソースを活用しながら、地域の方々と連携し、有益なプログラムやイニシアティブを提案・展開していく所存です。

また、このセンターが地域社会にとって本当に意義のある存在となるためには、皆様のご協力と支援が不可欠です。地域の方々、関係機関、そして大学の教職員や学生と協力し合いながら、より良い未来への道を切り拓いていくことを心から願っています。

最後に、この地域連携センターが地域社会にとって貢献し、持続可能な発展に向けて一層の成果を上げられるよう、努力を惜しまず取り組んでまいります。皆様のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2024 年 3 月吉日

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学地域連携センター長 杉元 康志

組織と運営

地域連携センターの活動目標

私たちは地域連携センターを通じて、地域社会との緊密な連携を築き、共に持続可能な社会の実現に向けて努力しています。

- 1 地域企業との連携：私たちの得意分野で地域経済の発展と地域産業の振興に貢献することを目指します。製品の開発や企画提案など共に協力していくことで地域の発展に寄与します。
- 2 地域ボランティアとの連携：私たちは地域社会の発展と福祉の向上に向けて、子ども食堂、ボランティア活動や社会奉仕活動を通じて共に歩んでいきます。
- 3 行政関係者との連携：地域の課題解決や施策の推進に向けて、政策提言やプロジェクト実施など、積極的な連携を展開していきます。北九州地域の発展に向けて、協力して力を注いでいきます。
- 4 高校との連携：若者の教育支援やキャリア形成のために、高等学校との連携を強化し、多様なプログラムやイベントを提供していきます。農園実習を体験しながら、食とリハビリテーションおよび幼児教育を通じて連携を深め、未来ある高校生と地域のことを一緒に考えます。
- 5 病院、福祉施設および幼児教育機関との連携：私たちが持つ専門的知識を活かしながら、地域の健康増進や医療支援および子どもの成長支援に協力していきます。そのためには地域の医療機関や福祉施設そして保育園や幼稚園との連携を深め、明るく健やかな社会の実現に貢献していきたいと考えます。
- 6 大学との連携：共同研究の推進、教員および学生間の交流を行い、質を高めていきます。
- 7 国際交流事業：アメリカ、台湾、韓国、フィリピンなどの大学と連携し、異文化交流、語学研修、共同研究の推進などを行い、国際感覚の育成に務めます。

目次

特別企画 (株) OPTiM・菅谷俊二社長と対談 (大学：渡邊 啓一)	1
令和5年度活動記録	
1 子ども食堂 (大学・食物栄養学部：大村 美智子)	9
2 地域企業との連携と商品開発 (大学・食物栄養学部：室井 由起子)	19
3 北九州市との連携 (大学・食物栄養学部：大村 美智子、室井 由起子)	23
4 学生の活動・北九州市表彰 (大学学友会サークル：Smart Diet Club)	52
5 大学・リハビリテーション学部の地域連携活動 {井元 淳}	58
6 東筑紫短期大学保育学科・附属幼稚園の連携活動と教育研究論文 (吉田 千津子他、小島 久須美、本田 恵美子)	65
7 高大連携 (農園実習) (大学・リハビリテーション学部：佐野 幹剛)	104
8 国際交流 (大学・食物栄養学部：竹並 正宏、梅崎 義雄)	114
寄稿論文他	139
九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学地域連携センター設立に寄せて 九州工業大学 (客員教授：大庭 英樹)	141
研究論文 (大学・リハビリテーション学部：橋元 隆他、吉田 遊子他)	149
特別寄稿論文 (短期大学保育学科：上森 哲生)	168

特別企画 (株) OPTiM 菅谷俊二社長と対談

渡邊啓一教授

(九州栄養福祉大学)

(株) オプティムとの連携 食環境データサイエンス学科新設に向けて

菅谷俊二 (株) オプティム社長 × 渡邊啓一 食物栄養学部教授 対談

日時：2024年2月13日 15:00-16:00 (オンライン)



学園創設者 宇城信五郎先生ご夫妻の銅像前で記念撮影 (2024/1/25)

左より、渡邊啓一教授、室井廣一学長、菅谷俊二社長、萩原勇人学生部長

医療技術の進歩によって、「人生 100 年時代」と呼ばれる現代では、単に寿命を延ばすだけではなく、より長い期間、健康的で自分らしく生活できることが求められるようになってきました。

九州栄養福祉大学は、2025 年 4 月に食環境と健康分野に AI・データサイエンスを活用した学科「食環境データサイエンス学科」を新設し、そのような生活を実現できる持続可能な社会を支える人材育成と研究開発を進めていきます。

新学科開設に先立ち、AI・データサイエンス分野における第一人者である株式会社オプティムの菅谷俊二 代表取締役社長と本学食物栄養学部の渡邊啓一 教授 (元佐賀大学農学部長) が対談。新学科によって生み出される新しい価値・世界とはどのようなものなのか、新学科に期待される効果について語りました。(以下、敬称略)

九州栄養福祉大学の強み、新学科設立の経緯



菅谷俊二社長



渡邊啓一教授

渡邊 九州栄養福祉大学は、幼稚園から中学校、高等学校、短期大学、大学、大学院までを擁する学校法人東筑紫学園に所属しています。これまで、本大学と短期大学では、建学の精神「勇気・親和・愛・知性」を基にし、食物栄養、リハビリテーション、保育そして介護の分野で、学部学科の枠を越えた学内連携による教育研究が行われ、地域社会を支える多数のスペシャリストを輩出してきました。これは、ほかでは難しい本学の強みであり、人生のあらゆるステージにおいて人々が健康的生活を送ることができる、これからの未来社会に求められる人材を輩出するにふさわしい環境だと思います。

「食環境データサイエンス学科」を新設する食物栄養学部は、2001年4月に、食を通して福祉を実現するという理念のもとに、「食医・食の番人」的役割を果たす人材を養成するために開学し、これまでに、医療、介護、福祉、食品産業分野で活躍する管理栄養士を輩出してきました。

菅谷 日本をはじめ先進国においては人生100年時代という言葉があります。こちらが実現されつつある今、次は、いかにその100年を健康的に長く人生を歩めるかがこれからの時代で目標になってきますが、九州栄養福祉大学はまさにその実現に寄与できる大学だと考えています。

渡邊 そうですね。今、海外から日本へ訪れる人が多くいらっしゃいます。日本の文化や風景だけでなく、和食も含めて日本の持つ健康を維持できる生活というものに先進国の人々が魅力を感じて、まさにそのために日本に来るといったような観光も、これから増えるのではないかと考えています。

菅谷 健康維持の職も今後増えてくると見えています。会社が加入する健康保険組合の取組で保健指導を行うことで病気の予防を防ぐ取組もあれば、病気予防や健康づくりをすることに対するインセンティブを与えるような考え方が国にあるように見えます。

渡邊 私もそう考えます。そうすると、病気にならないことに対するテクノロジーの開発が進むようになり、身体の基本となる食や栄養による健康づくりが必要となります。加えて、様々なデータを AI が解析・処理できるようになった現代において、食や栄養に向けて AI を活用できるデータサイエンスの能力を発揮できることが求められています。このような社会的な要請を受けて、「食」のスペシャリストとデータサイエンス・AI の力を最大限融合、活用できる人材を育成すべく、食環境データサイエンス学科を新設することを決めました。

新学科設立への協力依頼に同意した理由

—オプティムの背景—

菅谷 オプティムは創業当時から AI を使ったプロダクト開発を進めてきた背景があります。その下地があることにより、今では AI・IoT を始め様々な技術を研究開発して社会に提供しております。また、どのような属性の人でも IT の利益を傍受できる社会を実現することをビジョンとし、これまで企業内をはじめ医療や農業、建築現場などあらゆる場所に対して DX の実現という形で多くの人にこれを届けてきています。

渡邊 特に農業においては、佐賀大学農学部と佐賀県生産振興部（現：佐賀県農林水産部）、オプティムで結んだ、IT 農業における三者連携協定は記憶に新しいですね。農業が現在持っている課題である多大な労働時間に各種経費、病虫害や鳥獣の被害の削減と、品質や量の向上、安全安心の向上といったことを実現するために、三者でそれぞれの得意なものを持ち寄って、革新的な IT 農業の実現をオプティムでは進めていました。

菅谷 それらの活動が実を結び、田んぼ内を自動的に空撮し病虫害の被害箇所を AI で特定してピンポイントに農薬を散布するピンポイント農薬散布の概念と技術の構築が実現できました。このサービスは、農家の方々がより簡単により稼げるようなものではありませんが、減農薬を実現することで当然ながら健康面にもプラスになっています。散布する農薬を大幅に減らすことが可能なので、体内に摂取される農薬も減ら

せ、より健康的なものをより美味しく食べることが可能になります。まさに持続可能な食生活の実現です。

—人生100年時代に向けた新学科の重要性とオプティムの役割—

渡邊 人生100年時代を考えると、日々口にに入れる食はとても重要です。オプティムの実現したIT農業の形はいずれ日本全国に浸透し、みなさんが口にに入れる農作物のほとんどが減農薬で育てられた体によいものになっていくでしょう。オプティムが実現したことは、日本だけでなく世界でも活用され、世界の人々がおいしく健康的な食事を取る、持続可能な手法にほかなりません。食と栄養、AIを掛け合わせた新しい学科を作っていくうえで、オプティムへ協力を依頼したことは自然な流れです。それに、本学の室井学長も、オプティムのIT農業の取組みにはとても関心を持たれ、是非、協力をお願いしたいとおっしゃっていました。

菅谷 今後の食とデータサイエンスが融合された分野で日本や世界を担う人材を育成させていただける機会をいただけたことは非常にエキサイティングでした。もちろん協力させていただきたいと即座に考えました。学科新設やアカデミックな領域と関わらせていただくのであれば、AIを創業時から社会実装している我々の知見を活かして、ビジネス上の経験を持ったデータサイエンスの人材を提供し、学術的な面だけでなく社会実装上の観点も身につけられる、そんな学生を育成させていただけたらと考えて我々のスタッフを教員として招いていただくことに決めました。最先端でAIを活用する私達のスタッフであれば、これからデータサイエンスを学ぶ学生のみなさんに、実社会の課題を解決するという観点を身に付けていただける、そんな役割が我々にはあると考えます。

食環境データサイエンス学科の展望

—新学科のこれからについて—

菅谷 食環境データサイエンス学科は、日々生成される食や健康、栄養に関するあら

ゆるビッグデータを処理して人々の健康向上に寄与する学科とお聞きしています。食とデータサイエンスを組み合わせた学科は国内でも数少ないように感じているのですが、特に栄養に注力する学科は私の知る限り他にないように見受けられます。これは日本初の学科設立といえるのではないかと考えています。

渡邊 それに加えて、日本を代表する DX 推進企業であるオプティムが教育・研究で果たす役割を考えると、まさしく日本初の学科設立といえます。本学科は、データに基づいた適切な食生活による健康維持の狙いがありますが、一方で、食品の生産、貯蔵、流通、加工の流れを含めて安全な食物が最終的に消費者へ安定供給されることを目指します。それに加え、食品ロスの削減や、個人の嗜好や食材などに応じた健康料理法の提案なども課題とします。日々様々なところで発生、生成される食環境・健康分野のデータを分析して、新たな課題を発見・解決し、持続可能な豊かな食生活と健康を実現していくところに本学科の狙いがあります。

菅谷 加えて、新しい食を生み出すこともデータサイエンスを加えることで可能になると考えています。例えば、美味しいものの多くは食べすぎると早くに健康を害してしまいますが、そうならないような栄養バランスと味を考慮したレシピを AI で導出することも可能になると思います。それらを貴学ブランドで販売すると学校のプロモーションになり希望される学生さんも増えそうですね。

渡邊 とても面白いと思います。我慢せずに食べても、体に良いものを作ることは出来そうです。実現できれば、日本料理だけでなく、中華料理でもフランス料理でも、おいしいものを AI で処理して健康によいように出来ます。新学科では、そういった健康的で持続可能な、新しい技術や社会の枠組みを実装し社会を変革していけると考えています。

—新学科で学ぶ学生に期待すること—

菅谷 冒頭でも触れましたが、人生 100 年時代が実現されつつある現代において次の課題は、いかに健康的に長く生活をしていけるかです。私達の健康を作るのは食や栄養です。これを実現するうえでは持続可能な仕組みづくりが求められ、まさに AI やデータサイエンスが得意とする分野です。食や栄養とデータサイエンスの融合は、これからの社会において必ず強く求められますので、食や栄養とデータサイエンスの両方に精通するスペシャリスト、エキスパートが誕生することを期待しています。

渡邊 そのようなスペシャリスト、エキスパートは確かに生み出していきたいと思えます。別の軸になりますが、本学では現在、トマトの恩返しシリーズというものをやっています。本学に近い響灘菜園さんがトマトをたくさん作っていますが、少しの傷でも売れなくなるために年間 100 トン破棄されています。それをどうにかしようと、“トマトのおんがえしカレー” というものを複数団体連携で作って、売り出しています。こういった、従来は破棄されているような膨大な量の食材に対して、ビッグデータを活用して十分な栄養を接種できる美味しいレシピを作成できる AI を作成できると、破棄される量を削減しつつ健康維持に貢献していけます。

さらに、先に述べましたように、本学では、保育、リハビリ、介護分野の教育研究も行っていますので、これらの分野と食と栄養、データサイエンスの組合せを生み出して、子供から高齢者までの「豊かな食生活と健康」の実現に貢献するような人材が育っていくことを目指します。

あっという間に予定の時間を過ぎてしまいました。本日は、貴重なお時間をさいていただいて、食環境データサイエンス学科新設に向けて、大変、有意義で夢のあるお話をありがとうございました。これからも、よろしく願いいたします。

菅谷 こちらこそ、楽しい時間をありがとうございました。よろしく願いいたします。

令和 5 年度活動記録

1 子ども食堂

**子ども食堂
～本学での活動に至るまでの経緯
過去・現在・未来～**

子ども食堂同好会 顧問

(子ども食堂ネットワーク北九州代表)

公衆栄養学 教授 大村美智子

1. はじめに

日本における「子どもの貧困」は社会問題となり、その対策を総合的に推進するため、2013年6月に「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が制定され、2014年には「子どもの貧困対策に関する大綱」が閣議決定された。大綱には、子どもたちが生まれ育った環境に左右されず、貧困状況にある子どもが健やかに育成され、教育の機会均等を図ることを目指し、全ての子どもたちが夢と希望を持って成長できる社会を実現する旨が記載されている。この閣議決定を受け、無料や安価で共食の機会を提供する子ども食堂が地方公共団体において貧困対策の受け皿の一つとして認知されるようになった。

子ども食堂の名付け親でもある「気まぐれ八百屋だんだんこども食堂」は、法が整備される前年の2012年に東京都大田区で始まり、2014年にNHKで紹介されて「子ども食堂」が全国に広がった。北九州市も2015年から子ども食堂の実施に向けて検討を開始し、議論を重ねた結果、北九州市における子ども食堂は子どもの貧困対策ではなく、「孤食の防止と地域の子どもと大人がコミュニケーションを図りながら安心して過ごすことのできる子どもの居場所」として位置づけられた。

小職は管理栄養士の立場から、2015年より事業に参画し、食の面からの衛生チェックなどを含めたマニュアルや基準となる食品構成などを作成した。2016年から市主導で東部と西部の2か所でモデル事業を開始し、献立指導、調理指導、子どもたちへの食育指導を行った。北九州市での子ども食堂はメディアにも取り上げられ、全国各地からの視察があった。

当初は子どもたちが野菜を食べない、じっと座って食べずに暴れるなど子どもたちの課題に直面したが、毎回片付け終了後に従事者とミーティングを重ね、調理法や盛り付け方などを工夫し、手洗い指導から配膳指導、調理実習、食器洗浄などを取り入れながら食育活動を進めた。その結果、子どもたちが段々と好き嫌いなく食べるようになり、配膳も子どもたちにさせ始めた頃は適当に並べていたが、適切に主食、主菜、副菜、汁を配置できるようになった。小職は子ども食堂の指導支援を2年間実施し、2018年に市を退職して九州栄養福祉大学に入職した。

2. 九州栄養福祉大学における子ども食堂取組

(1) 活動経緯

2019年 「北九州市における子ども食堂の支援に向けた取組に関する協定」

『北九州市』と

『九州栄養福祉大学』、『東筑紫短期大学』

協定締結



2019年 子ども食堂学生部会に本学学生入会

「食でつながるフェスタ in 福岡&北九州子ども食堂学生サミット」

- ・小職、実行委員長として開催に携わる。
- ・本学の学生も参加、発表者として登壇



2020年 子ども食堂ネットワーク北九州の代表となり

「九州沖縄の子ども食堂がつながる研修会 in 北九州」本学で開催

- ・保育学科が託児を担当

2020年(令和2年)2月23日(日)

毎 日 新 聞

各地の子ども食堂 ネットワークを

小倉北で九州沖縄研修会



子ども食堂の事例報告をする鹿児島県の団体

「九州沖縄の子ども食堂がつながる研修会 in 北九州」が22日、小倉北区の九州栄養福祉大学で開かれ、約150人が各地の事例報告などに耳を傾け、情報交換した。

子ども食堂の実践者や支援組織をつなげ、子どもの居場所を増やすのを目的に九州、沖縄の各地で開催。3回目の今回は、北九州市で子ども食堂の実践団体をつなぐ「子ども食堂ネットワーク北九州」(代表者大村美智子同大教授)の主催で各地で子ども食堂の運

11団体・組織 実践例報告

営や支援に取り組み11団体・組織が事例報告した。

鹿児島県の「かごしま子ども食堂・地域食堂ネットワーク」は「(鹿児島県が)南北800キロあるので、すみずみまで顔の見えるネットワークを築くことが大切」とさらなる充実を目標に掲げた。

熊本県の大学構内で運営をする「子どもから地域へ拡がれネットワーク」は「学生は普段の学びを実践に近づけると共に、地域の子供と出会い、地域との連携を学ぶことができる」と成果を伝えた。

NPO法人「全国子ども食堂支援センター・むすびえ」の謝浅誠理事長による講演会もあり、会場は活気に包まれた。【津島中人】

同年 『響灘菜園（株）』と『北九州市社会福祉協議会』、『子ども食堂ネットワーク北九州』、『北九州市』と連携協定締結

- ・響灘菜園（株）から各子ども食堂へ生鮮トマトの寄贈始まる。



2021年 子ども食堂同好会結成

子ども食堂同好会部員、地域の子どもの食堂に参加

コロナ禍で子ども食堂はフードパントリーでの実施、

部員はフードパントリーで食品の配布の手伝いなどに従事

同年 響灘菜園（株）より規格外トマトの利用についてトマトカレーレシピ考案について提案

本学のSDCに依頼“トマトのおんがえしカレー”作成にとりかかる。

2022年 「食でつながるフェスタ in 北九州」

西日本新聞 2022年2月1日

本学で開催

子ども食堂同好会
実行委員となり、
活動報告発表

SDCによる
トマトカレー提供

規格外トマト 新商品に变身

響灘菜園は、規格外のトマトを生かす。地域おこしにつながる商品作りに力を入れる。約1年前から、地元飲食店が発売した土産用ゆかだきの材料として提供を開始。現在は、大学生のサークルと兵団で子ども食堂向けのカレー作りを進めている。

同社は年間約500kgのトマトを栽培するが、夏場などには100kgほどが「日焼け」してしまふ。味は遜色ないが、トマトの酸味を抑えつつ甘みを引き出した。季節の野菜を加えた一皿を目指している。大村代表は、学生が社会との接点を持ち、食品ロスについても考える深い学びにつながる」と歓迎する。

1月末の予定だったお披露目活動の中で、小倉北区の飲食店「ジュル・アンド・コー」と縁が生まれた。

同店には、サバのゆかだきをほぐしてオリーブオイル仕立てにアレンジした人気商品「ゆかだきテイク」がある。同年末にお土産用に瓶詰め製造を始めることになった。店頭や井筒屋本店（同区）で買えるほか、甘る。今後も取り組みを進めた同店のホームページでも注文をい」としている。（古瀬智裕）

受け、人気は上々という。21年には、子ども食堂向けにトマトを使った料理作りを企画。レシピ作成には大村代表が教授を務める九州栄養福祉大（本部・小倉北区）の料理サークルが参加する。メニューをカレーに決めた。学生約10人がアイディアを出し合い試作していた。トマトの酸味は抑えつつ甘みを引き出した。季節の野菜を加えた一皿を目指している。大村代表は、学生が社会との接点を持ち、食品ロスについても考える深い学びにつながる」と歓迎する。

1月末の予定だったお披露目活動の中で、小倉北区の飲食店「ジュル・アンド・コー」と縁が生まれた。

同店には、サバのゆかだきをほぐしてオリーブオイル仕立てにアレンジした人気商品「ゆかだきテイク」がある。同年末にお土産用に瓶詰め製造を始めることになった。店頭や井筒屋本店（同区）で買えるほか、甘る。今後も取り組みを進めた同店のホームページでも注文をい」としている。（古瀬智裕）

(2) 学生参加の子ども食堂会場

毎月参加

- ・八幡西区「ハっちゃん家」、
- ・八幡東区「元気もりもり食堂」
- ・小倉北区「いっしょに」

不定期参加

- ・小倉北区「キラキラ清水」「日明けんきもりもりハウス」「あしはらピッコロ」
- ・戸畑区「ウェルカム食堂」
- ・若松区「くれかキッチン」
- ・小倉南区「こあらのおうち」

(3) 「子ども食堂」での支援

2022年 北九州一市民より子ども食堂の開設相談があり、

まず、市民センターの館長に相談して地域の方々に協力してもらうことなど助言する。

2023年 市民センターで子ども食堂開始、

立ち上げから子ども食堂同好会学生協力体制

初めて来るこどもたちに

初めて子ども食堂に参加した学生

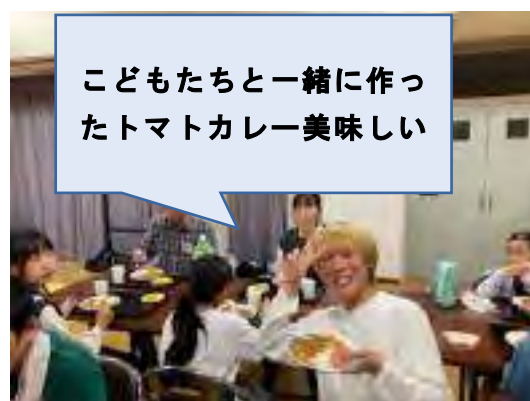
お互い戸惑いながらも手探りで開始。



2023年5月から現在まで毎月本学学生交代で参加

のべ60名参加

響灘菜園（株）さんからいただいた冷凍トマトを使ったトマトカレーの調理実習



3 子ども食堂における食育の効果について（公衆栄養学ゼミでの活動）

【目的】

児童の今後の食生活の改善につなげるための方策として、食育を通して、食に関する知識の習得、野菜摂取量の増加をはかる。

【方法】

毎月開催されている子ども食堂に継続的に参加している児童 11 名、市民センターで行われた食育講座の参加者 7 名の年間通しての計 18 名を対象とし、令和 4 年 6 月から 10 月までの期間で食教育を行った。評価方法として、ゼミで考案したアンケートを用いて自記式調査を初回、終回で実施した。実施形態の異なった 2 施設での評価をみることで、効果的な食育方法について検討した。

【結果】

食に関する知識や、苦手なものを食するかななどの食習慣において、食育前の 1 回目と比較して、食育後では点数が上がっていた。

《食育における効果を比較検証》

- ・遊びの中での食育（子ども食堂）、食育講座（市民センター）

子ども食堂



食育講座



	好きなもの			苦手なもの		
	全国	食育講座	子ども食堂	全国	食育講座	子ども食堂
1位	トマト	玉ねぎ	肉	ピーマン	ピーマン	ピーマン
2位	きゅうり	肉	フルーツ	なす	ほうれん草 なす	人参
3位	じゃがいも	人参	じゃがいも	きのこ	きのこ	玉ねぎ きのこ

苦手な理由の比較

	全国	食育講座	子ども食堂
1位	におい	味	味
2位	食感	食感	食感
3位	味	なし	におい



上記の結果を参考に、今後の子ども食堂における子どもの好き嫌いに対して献立作成時の対応ができる。

なお、食育講座の中で子どもの嫌いなピーマンを餃子や焼きうどんの中に使用したが残す児童はなく、完食していた。味や食感、においが全部消されていた成果と考える。

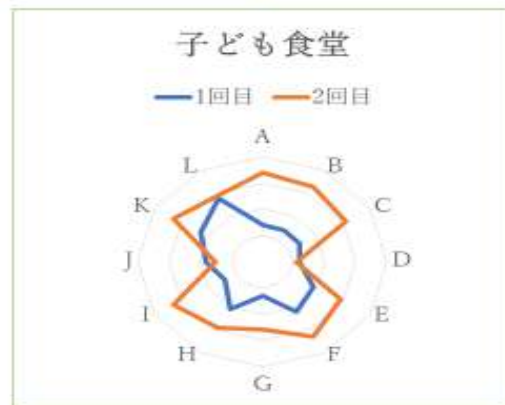


結果

知識の習得

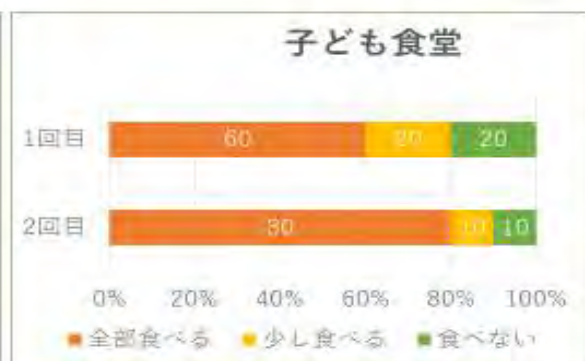
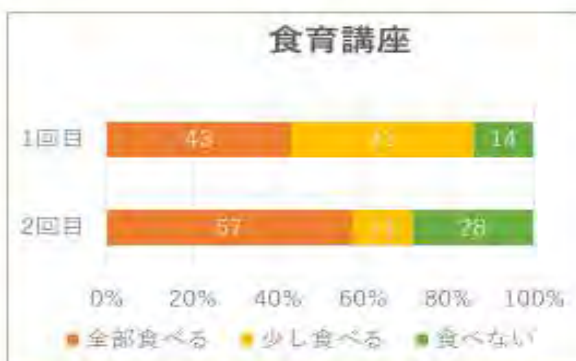


改善した



改善した

家で苦手なものが出たときの比較



【考察および結論】

食に興味のある児童を募って短期集中型の講義、調理実習を行ったのに対して、子ども食堂では内容を細かく分けて長期間に及ぶ講義のみの食育を行ったことが、食育講座で点数の伸びが大きかった原因として挙げられる。

- ・子ども食堂でも点数の伸びがよかった児童は、食品カードを用いた遊びのなかで自然と食に関する学習ができていた。

- ・学習方法としては、短期集中型の講義や児童の経験となる調理実習を取り入れること、子ども食堂のように遊びの中に学習を取り入れることが効果的な食育につながると考える。

4 今後の子ども食堂への取組について

学生が毎月定例で参加している子ども食堂も1年が経過し、次年度はより組織だった食育活動ができるようにしていきたいと考えている。子ども食堂が17時から開始のため、5限授業がない学生と年度当初に食育計画を立て夏期休暇に調理実習を導入するなどの取組を進めていきたい。

同時に地域の独居高齢者などにも声をかけ、学生が支援者となり、子どもと高齢者が一緒に調理から片付けまで協力して行うことで実践的な多世代交流の食育活動ができると考えている。

2 地域企業との連携と商品開発

- 1 【響灘菜園】とコラボしたトマトの恩返しカレーと恩返しサブレの開発
- 2 北九州のお弁当屋さん「丸ふじ」とコラボした世界水泳でのスポーツ弁当の作製と販売



九州栄養福祉大学・食物栄養学部の取り組み 「トマトのおんがえしシリーズ化にむけて」



九州栄養福祉大学食物栄養学部では、管理栄養士の国家資格を取得にむけての勉強だけでなく、4年間を通して、規格外トマトのような食に関する社会問題の解決を行うことや、地元の企業さんとコラボして、学生が考案したメニューを販売することで、「挑戦する力」「課題解決能力」「コミュニケーション能力」「関係を構築する力」を磨くことができます。

令和7年度には、1号館をリノベーションして地域連携室の中に食スタジオを入れることで、地域の食の相談窓口・子ども食堂としての活動を行い、学生時代から、たくさんの生きた経験をつめ、社会で活躍できる管理栄養士を育てています。

トマトのおんがえしシリーズ第2弾！！

トマトのおんがえしサブレハ

北九州市立高校と商品開発中！！

九栄大×北九州市立高校×ネジチョコの会社とコラボして、響灘菜園の規格外トマトを使用した、トマトカレーに続く第2弾として、サブレを商品開発中です。



規格外トマトで子ども食堂支援



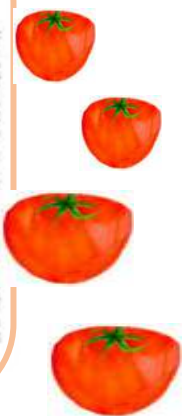
令和5年6月9日 読売新聞掲載

規格外トマトでカレー

九州栄養福祉大と西工大



令和5年5月30日 西日本新聞掲載



ファティィ新店で販売スタート 規格外トマトを活用した「トマトのおんがえしカレー」 8PR



キタキュースタイルさんでは、商品開発から販売まで取材していただきました！



令和5年6月14日 西日本新聞meファンファン福岡掲載



学生の思いが詰まった
トマトのおんがえしカレー
北九州のスーパーで販売中
です！

響灘菜園では、100tの廃棄トマトが生まれます！ 九州栄養福祉大学学生がSDGsトマトカレーを作り 北九州市の子ども食堂に届けます！

【企画の主旨】

響灘菜園にて毎年発生する"100tのC品トマト"を、**冷凍保存** → **レトルカレー** → **家庭・子ども食堂等での備蓄食**へ、活用することで、食品ロス削減・調理体験支援防災意識の向上を同時に進めていきたい。

1.響灘菜園について

大型生産・販売企業（8.5ha栽培、従業員160~200名、保育園併設）



2.北九州市・NPO法人との取組

2020年8月
北九州市と子ども食堂支援に関する協定を締結

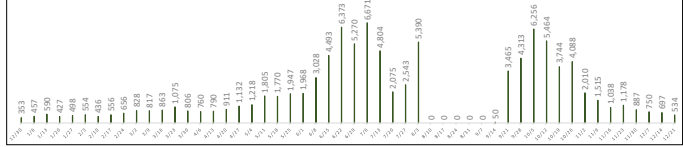


※販売できないトマト（C品）

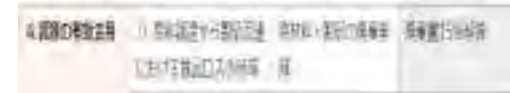


3.響灘菜園の生鮮トマトロス

・年間2,500tの販売用トマトを生産する一方、販売できないトマトが100t発生。
・一部は、従業員にて家庭内消費しているが、大部分は一般ゴミとして廃棄。



※カゴメ環境マネジメント3か年計画には、廃棄量の15%削減が明記。
※週に、50~6,671kgの販売できないC品トマトが発生



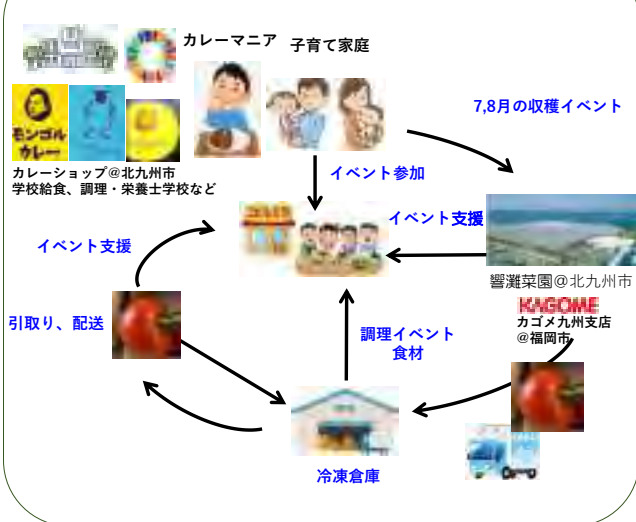
冷凍C品トマトをたっぷり使用した
トマトカレーを子ども食堂イベントや大学祭などで提供

4.イベントに向けた取組

・週50kg以上発生する生鮮トマトを冷凍保管しレトルトカレーの作成
・各カラーショップが作る「**トマトの恩返しカレー**」の販売（消費）を促進する。



5.継続的な食品ロスへの取組



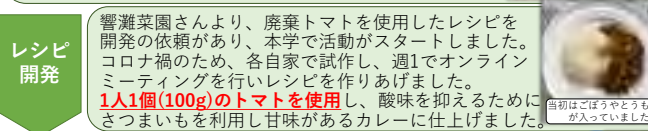
九州栄養福祉大学 サークル活動紹介 SDGsトマトカレー商品化への道のり

北九州市の大学・企業とコラボしています！



～トマトカレーの概要～

年間100トンの廃棄トマトを使用して、カレーの開発に取り組みました。北九州市の大学・企業が協力して開発されたトマトカレーはレトルト化され、市内の子ども食堂で提供されます。さらに商品化も目指しており、年末に北橋市長にお披露目してきました。



子どもたちへ喫食名前選定

完成したトマトカレーは、食でつながるフェスタや出張!!子ども食堂で、実際に子どもたちに食べてもらいました。子どもたちから大好評で、「おいしい」「トマト嫌いだけど食べた」という声も数多く上がりました。本学と西工大の大学祭で、たくさんの方にカレーを提供し、トマトカレーの名前候補の中から一つ選んでもらい、廃棄されるはずのトマトが活用されることから「**トマトの恩返しカレー**」と命名されました。

市長にお披露目商品化

西工大や企業さんと打ち合わせを何回も行い、パッケージのデザインが決められました。北橋市長に「**トマトの恩返しカレー**」を試食してもらい、お墨付きを頂きました。今後は北九州市の子ども食堂で提供し、今年の春、販売開始の予定です。

トマトカレーレシピ

トマトにはリコピン豊富でビタミンもたっぷり！

☆材料(1人前)

冷凍トマト	100g	・トマトケチャップ	1g
・合い挽き肉	30g	・旨口醤油	1g
・にんにく	1g	・中濃ソース	1g
・さつまいも	30g	・水	30g
・人参	10g	・ローリエ	1/6枚
・しょうが	1g	・サラダ油	1g
・玉ねぎ	30g	・はちみつ	2.5g
・しめじ	10g	・ドライパセリ	0.3g
・カレールウ(甘口)	11g		
・カレールウ(中辛)	4g		

☆作り方

ステップ1 材料をカット！

- しょうが・にんにく・人参・玉ねぎはみじん切りにする。
- さつまいもは土を落とし、皮ごと1cm角程度に切る。
- しめじは軸を落として、1cmくらいに切る。
- 冷凍トマトは1cm角のざく切りに切る。

ステップ2 炒める！

- フライパンにサラダ油をひき、しょうがとにんにくを入れ、香りが出るまで炒めた後、玉ねぎを加えて炒める。色が変わってきたら、ひき肉を加えて炒める。
- ひき肉に軽く焼き色が付いたら、ローリエを加えてしっかり炒め、人参、しめじを加えて火を通す。
- トマトを潰しながら加え、炒め煮する。煮立ってきたら水を入れて中火で煮込む。時々アクを取る。さつまいもを加える。

ステップ3 味付け！

- さつまいもと人参に火が通ったことを確認して、一度火を止め、カレールウを加えかき混ぜる。10分程度弱火で煮込む。
- 最後にケチャップ、旨口醤油、中濃ソース、はちみつを加える。

九州栄養福祉大学のインスタグラムです！ぜひ、のぞいてみてください！

九州栄養福祉大学 × 丸ふじ

世界水泳FUKUOKA2023 コラボ弁当！ World Aquatics Championships Fukuoka 2023

Lunch Box collaborated with Marufuji

九州栄養福祉大学でスポーツ栄養学を学んでいる学生と、北九州の弁当屋の丸ふじがコラボして、ホームラン弁当、世界体操に続き今回も一緒に弁当を作りました。日本の『和食』が2013年ユネスコの人類の無形文化遺産にも登録されていますので、郷土料理を取り入れ、栄養面や彩りにも工夫をこらし、海外の方も多く来られるため、動物性食品を使用しないベジタリアンに対応した弁当も作りました！！

最強×西京弁当



丸ふじの看板商品のかしわめしと、日本の伝統調味料の味噌を使用した西京焼きを入れたお弁当です。日本の食材や、福岡の郷土料理がたくさん入っています！スポーツ選手に必要なタンパク質やビタミンも摂ることができます！



スポーツ弁当 ×ベジタリアン



海外の方がたくさん来られるためベジタリアン対応の弁当を作りました！たんぱく質源として、日本の伝統食品と大豆が原料で作られている高野豆腐をカツにしました。また、大豆ミートのミートボールも入っています。ベジタリアンの方にも安心して食べて頂ける弁当を作りました！



3 北九州市との連携

北九州市役所との連携

北九州市委託事業

「若い世代の食育推進事業」の取組について

2019年度から

2023年度に至るまで

公衆栄養学 教授 大村美智子

北九州市委託事業「若い世代の食育推進事業」の取組について

2019年から（2020年は新型コロナウイルスの影響により中止）2023年までの4年間、北九州市保健福祉局より依頼を受けた「若い世代の食育推進事業」の受諾内容について報告する。

1. 背景

生活習慣病発症には食習慣が深く関与する。青年期は他の世代に比べて、食に対する関心や意識が低い、緑黄色野菜の摂取量が少ない、朝食欠食が多い等、食に関する課題が多い。

2. 目的

若い世代が自身や周囲の食に関する課題を見つけ、改善に向けた啓発活動を行うことで、青年期、特に無関心層の食・健康への関心を高める。また、啓発活動実施を通して、食育推進関係者のネットワークを構築する。

3. 事業内容

(1) 2019年

北九州市役所の職員食堂にて若い働き世代の職員に聞き取り調査を行い、その調査結果より課題に応じた啓発用のカードを各学生が作成し、市役所地階食堂や本学学食に設置し、普及啓発活動を行った。 下記例



地階食堂にホップを設置、また学食にも設置

(2) 2021 年

「減塩食品」についての市内の販売状況を把握するとともに、若い世代への「減塩食品」に関する情報や活用方法について検討。

ア. 減塩食品販売状況調査（市内スーパー20店舗）

学生が自分でスーパーマーケットに事前に電話をかけ、減塩食品について調査する旨を伝え、了承を得て下記内容について調査を実施する。

交渉力など含め、減塩食品がどのように陳列され、どれほどの減塩食品があるかなど学内では学べない貴重な体験活動となった。市からの委託内容は下記の様式にて20店舗、調査することであった。

1店舗につき2名体制で40名の学生が調査にあたった。

令和3年度 若い世代の食育推進										
市内スーパーにおける「減塩食品」取扱い状況調査【記入例】										
店名	品目	販売の有無	店舗住所	商品名 (代表的なもの数点)	減塩率	販売価格	品目ごとの減塩食品取扱割合	備考		
								POPなどの広	配置	その他
調味料	【記入例】	有		〇〇しょうゆ	30%	通常品より安い		有	通常の商品と同様 (手に取りやすい)	
	濃い口しょうゆ			△△しょうゆ	20%	通常品と同程度				
	濃い口しょうゆ	有		キッコーマン待選丸大豆減塩しょうゆ	50%	通常品と同程度	約4~5割	無	食卓用、単身世帯でも使いやすいもの、大容量とそろっており、手取りやすい	23品中 9品 (大まかな見立て)
				ヤマサ有機丸大豆減塩しょうゆ	50%	通常品と同程度				
	薄口しょうゆ	無								
	つゆ	有		フドーキン減塩ひかえめ白だし	25%	通常品と同程度	約2~3割	無	列の真ん中に配置しており手取りやすい	
				ニビシ減塩ゆずポン酢	40%	通常品より高い				
				ヤマキ減塩だしつゆ	50%	通常品と同程度				
	みそ	有		マルコメ料亭の味減塩	20%	通常品と同程度	1割以下	無	減塩商品が少なくやや目につきにくい	
顆粒・固形だ	有		味の素丸鶏がらスープ塩分ひかえめ	40%	通常品と同程度	約4~5割	有	POP表示され目につきやすい		
			ヒガシマル減塩うどんスープ	30%	通常品と同程度					

例えばしょうゆ売り場全体の商品が10点あった場合、3点くらいが減塩されたものであれば2~3割
目につきやすい・手取りやすい等

学生が調査を行った一例 他19店舗

市内スーパーにおける「減塩食品」取り扱い状況調査							
	Yu スーパー		店舗住所	北九州市小倉南区〇〇			
	品目	販売	商品	減塩率	販売価格	減塩食品割合	配置
調味料	濃口醤油	有	マルエ減塩醤油	50%	高い	2割	通常の商品と同様
			キッコーマン減塩醤油	50%	同じ		
			キッコーマン特選丸大豆減塩醤油	50%	高い		
			キッコーマン大豆ペプチド減塩醤油	50%	高い		
			キッコーマン 新鮮超減塩醤油	66%	高い		
			キッコーマン 味わいリッチ減塩醤油 (200ml・450ml)	40%	同じ		
			松中醤油 うす塩醤油	25%	同じ		
			フジシン 醤油	50%	同じ		
	くらしらく 特級減塩醤油	50%	同じ				
	みそ	有	フジシン 夜明け減塩合わせみそ	15%	高い	3割	通常の商品と同様
			タニタ 減塩味噌	20%	同じ		
			フンドーキン 生活無添加減塩合わせ	20%	同じ		
			マルエ 国産原料無添加減塩味噌	15%	同じ		
マルエ 減塩みそ合わせ麴			50%	同じ			
ニビシ 里ごころ超減塩合わせみそ			70%	高い			
減塩合わせこうじ合わせみそ				同じ			
顆粒・固形だし	有	東丸減塩うどんスープ	30%	同じ	1割以下	通常の商品と同様	
		味の素 コンソメ塩分控えめ	40%	高い			
食塩	有	赤穂ソルト お塩で減塩	50%	同じ	1割以下	手に取りやすい	
梅干し・佃煮	梅干し	有	神尾食品 おいしく減塩	1.5%	高い	1割	通常の商品と同様
			中田 おいしく減塩しそ	3g	同じ		
	ふりかけ	有	永谷園 減塩ごましお	25%	同じ	1割	通常の商品と同様
畜産加工品	ハム	有	丸大食品うす塩キザミハム	30%	高い	3割	POP表示され、目につきやすい
			伊藤ハム フレロース	25%	同じ		
			うす塩ロースハム	30%	高い		
	ベーコン	有	伊藤ハム フレベーコン	25%	同じ	2割	POP表示され、目につきやすい
			うす塩ベーコン	30%	高い		
チーズ	有	雪印メグミルク 6P チーズ 25%カット	25%	同じ	1割以下	通常の商品と同様	
菓子類	菓子	有	減塩亀田の柿の種	30%	同じ	1割以下	通常の商品と同様



イ.「減塩食品」活用レシピ (18品)



以下 4品掲載他16品

店舗で調査した減塩食品を使用したレシピ

令和3年度 若い世代の食育推進事業												
「減塩食品」活用レシピ紹介シート レイアウト案												
メニュー名	豚肉の生姜焼き											
材料	<table border="1"> <tr> <td>豚肉・・・50g</td> <td rowspan="8">材料の写真 </td> </tr> <tr> <td>トマト・・・15g</td> </tr> <tr> <td>キャベツ・・・30g</td> </tr> <tr> <td>すりおろししょうが・・・5g</td> </tr> <tr> <td>砂糖・・・1g</td> </tr> <tr> <td>酒・・・2g</td> </tr> <tr> <td>減塩醤油・・・5g</td> </tr> <tr> <td>みりん・・・5g</td> </tr> <tr> <td>サラダ油・・・3g</td> <td></td> </tr> </table>	豚肉・・・50g	材料の写真 	トマト・・・15g	キャベツ・・・30g	すりおろししょうが・・・5g	砂糖・・・1g	酒・・・2g	減塩醤油・・・5g	みりん・・・5g	サラダ油・・・3g	
豚肉・・・50g	材料の写真 											
トマト・・・15g												
キャベツ・・・30g												
すりおろししょうが・・・5g												
砂糖・・・1g												
酒・・・2g												
減塩醤油・・・5g												
みりん・・・5g												
サラダ油・・・3g												
作り方	<p>①フライパンにサラダ油を入れ、豚肉を入れる。火が通るまで焼く。</p> <p>②調味料をすべて混ぜておき、①に回しかける。少し煮詰め全体に絡んだら完成。</p> <p>④キャベツは千切りにする。</p> <p>③お皿に盛り、千切りキャベツとトマトを添える。</p>											
	できあがり写真 											
栄養価	エネルギー：191kcal、たんぱく質：9.6g、脂質：12.7g、炭水化物：7.4g、食塩相当量：0.5g (普通の醤油を使用した場合 食塩相当量：0.8g)											
感想	豚肉の生姜焼きはご家庭でも馴染みのある料理だと思うため気軽に作ることができると思った。 減塩醤油にすることで塩分量を減らすことができたが、味はおいしく食べることができた。											

「減塩食品」活用レシピ紹介シート レイアウト案

メニュー名	鶏むね肉の味噌マヨオイル焼き		
材料	鶏むね肉(皮なし) 70g 酒 5g しめじ 20g 小ネギ 4g 人参 10g 減塩みそ 5g マヨネーズ 12g かぼす 20g 一味唐辛子 0.2g	材料の写真	
作り方			
	①そぎ切りした鶏むね肉に酒を振りかける。 ②小ねぎは4cmの長さに、人参は長さ4cmの薄切りにする。 ③アルミホイルに①、②、しめじを並べる。 ④減塩味噌、マヨネーズ、かぼす、一味唐辛子を混ぜ合わせ③にかけて包む。 ⑤フライパンに少量の水と④を入れ蓋をし、中火で15分焼く。		
		できあがり写真	
栄養価	エネルギー：199kcal たんぱく質：19.2g 脂質：10.8g 炭水化物：5.7g 食塩相当量：0.9g (普通の味噌を使用した場合 食塩1.0g)		
感想	鶏肉を魚に変更したり、かぼすをレモンに変更したりと具材のアレンジがたくさんできると思った。 また、かぼすのアクセントが効いていて、塩分が少なくても美味しく食べられた。		

令和3年度 若い世代の食育推進事業 「減塩食品」活用レシピ紹介シート レイアウト案	
メニュー名	きのこことベーコンの和風パスタ
材料	<p>材料の写真</p>  <p>パスタ・・・80g オリーブ油・・・3g しめじ・・・40g 塩・・・少々 しいたけ・・・30g バター・・・3g 玉ねぎ・・・50g 減塩醤油・・・大さじ1 減塩ベーコン・・・30g 細ねぎ・・・お好みで 刻みのり・・・お好みで ニンニク・・・3g</p>
作り方	<p>できあがり写真</p>  <p>1. 鍋にお湯が沸騰したら塩とスパゲティを入れて、パッケージの表記通りに茹で、湯を切る。 ゆで汁を大さじ2残しておく。 2. しめじは石づきを切り落とし、手で割く。 しいたけは石づきを切り落とし、薄切りにする。 3. 玉ねぎは薄切りに、ベーコンは1cm幅に切る。 4. 中火で熱したフライパンにオリーブ油を入れニンニクを入れ香りが出るまで炒める。 5. フライパンに3、4を加え炒める。 6. きのがしんなりしたらバター、しょうゆ、パスタのゆで汁を加えて中火で炒め合わせ、塩で味を調える。 7. パスタを加え、よく絡ませる。 8. 器に盛り付け、細ねぎ、刻みのりをちりばめて完成。</p>
栄養価	エネルギー：517kcal たんぱく質：19.8g 脂質：17.5g 炭水化物：70.7g カルシウム：125.7mg 鉄：1.5mg 食塩相当量：2.3g (普通の醤油を使用した場合 食塩相当量：3.1g)
感想	今回は、減塩醤油と減塩ベーコンを使用しました。 きのこのうま味が出ておいしく仕上がっています。調味料も少なく家庭にある食材で出来ます。

令和3年度 若い世代の食育推進事業 「減塩食品」活用レシピ紹介シート レイアウト案	
メニュー名	減塩カレー混ぜうどん
材料	<p>材料の写真</p>  <p>食塩0糖 1袋 青ネギ 1g 鶏ひき肉 50g 片栗粉 10g 玉ねぎ 30g 水 10g ビーマン 30g 人参 20g 塩 1g サラダ油 5g 生薬チューブ 3g カレー粉 3g</p>
作り方	<p>できあがり写真</p>  <p>1. うどん麺は茹でる 2. ビーマンと人参は5mm幅の角切り、玉ねぎはみじん切りにする 3. 油をひいたフライパンに鶏肉を炒めて色が変わったら玉ねぎを入れて透明になるまで炒める。 4. ビーマンと人参を入れて柔らかくなってきたら調味料をすべて入れて炒める 5. 水溶き片栗粉を加えて火を止める 6. うどん麺を5等分ぐらいに切る 7. 切ったうどん麺の上に5を盛せて、青ネギを散らす</p>
栄養価	エネルギー 421kcal・タンパク質 5.2g・脂質 12.3g・炭水化物 59.5g・ビタミンC 27mg・食塩 1.1g
感想	カレー粉や生薬の香辛料を使用して減塩を目指しました。試作で作成したレシピの反省を生かして具にとろみをつけ、麺を短くすることで混ぜやすくなり具と麺も絡まりやすくなりました。麺類は半分摂取が多くなるので、気にせず食べられるレシピを作成したいと思いレシピを考えました。具の部分は麺だけでなく、ご飯や豆類の上にかけても美味しいと思いました。

(3) 2022年

「健康日本21（第二次）」や「第4次食育推進基本計画」で掲げられている減塩や野菜摂取増量に向けた取り組みを若い世代の視点で行った。

「減塩食品」に関する情報や活用方法について検討し、また、野菜摂取量について幼少期からの取組（食習慣）が重要であることより、効果的な教室のあり方について検討を行った。

ア啓発資料の検討/作成


2022年度は減塩ガイドブックを作成するという目標達成のため、昨年に引き続き減塩食品活用レシピの考案を行いレシピ数を増やした。

① 「減塩食品」活用レシピ (14品)



以下3品、他11品

令和4年度 若い世代の食育推進事業

「減塩食品」活用レシピ紹介シート レイアウト案

メニュー名		筑前煮	
材料	<ul style="list-style-type: none"> ・鶏もも(皮あり) 50g ・ごぼう 20g ・たけのこ 20g ・こんにゃく 20g ・れんこん 20g ・にんじん 20g ・干しいたけ 2g ・さやいんげん 10g ・油 3g ・ほんだし(減塩) 0.5g ・水 60ml ・砂糖 2g ・しょうゆ(減塩) 10g ・酒 2g 	材料の写真	
作り方	<p>①ごぼう、れんこん、人参、タケノコを乱切りにする。れんこんとごぼうは酢を少量入れた水に浸す。</p> <p>②干しいたけは水につけて戻し、軸を除いて乱切りにする。</p> <p>③さやいんげんは筋を除いて茹で、斜めに切る。</p> <p>④こんにゃくは一口大に切る。</p> <p>⑤鍋に油を熱し、水気を切ったごぼうとれんこん、鶏肉、たけのこ、こんにゃく、しいたけを入れて炒める。</p> <p>⑥油が回ったらだし汁を加え、落とし蓋をして10分煮る。</p> <p>⑦調味料Aを加え、野菜がやわらかくなるまで煮て、さやえんどうを加えて水分が飛ぶまで煮る。</p>	<p>できあがり</p> 	
栄養価	エネルギー：186kcal、たんぱく質：11.0g、脂質：9.8g、食塩相当量：1.0g (減塩調味料を使用しない場合：1.4g)		
感想	・水分が飛ぶまで煮たので、減塩調味料を使用しても味がしっかり味をつけることができた。		

令和4年度 若い世代の食育推進事業

メニュー名		トマトケチャップの減塩酢豚	
材料		材料の写真	
<1人分> ・豚ロース…70g ・片栗粉…大さじ1/2 ・ピーマン…1個 ・玉ねぎ…1/4個 ・パプリカ…1/4個 ・しいたけ…1個 ・油…大さじ1/2 ・減塩ケチャップ…大さじ1と1/2 ・しょうゆ…小さじ1/2 ・酢…小さじ1			
作り方			
1. 豚肉を2cm角に切り、片栗粉をまぶす。 2. ピーマンとパプリカを食べやすい大きさに切る。 玉ねぎはくし切り、しいたけは石づきを取って薄く切る。 3. 分量のケチャップ、しょうゆ、酢を合わせておく。 4. フライパンを温めて油をひき、豚肉を加える。肉に火が通ったら玉ねぎ、パプリカ、ピーマン、しいたけを加えてさらに炒める。 5. 野菜がしんなりしてきたら、合わせておいた調味料を加えて30秒ほど炒める。			
栄養価	エネルギー：293kcal たんぱく質：15.5g 脂質：18.6g 炭水化物：15.2g	カルシウム：16mg 鉄：0.7g 食塩相当量：0.9g (普通のケチャップを使った場合から0.4g減塩)	
感想	野菜がしっかり摂れて、ケチャップや酢の酸味でさっぱり食べられる1品。材料をカットして炒めるだけの手順であり、一人暮らしの人でも簡単に作る事ができる。 自宅にある野菜やきのこを追加で加えても美味しいだろうと思った。		

令和4年度 若い世代の食育推進事業

メニュー名		ざくろ豆腐																																	
材料		材料の写真																																	
<table border="0"> <tr> <td>・木綿豆腐</td> <td>50g</td> <td>・塩(減塩)</td> <td>0.5g</td> <td rowspan="2">A</td> </tr> <tr> <td>・ぎんなん</td> <td>3g (1~2粒)</td> <td>・片栗粉</td> <td>1g</td> </tr> <tr> <td>・エビ</td> <td>10g</td> <td>・みりん</td> <td>1g</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>・さやいんげん</td> <td>5g</td> <td>・しょうゆ(減塩)</td> <td>1g</td> </tr> <tr> <td>・花麩</td> <td>2g</td> <td>・塩(減塩)</td> <td>0.3g</td> </tr> <tr> <td>・片栗粉</td> <td>1g</td> <td>・ほんだし(減塩)</td> <td>0.5g</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・水</td> <td>30ml</td> <td></td> </tr> </table>		・木綿豆腐	50g	・塩(減塩)	0.5g	A	・ぎんなん	3g (1~2粒)	・片栗粉	1g	・エビ	10g	・みりん	1g	B	・さやいんげん	5g	・しょうゆ(減塩)	1g	・花麩	2g	・塩(減塩)	0.3g	・片栗粉	1g	・ほんだし(減塩)	0.5g				・水	30ml			
・木綿豆腐	50g	・塩(減塩)	0.5g	A																															
・ぎんなん	3g (1~2粒)	・片栗粉	1g																																
・エビ	10g	・みりん	1g	B																															
・さやいんげん	5g	・しょうゆ(減塩)	1g																																
・花麩	2g	・塩(減塩)	0.3g																																
・片栗粉	1g	・ほんだし(減塩)	0.5g																																
		・水	30ml																																
作り方																																			
①豆腐は軽く重しをして水気をきる。 ②えびは殻、背わたを取り除き、細かいみじん切りにする。 ③ぎんなんはゆでて薄皮を取り、細かいみじん切りにする。 ④すり鉢に①を入れてすりつぶす。さらに調味料Aを加えて混ぜる。 ⑤湯のみや茶碗などにラップを敷き、④を入れ、②と③をのせ、四方からラップを掴まんで、ゴムでしばる。 ⑥蒸気のあがった蒸し器に⑤を入れ、5~6分蒸す。 冷めたらラップをはずす。 ⑦つけ合わせのさやいんげんは筋を取り、よくゆでる。 花麩は湯通しする。 ⑧あんを作る。Bを煮立て、水溶性片栗粉でとろみをつける。 ⑨器に⑥、⑦を盛り、⑧のあんをかける。																																			
栄養価	エネルギー：105kcal、たんぱく質：9.4g、脂質：4.6g、食塩相当量：0.6g (減塩調味料を使用しない場合：1.1g)																																		
感想	・片栗粉でとろみをつけているので、減塩調味料でもしっかり味がした。 ・見た目が良いので、おもてなし料理にも最適だと思った。																																		



編集後記

当ガイドブックの14のレシピは、北九州市栄養士おすすめ減塩レシピの他に、九州栄養福祉大学の栄養学科の学生さんが考案した「減塩食品を使ったレシピ」を掲載しています。

このガイドブックがみなさんの健康づくりにお役立ていただければ幸いです。



「減塩ガイドブック」普及啓発活動

減塩ガイドブック配布による普及啓発

日時	場所	内容	対象	人数
11月3日、4日	本学	大学祭	来場者	420
11月9日、10日	西日本総合展示場	北九州ゆめ未来ワーク2022	来場者	370
11月22日	本学	キャリア	4学年	85
11月24日			1学年	100
11月25日			3学年	95
11月30日			2学年	103
11月22日	丹過市場	街頭活動	市民	75
12月1日	響灘菜園社員食堂			50
合計				1298



(3) 2023年

令和4年度北九州市健康づくり及び食育に関する実態調査結果等より、20～30歳代の食生活の状況について、確認し、その背景にあるものの考察を行い、課題解決に向けて、若い世代への啓発の取組を行った。

食生活の課題に向けた目標：減塩、野菜摂取量の増量

① 20～30歳代の食に関する課題の分析

《分析結果》：朝食欠食、野菜の摂取不足

② 20歳代への課題解決に向けて食生活アンケートの内容の検討

《アンケート内容》

朝食欠食・喫食頻度・食べない理由・情報の入手方法

野菜摂取不足・喫食頻度・食べない理由、どうすれば食べたくなるか

③ アンケート結果の分析・課題の抽出

《アンケート結果》

朝食欠食・一人暮らしが家族と同居の2倍多かった

欠食理由①時間に余裕がない②忙しい③面倒

野菜の摂取不足

頻度が少ない理由①下処理が面倒 ②値段が高い ③食べる時間がない

情報の入手方法・・・①SNS ②テレビ ③知人

④ 課題解決に向けた取組

野菜 ・ 下処理が面倒くさい人

・ 一人暮らしの人は使い切る前に腐らせてしまう

→冷凍食品の必要性（冷凍食品はスーパーにもコンビニにもあり、美味しい）

朝食を食べない人は過半数が時間が無い

→時短レシピの必要生

冷凍野菜・カット野菜で下処理、加熱、調理を短縮出来る

⇒朝食の摂取頻度や野菜の摂取頻度の向上が期待できる

⑤ 冷凍食品、カット野菜を使用した時短レシピの開発

5分で出来る和食献立



冷凍野菜を使った洋食献立



⑥ 減塩について

1) 塩分チェックシートを活用して年代別の特徴を探る。

汁物や肉類の加工食など、男性が多い傾向がある。また全体的に魚介の加工食品を食べる頻度が少ない。汁物は全体的に食べる人が多く、麺類の汁を飲む人は男性が多く摂取している。

調味料をかける頻度に関しては、外食を多くする高齢者以外の年代が多く、家庭の味も外食と比べて似ている傾向がある。

全体を通して塩分量を気にしている人の多い高齢者や、栄養管理や指導の勉強を行っている大食の生徒は塩分摂取量が低い傾向にある。

世代別塩分チェックシート結果

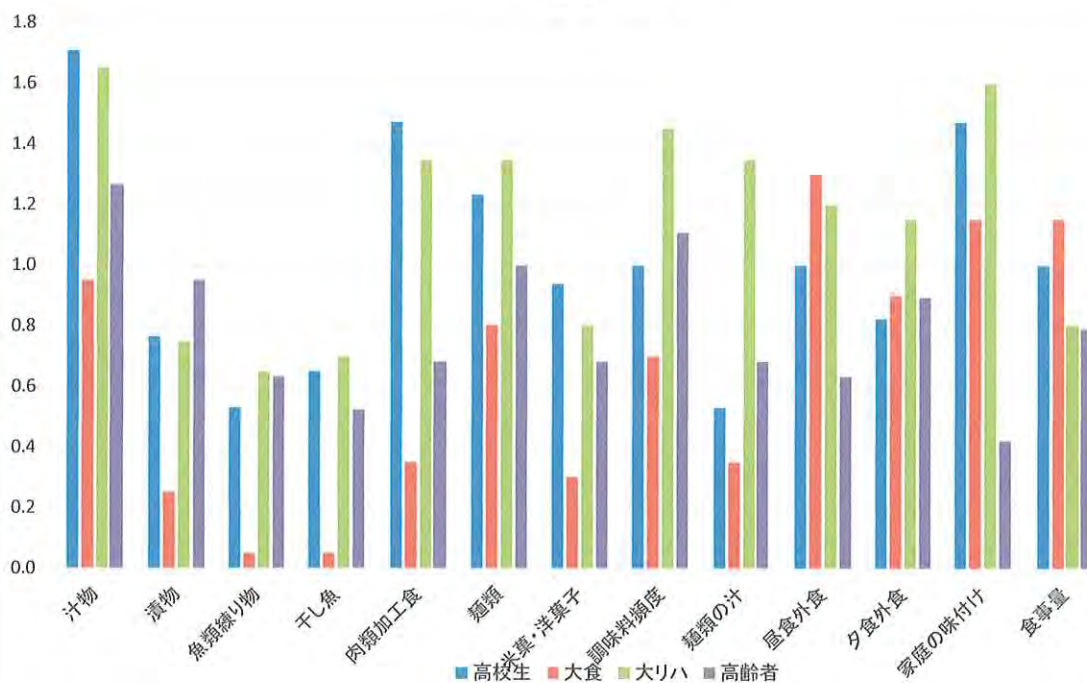
	汁物	漬物	魚類練り物	干し魚	肉類加工食	麺類	米菓・洋菓子	調味料頻度	麺類の汁	昼食外食	夕食外食	家庭の味付け	食事量
高校生	1.7	0.8	0.5	0.6	1.5	1.2	0.9	1.0	0.5	1.0	0.8	1.5	1.0
大食	1.0	0.3	0.1	0.1	0.4	0.8	0.3	0.7	0.4	1.3	0.9	1.2	1.2
大リハ	1.7	0.8	0.7	0.7	1.4	1.4	0.8	1.5	1.4	1.2	1.2	1.6	0.8
高齢者	1.3	0.9	0.6	0.5	0.7	1.0	0.7	1.1	0.7	0.6	0.9	0.4	0.8

大食： 大学食物栄養学部・比率として女性が多い

大リハ： 大学リハビリ学部・男性が多い

- 1.汁物を飲む量 2.漬物や梅干し 3.魚介練り製品 4.干し魚 5.肉類加工食
 6.麺類 7.スナック菓子 8.調味料をかける頻度 9.麺類の汁を飲む量
 10.昼食外食頻度 11.夕食外食頻度 12.家庭の味付け 13.食事量

塩分チェック



汁物や肉類の加工食など、男性比が多い高校生や大学リハ学部が多い傾向がある。また全体的に魚介の加工食品を食べる頻度が少ない。

汁物は全体的に食べる人が多く、麺類の汁を飲む人は男性比が多い年代が多く摂取している。

調味料をかける頻度に関しては、外食を多くする高齢者以外の年代が多く、家庭の味も外食と比べて似ている傾向がある。

全体を通して塩分量を気にしている人の多い高齢者や、栄養管理や指導の勉強を行っている食物栄養学の学生は塩分摂取量が低い傾向にある。

「減塩ガイドブック」を活用した啓発活動 総数 821



地域の市民センターとの 協働事業

**地域で育もう「未来の種事業」
の取組について**

公衆栄養学 教授 大村美智子

地域で育もう「未来の種」事業について

地域づくりの未来の担い手である子どもたちの健全な発達・育成に向けて、市民センターが中心になって、まちづくり協議会などの地域団体、子育て支援団体、NPO、企業などと協働で、世代間交流・体験活動を実施する

上記の「未来の種」の企画、運営を任せられ、市民センターと検討を重ね、食育講座を5回シリーズで計画した。食育講座における効果を検証したので、下記のとおり報告するもの。

「食に関する知識と野菜摂取量の関係について」

1 方法

2-1 対象者

市民センターで行われた「未来の種事業」に参加した小学生から高校生までの7名

2-2 調査時期

令和4年7月から10月の期間で調査を実施した。

※新型コロナウイルスの影響により

- ・当初夏期休暇中の7月から8月にかけて5回の予定が夏期休暇明けまで調査期間が延長し、参加者減少

2-3 調査内容

2-3-1 学校給食についての状況調査

ゼミで考案した「食事についてのアンケート①」(図8)を用い、質問紙法による自記式の調査を行った。本調査では、対象者の学校給食の食事量、好きな食べ物、苦手な食べ物、苦手な食べ物のその理由、家庭、学校給食それぞれにおいて、苦手な食べ物が出たときどうしているか、苦手な食べ物を食べられるようになりたいかについて調査項目を設けた。回答を点数化し、食育前後での食習慣について評価した。

2-3-2 食に関する知識の状況調査 ゼミで考案した「食事についてのアンケート②」(図9)を用い、自由記述式による調査を行った。本調査では、野菜の名前とその野菜の旬、1日当たりの野菜摂取量、加工食品の原材料、三色食品群について調査項目を設けた。回答を点数化し、その合計点から、食育の前後における食に関する知識の習得について評価した。

しょく 食じについてのアンケート



みなさんのいつもの食じについて知りたいのでしつもんをします。思ったとおりに書いてください。

1. きゅう食をどのくらい食べていますか？1つ〇をつけてください。

ぜんぶ食べる ・ 少しのこしてしまう ・ あまり食べない

2. きゅう食に入っている食べもので好きなものは何ですか？3つまで答えてください。
(たとえば) ぶた肉、たまねぎ、ほうれんそう

() () ()

3. きゅう食に入っている食べものでにがてなものは何ですか？3つまで答えてください。
(たとえば) ぶた肉、たまねぎ、ほうれんそう

() () ()

4. 3番で答えた食べものがにがてな理ゆうは何ですか？1つ〇をしてください。

あじがにがて ・ においがにがて ・ 食べたかんじがにがて ・
あまり食べたことがない ・ そのほか()

5. おうちでにがてな食べものが出たときどうしていますか？1つ〇をしてください。

がんばってぜんぶ食べる ・ 少しだけ食べる ・ 食べない

6. きゅう食でにがてな食べものが出たときどうしていますか？1つ〇をしてください。

がんばってぜんぶ食べる ・ 少しだけ食べる ・ 食べない

7. にがてな食べものを食べられるようになりたいと思いますか？1つ〇をしてください。

はい ・ いいえ



図8：食事についてのアンケート①

しょくじ 食事についてのアンケート () 年生 なまえ()

みなさんのいつもの食事^{しょくじ}について知りたいのでいくつか質問^{しつもん}をします。思った^{おも}とおりに書いて^かください。

1. 絵^えを見て野菜^{やさい}の名前^{なまえ}と野菜^{やさい}ができる季節^{きせつ}を答^{こた}えてください。



名前^{なまえ} () () () ()

季節^{きせつ} () () () ()



名前^{なまえ} () () () ()

季節^{きせつ} () () () ()

2. 毎日朝^{まいにちあさ}ごはん^{ごはん}に野菜^{やさい}を食^たべていますか？

食^たべている・ときどき食^たべている・食^たべていない

3. 毎日夜^{まいにちよる}ごはん^{ごはん}に野菜^{やさい}を食^たべていますか？

4.

食^たべている・ときどき食^たべている・食^たべていない

5. 1日^{いちにち}に必要な野菜^{ひつようやさい}の量^{りょう}を知^しっていますか？

知^しっている・知^しらない

6. 1日^{いちにち}に必要な野菜^{ひつようやさい}の量^{りょう}を知^している人^{ひと}は何^{なん}グラムか教^{おし}えてください。

()

7. 絵を見て何から作られているものか答えてください。



()

()

()

()



()

()

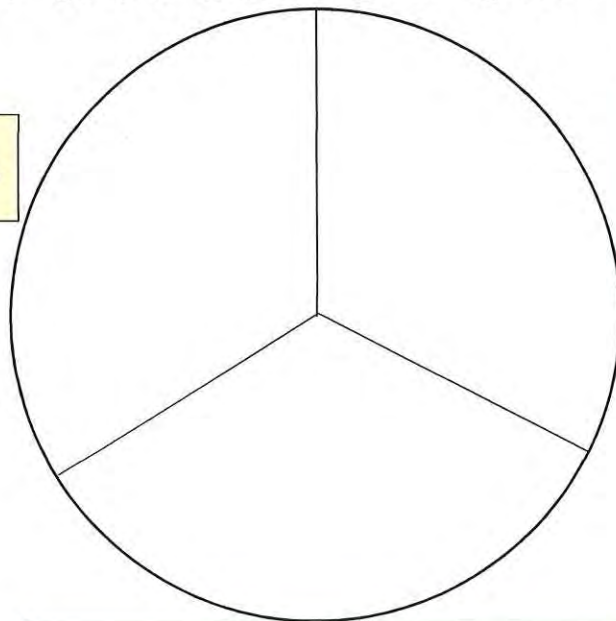
()

()

8. どの食べ物がどこに入るかあてはまるところに数字を書いてください。

〔 ① にんじん ② 牛乳 ③ とうふ ④ りんご ⑤ パン ⑥ きのこと ⑦ ごはん ⑧ 魚 ⑨ 肉 〕

エネルギーのもとになる



からだ
体をつくるもとになる

ち にく ほね
(血や肉、骨をつくる)

からだ ちょうし ととの
体の調子を整えるもとになる

びょうき ふせ ちょうし ととの
(病気を防ぐ、おなかの調子を整える)

アンケートはこれで終わりです。ありがとうございました。

図9：食事についてのアンケート②

2-4 食育内容

野菜の名前と旬、1日に必要な野菜の摂取量、加工食品の原材料、三色食品群について講義を行い2回にわたり調理実習を行った。野菜100gがとれる献立を作成し、1回目は餃子、2回目は焼きうどんをつくった。

3 結果

表1 図8における好きなもの、苦手なものの結果

	好きなもの		苦手なもの	
	全国	市民センター	全国	市民センター
1位	トマト	玉ねぎ	ピーマン	ピーマン ゴーヤ
2位	きゅうり	肉	なす	ほうれん草 なす
3位	じゃがいも	人参	しいたけ	きのこ

表1より、好きなものは全国とはで異なっていた。苦手なものは1位はピーマンであった。

表2 苦手な理由

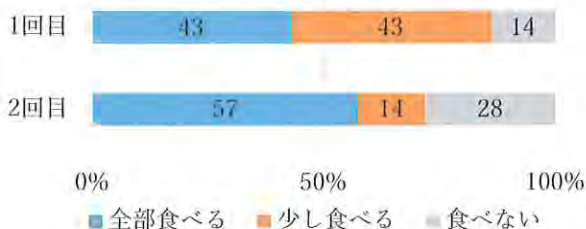
	全国	市民センター
1位	におい	味
2位	食感	食感
3位	味	なし

表2より、苦手な理由は全国ではにおい、食感、味の順であったが、センターでは、味、食感、においの順であった。

表3 家と給食で苦手なものが出たときの対応

	家		給食	
	1回目	2回目	1回目	2回目
全部食べる	3人	4人	6人	6人
少しだけ食べる	3人	1人	1人	1人
食べない	1人	2人	0人	0人

家で苦手なものが出たとき



給食で苦手なものが出たとき

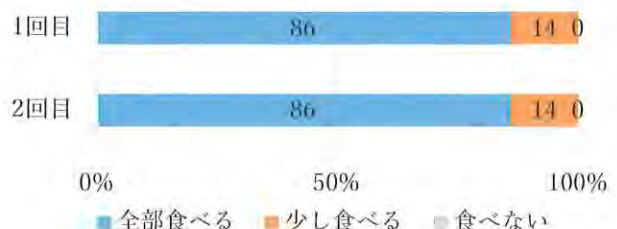


図10-2：給食で苦手なものが出たときの結果

表3より、家と給食で苦手なものが出たときの対応は1回目と2回目で変化があった。1回目と2回目を比較した時、家では全部食べる人数が増えていた。給食では変化がみられなかった。

表4 図9の知識、習慣、合計点数の結果

名前	知識合計点 (34点満点)		習慣合計点 (6点満点)		全体合計点 (40点満点)	
	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目
1-A	10	25	6	6	16	31
1-B	20	30	4	6	24	36
1-C	11	25	5	5	16	30
1-D	18	30	4	4	22	34
1-E	14	25	6	6	20	31
1-F	20	33	5	5	25	38
1-G	30	33	4	6	34	39
平均	17.57	28.71	4.86	5.43	22.43	34.14
t検定	0.000155		0.086154		3.80303E-05	

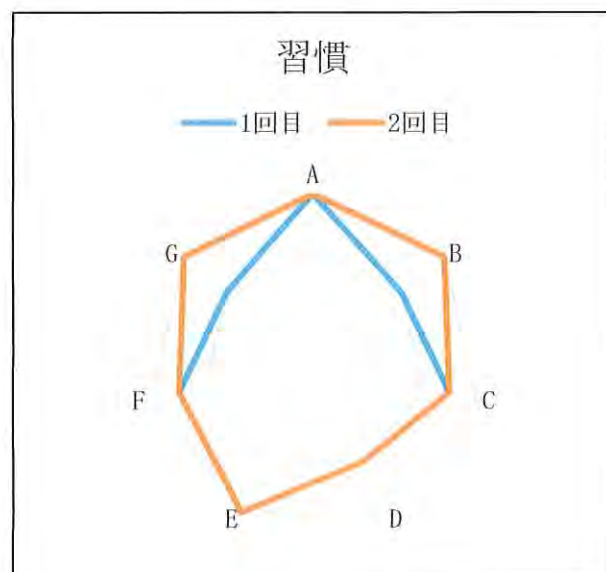
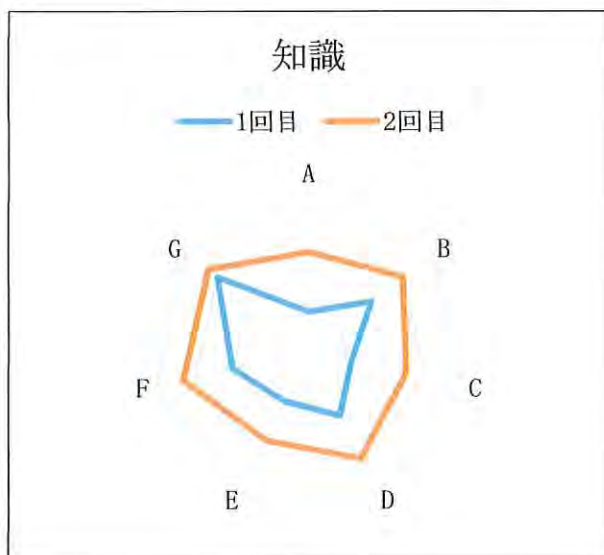


表4より、1回目と比較して全ての項目で点数の上昇が見られた。また、有意水準5%でt検定 ($P < 0.05$) を行ったところ、知識合計点、全体合計点で1回目と2回目で有意差があり、改善が見られた。習慣合計点では、1回目と2回目で有意差はなく、改善は見られなかった。

食に関する知識の内訳について1回目と2回目の比較を以下のグラフにて示す。

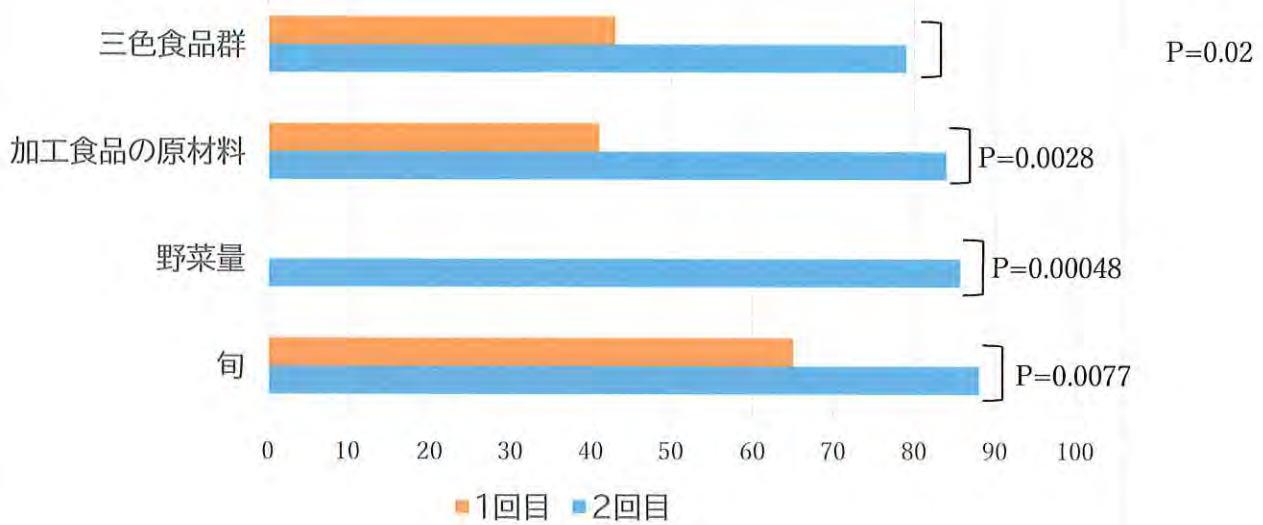


図 12 : 知識の内訳

知識集計結果

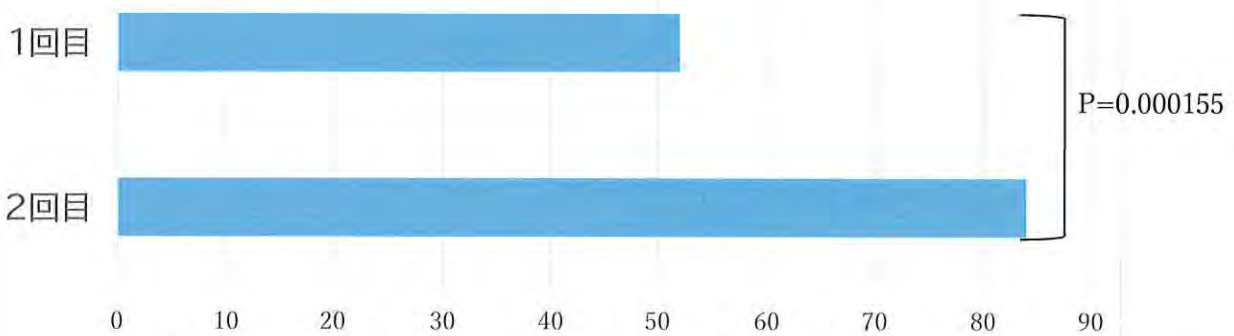


図 13 : 1 回目と 2 回目の知識の集計結果

野菜の適正量については食育講座の前では認識している児童・生徒はいなかったが、受講後は86%の児童・生徒に食に関する知識の習得があった。

4 考察

日本人の食生活にはさまざまな問題点があることが指摘されているが、中でも野菜摂取量の不足は憂慮すべき課題である。本研究では、児童・生徒を対象に、日常の食生活における野菜摂取量の実態を把握するための調査を行い、食習慣及び食に関する知識の関連性を検討した。

表3より、家と給食で苦手なものが出た時の対応は、給食では食育の前後で変化が見られなかったが、それ以外では1回目に比べ、2回目では改善されていた。よって、食育により、児童・生徒の苦手なものに挑戦する意識が向上したと考える。

表4より、食に関する知識は、食育前の1回目と比較して、食育後の2回目では全員の点数が上がっていた。同様に食習慣においても、1回目と比較して点数が変わらないまたは上がっていたた

め、全体的に改善がみられたと考える。しかし、有意水準5%のt検定において、食に関する知識には有意差があったのに対し、食習慣で有意差がみられなかったのは、食習慣の合計点数が最大で6点と得点の変化の度合いが小さく変化がわかりにくいことや1回目から点数がよかったことが理由として挙げられる。

食に関する知識、食習慣共に点数の伸びが大きかった。学習方法としては、短期集中型の講義や児童・生徒の経験となる調理実習を取り入れることや、遊びの中に学習を取り入れることが効果的な食育につながると考える。

本研究では、食に関する知識の習得、野菜摂取量の増加を目的とした食育を行い、今後の食生活の改善に繋げるための方策を検討した。当初の目的としていた食に関する知識の習得はできたが、食習慣の改善、野菜の摂取量の増大には至らなかった。今後の課題として、今回得た食に関する知識をどのように食習慣の改善、野菜の摂取量の増大につなげていくかを明らかにし、短期集中型の講義を継続的に行っていく必要がある。

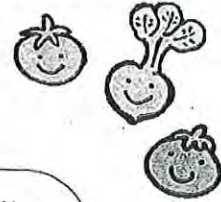
最後に、調査期間であった7月にコロナ感染者が急激に増え、中断や学校が始まってからの参加、学級閉鎖などにより参加者の減少が余儀なくされてしまったことが、大変遺憾である。

参加者アンケート



~未来の種~

[Empty box for future seed information]



8月18日(木) 学びタイム

たくさんいろいろな字を
かんきょうで書いたら
うたをうた

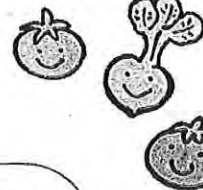
8月19日(金) 作って食べタイム

つくるのは、むづかしが
たけど、食べたのが、うま
おいしかった。みんな
ママとパパに食べさせて
やりたかったです。



~未来の種~

[Empty box for future seed information]



8月18日(木) 学びタイム

くだものは、煮てかき、
かさい、肉、魚、きゅうで
かきあそびをしました。

8月19日(金) 作って食べタイム

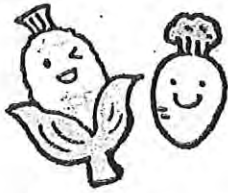
きゅう、かぼち、のたま
ごを作りました。かき分
かりました。
かきスープを作りました。
ありがとうございました。

8月18日(木) 学びタイム

学校で習ったことの復習が
できました。分かりやすかたのよ
かりました。季節の食べ物や
食べ物の中の作りかたがよ
かりました。明日もかんは
りしたいです。

8月19日(金) 作って食べタイム

初めて皮からきゅうを作
ることも楽しかったです。
自分たちで作ったので、
おいしかったです。家族
と作りたいです。来週も
かんはりしたいです。



~未来の種~



8月18日(木) 学びタイム

季節によつて、取れる食べ物がちがうことが分かりました。(4歳児)

エネルギー、体をつくる体の調節を整えるなどにわかれています。食べ物や飲み物などによつて、そのつづにわかれることが分かりました。

8月19日(金) 作って食べタイム

今日、ぎょうざとかぼちをしらたまたまを作つて、食べてみると、おいしかったです。また、つくりたい。次の日も、かみはります。

8月18日(木) 学びタイム

今日、学ぼうをして、黄赤緑に分けられていて体の調節をよくしたりできると分かりました。あとにんじんが春と冬が旬だと分かりました。

8月19日(金) 作って食べタイム

今日、ぎょうざを作るときに、やさいを、もっと上手にきれううになつたのでよかったです。ぎょうざをかみから作るのはいはじめてでしたが、おいしく作くれたのでよかったです。かみちのおもちゃをきれううに作りました。

8月18日(木) 学びタイム

食べ物の、しんや、食べ物の、はたらきがたくさんしりました。もっとたくさんしりたいと思いました。

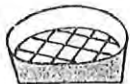
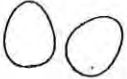
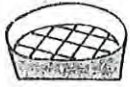
8月19日(金) 作って食べタイム

切る、さぎょうや、まぜたりたのしかったです。食べてみて、とてもおいしかったです。





~未来の種~



8月27日(土) 学びタイム

9月3日(土) 作って食べるタイム

おいしく作ったけし
やきうどんとリッター
きつくして食べたのしか
つたていす。また7-3
たどやりたいていす。

8月27日(土) 学びタイム

9月3日(土) 作って食べるタイム

7-キーおいしい。たご
焼きうどんをあんから作。たう。ちろちろして
い。家ではバナナもおいしいが、た。
1日分の野菜の色を覚えて知ることが
できるで、毎日1日分の野菜がとれるよう
に食べようと思った。

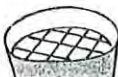
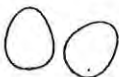
8月27日(土) 学びタイム

9月3日(土) 作って食べるタイム

今日、学習もして、かまぼ
こと、ちくわは魚からでき
ているんだと分かりまし
た。こんにゃくはしゆ
から作られていると
分かりました。

今日、生うりをして、ピーマン
はにかいて、たけといやきうど
んに入るとおいしいがた
てよかったです。家でも作
てみたいなと思っいました。

~未来の種~



8月27日(土) 学びタイム

Blank lined area for notes on 8/27.

9月3日(土) 作って食べタイム

Handwritten notes for 9/3: おいしそうだったけど、やさしくとんとリッパきって、てして食べたのしかつたていすよ、また7-きたどやりたいていすよ。



8月27日(土) 学びタイム

Handwritten notes for 8/27: 1日分の野菜を日か、にとりに、け、こら、あか、に、上、ピラリにするのか、難し、か、に。

9月3日(土) 作って食べタイム

Handwritten notes for 9/3: 7-キー、おいしく、た、か、焼きたんを、めんがう作、たう、もちもちして、いて、家、に、た、り、お、い、し、か、に、に、1日分の野菜のやまを、改めて、知る、こと、か、て、で、た、の、で、毎日、1日分の野菜が、と、あ、る、と、う、に、な、る、と、思、っ、た、に。



8月27日(土) 学びタイム

Handwritten notes for 8/27: 今日、学習をして、かまぼこと、ちんねは、魚からできているんだと分かりました。こんにゃくは、しゆから作られていると分かりました。

9月3日(土) 作って食べタイム

Handwritten notes for 9/3: 今日、しゅうりをして、ピーマンはにかいた、たけといやき、たんに、入れるとおもしろいから、たて、よ、か、た、で、す、家、で、も、作、て、み、た、い、な、と、思、い、ま、し、た、。





8月27日(土) 学びタイム

食べ物は何から作られているかが分かりました。小学生や大人の1日に必要な野菜の量が分かりました。加熱すると野菜がたくさん食べられるということが分かりました。

9月3日(土) 作って食べるタイム

焼きうどんは初めて作ったので楽しかったです。自分たちで作ったのでとてもおいしかったです。作り方を覚えて家族と一緒に作ってみたいです。先週の復習もできたのでもう一度覚えたいです。

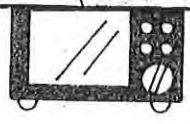


8月27日(土) 学びタイム

いろいろなことをしました。とくに子どもは300gということを知りました。ぴったり300g。そうえるのが、むずかしかったです。

9月3日(土) 作って食べるタイム

いままでなら、たこをつかって、かえびをつくりたいです。



8月27日(土) 学びタイム

小学生がたべるやさしの重は300g、大人がたべるやさしの重は350gと知りました。次の作るときもがんばりたいです。

9月3日(土) 作って食べるタイム

まだ、家でつくりたいです。とてもたのしかったです。



皮からつくる

ぎょうざ

材料と分量 (一人分)

<皮>		<調味料>	
強力粉	40g	焼き油	10ml
薄力粉	10g	酒	2.5ml
熱湯	25ml	こしょう	少々
塩	少々	しょうゆ	2.5ml
打ち粉	少々	ごま油	2.5ml
<具>		<たれ>	
豚ひき肉	50g	しょうゆ	10ml
キャベツ	50g	酢	5ml
塩	0.8g	ラー油	少々
にら	20g		

九州栄養福祉大学

つくりかた

<皮>

- ①ボールに粉をふるい、熱湯と塩を入れてよくこねる。
- ②ぬれ布巾をかけて20~30分ねかせ。
- ③打ち粉をうすくしき、生地を切り分けてめん棒でできるい形にのぼす。

<具>

- ④キャベツはみじん切りにし、塩をぐわえて、水気をしぼっておく。
- ⑤ねぎ、にら、しょうがはみじん切りにする。
- ⑥ボールにひき肉、調味料、ねぎ、にら、しょうが、キャベツをねばりが出るまで混ぜる。

<つつむ>

⑦具を皮にのせ、皮のふちに水をぬすつける。具をつつんだら、ひだをつくる。

<焼く>

- ⑧フライパンに油をいれ、ぎょうざをならべて焼く。
- ⑨1/2カップのお湯をいれてフタをし、弱火で蒸し焼きにする。水気がなくなったら完成。

焼きうどん

材料と分量 (一人分)

乾麺	70g
豚肉	40g
玉ねぎ	50g
にんじん	10g
キャベツ	40g
もやし	20g
油	3g
かつお節	1.5g
おたふくソース	30g

つくりかた

- ① 豚肉は1cm幅に切り、玉ねぎ、キャベツはざく切り、にんじんは細切りにする。
- ② 乾麺は硬めにゆでる。

- ③ フライパンに油を熱し、①を炒める。うどん、もやしを入れ、おたふくソースをいれてよく炒める。
- ④ ③を皿に盛りつけ、かつお節をのせる。

4 学生の活動・北九州市表彰

令和 6 年度北九州市表彰

「未来を作る若者功労賞」受賞

北九州市表彰の表彰式が、北九州芸術劇場中ホールで行われ、九州栄養福祉大学スマートダイエットクラブ、子ども食堂サークルが、今年新設された「未来を作る若者功労」部門を受賞いたしました。

表彰式では、武内市長の前で、スマートダイエットクラブ部長 3 年生武谷夏月美さんが、響灘菜園様から頂く規格外トマトの廃棄を減らす取り組みであるトマトのおんがえしシリーズについてスライド発表をさせていただきました。

受賞者の集合写真を撮る際、完成したトマトのおんがえしサブレを武内市長渡すことができました。

NHK でのニュースにも取り上げて頂きました。



☆ゆめみらいワーク 2023 ～出展報告～☆

西日本総合展示場で行われたゆめみらいワークに12月7・8日に参加してきました！！

多くの企業様や団体、中高生との交流イベントで
普段知る事のない職種について知ってもらうことができたのではないのでしょうか？

九州栄養福祉大学では、理学療法学科、作業療法学科、食物栄養学科のブースに出展しました！

食物栄養学科：握力測定や糖度測定

理学療法学科：テーピング体験と骨当てクイズ

作業療法学科：ゲームリハビリとビーズアートづくり



《 理学療法学科体験ブース 》



《 作業療法学科体験ブース 》

ブース体験を通して理学療法士・作業療法士・管理栄養士に少しでも興味を持った学生は

是非3月に開催されるオープンキャンパスへお越しください！！

ブースでは体験できなかった模擬授業や実習体験などをキャンパスで体験できます

多くの中高生のオープンキャンパス参加もお待ちしております

世界水泳 2023 への参加

2023年7月15日より、世界水泳 FUKUOKA2023 が福岡市で開催されました。この国際イベントに本学食物栄養学部のサークルと室井ゼミの学生が北九州のお弁当会社丸ふじさんとコラボして、考案したスポーツ弁当を世界水泳会場で、販売しました。

栄養のことはもちろん、日本らしさを出すことに力を入れて作った弁当は好評でした。福岡ならではのがめ煮はもちろん、今回は世界のトップスイマーが集うことでメイン食材に最強者ということで、鮭の西京（最強）焼きを用意しました。

また、世界水泳ということで、海外からのたくさんの方がおこしになることを考え、ベジタリアン用の弁当も用意しました

大変好評をいただき、美味しさをPRすることが出来ました。



九州栄養福祉大学 × 丸ふじ

世界水泳FUKUOKA2023 コラボ弁当！ World Aquatics Championships Fukuoka 2023 Lunch Box collaborated with Marufuji

九州栄養福祉大学でスポーツ栄養学を学んでいる学生と、北九州の弁当屋の丸ふじがコラボして、世界水泳を盛り上げるための弁当を作りました。日本の『和食』が世界文化遺産にも登録されていますので、郷土料理を取り入れ、栄養面や彩りにも工夫をこらし、海外の方も多く来られるため、動物性食品を使用しないベジタリアンに対応した弁当も作りました！！

最強×西京弁当



丸ふじの看板商品のかしわめしと、日本の伝統調味料の味噌を使用した西京焼きを入れたお弁当です。日本の食材や、福岡の郷土料理がたくさん入っています！スポーツ選手に必要なタンパク質やビタミンも摂ることができます！



スポーツ弁当 ×ベジタリアン



海外の方がたくさん来られるためベジタリアン対応の弁当を作りました！たんばく質源として、日本の伝統食品と大豆が原料で作られている高野豆腐をカツにしました。また、大豆ミートのミートボールも入っています。ベジタリアンの方にも安心して食べて頂ける弁当を作りました！



スポーツ栄養ゼミ活動2023

世界水泳FUKUOKA2023 コラボ弁当！ World Aquatics Championships Fukuoka 2023 Lunch Box collaborated with Marufuji

スポーツ栄養学を学んでいるゼミの学生と、北九州の弁当屋の丸ふじがコラボして、世界水泳を盛り上げるための弁当を作りました。日本の『和食』が世界文化遺産にも登録されていますので、郷土料理を取り入れ、栄養面や彩りにも工夫をこらし、海外の方も多く来られるため、**動物性食品を使用しないベジタリアンに対応**した弁当も作りました！！

スポーツ弁当 ×ベジタリアン

高野豆腐カツ
tofu cutlet

いなり寿司
Deep-fried tofu
stuffed with
sushirice

大豆ミート
ミートボール
soy meatballs



かぼちゃ サラダ
Pumpkin Salad

ひじき煮物
simmered hijiki
seaweed

酢の物
vinegared
vegetables



海外の方がたくさん来られるため
ベジタリアン対応の弁当を作りました！
たんぱく質源として、日本の伝統食品と大豆が原料で作られている**高野豆腐**をカツにしました。また、大豆ミートのミートボールも入っています。
ベジタリアンの方にも安心して食べて頂ける弁当を作りました。

2023年ゼミ活動内

容

- 世界水泳でのお弁当の作成・販売
- サッカージュニアユースへの栄養指導実施
- 元オリンピック選手が経営する幼稚園の見学
- 附属幼稚園園児の運動・食事状況調査研究
→フィードバックの実施
- 北九州タニタ食堂とのコラボメニューの作成
- クリスマス会(調理実習)



5 大学・リハビリテーション学部 の地域連携活動

2022年度の地域協働による健康づくり教室の開催

九州栄養福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科
准教授 井元 淳

リハビリテーション学部の理学療法学科教員 9 名（橋元、廣滋、井元、吉田、中藤、神崎、時任、河上、鈴木）、作業療法学科教員 2 名（四元、青山）による共同研究・フィールドワークとして、2022年度、葛原市民センターとの連携により地域在住高齢者を対象とした健康づくり教室を開催した。この健康づくり教室は 2021 年度より開催（日本リハビリテーション発祥地記念誌 4 号：令和 3 年版にて報告）しており、加齢による身体機能低下、呼吸機能低下、認知・注意機能低下などの各機能低下を予防することを目的としている。2022 年度の健康づくり教室では対象者の各機能の測定のための健康測定を実施し、現在の健康度合いを参加者にフィードバックするとともに、分野別の研修会を実施することで各機能の低下予防に関する知識を伝達し、健康づくりへの意識の高まりを促している。

2022 年度の健康づくり教室の実施概要や葛原市民センターとの連携内容は以下の通りである。

1. 全体のスケジュール

葛原市民センターと調整し、2022 年度では 2022 年 9 月から 2023 年 3 月までの約半年間を 1 クールとした（図 1）。1 クールで 2 回の健康測定と 5 回の研修会を実施した。

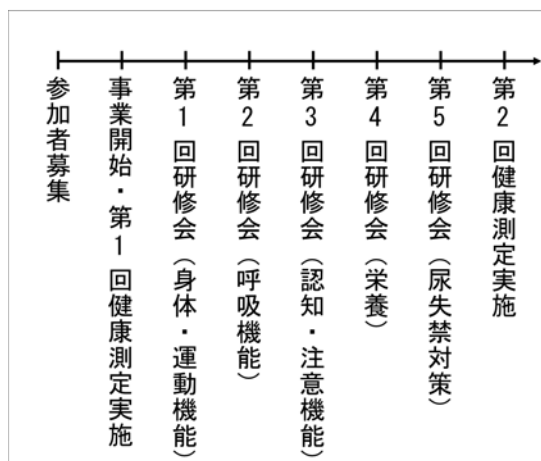


図 1. スケジュールの大まかな流れ

2. 対象者募集と集約

本学でパンフレットを作成し、葛原市民センター内で募集した。参加希望者の集約や参加希

望者への健康づくり教室の案内状や問診票の送付は葛原市民センターが実施した。

3. 健康測定会の実施（図2）

会場は本学リハビリテーション学部7号館とし、当日の出欠確認は葛原市民センターが実施した。健康測定開始前にバイタルチェックを行ったあと、身体機能、運動機能、呼吸機能、認知・注意機能の測定実施後、教員による結果説明や生活指導を行った。なお、事前に学生スタッフの募集を行い、当日測定補助として協力を得た。学生にとっては、知識・技術の向上にも繋がっている。

1) 健康測定の項目

①基本情報

氏名、住所、年齢、身長、性別、基礎疾患、喫煙習慣、身体活動量などを問診票で聴取し、身体活動量は国際標準化身体活動質問紙日本語版の short version を用いて評価した。

②身体機能、運動機能

体成分分析（InBody470、株式会社インボディ・ジャパン）を用いて身体組成を計測し、運動機能では握力、6m 歩行速度、立ち上がりテスト、2 ステップテストを測定した。これらによりサルコペニアやロコモティブシンドロームを評価した。

③呼吸機能

呼吸機能は AS-507 オートスパイロ（ミナト医科学株式会社）を用いて評価し、また IOP-01（株式会社木幡計器製作所）を用いて吸気筋力、呼気筋力を測定した。

④注意・認知機能

注意機能は Trail Making Test-J（Part A、Part B）を用い、認知機能は時計描画テストを用いて評価した。

⑤栄養評価

簡易栄養状態評価表（MNA-SF）と「食事・生活に関する質問」票を用いて評価した。

⑥健康関連 Quality of life（QOL）

SF-12v2 日本語版（使用登録申請後）を用いて評価した。

⑦尿失禁に関する QOL 評価

国際尿失禁会議質問票（ICIQ-SF）を用いて評価した。

2) 健康測定

①第1回健康測定

・2022年9月17日実施：20名参加

②第2回健康測定

・2023年3月18日実施：13名参加



図2 健康測定会の様子

4. 各研修会の実施

研修会の会場は健康測定会と同様に本学リハビリテーション学部7号館とし、当日の出欠確認は葛原市民センターが実施した。研修会では健康測定で実施・評価した項目について、その特徴や予防方法などについて演習を交えながら実施した。第4回の栄養の研修会については本学食物栄養学部の教員に講師を依頼した。なお、1回の研修会は90～120分程度とし、各研修会内では5分程度でできるセルフトレーニングを提示している。

①身体・運動機能（図3）

・2022年10月22日実施：18名参加



図3. 身体・運動機能研修会の様子

②呼吸機能（図4）

・2022年11月5日実施：17名参加



図4. 呼吸機能研修会の様子

③認知・注意機能（図5）

・2022年12月10日実施：19名参加



図5. 認知・注意機能研修会の様子

④栄養（図6）

・2023年1月28日実施：11名参加



図6. 栄養研修会の様子

⑤尿失禁対策（図7）

・2023年2月25日実施：16名参加



図7. 尿失禁対策研修会の様子

まとめと今後の展望

葛原市民センターと連携した地域在住高齢者を対象とした健康づくり教室は 2023 年度も継続して実施中である。

今後は一つの地域にとどまらず、九州栄養福祉大学周辺の市民センターと連携を図り、高齢者のみではなく、子育て世代を含めた健康づくり教室の開催、さらには 1 年間を通しての開催などの普及活動を展開することが必要である。

6 東筑紫短期大学保育学科・附属 幼稚園の連携活動と教育研究論文

地域交流活動：

子育て・親育ちの会『親子でふれ合おう！楽しもう！』…………… 66～

研究論文：

認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園の交流活動について …………… 72～

短期大学の附属幼稚園における幼稚園教育実習の意義を求めて …………… 81～

園と地域がともに育てる子育て支援 …………… 90～

幼稚園教諭・保育士養成校と実習園との連携に向けて…………… 98～

令和5年度 地域交流活動

1. テーマ 子育て・親育ちの会『親子でふれ合おう！ 楽しもう！』

2. 主催 東筑紫短期大学保育学科
認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園

3. コーディネーター 東筑紫短期大学 保育学科 准教授 吉田 千津子
東筑紫短期大学 保育学科 准教授 笹部 聡子
認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園
主幹教諭 豊田 泉鑑
副主任（保育園部） 川田 麻里

4. 目的

昨今の日本では少子高齢化の中さらに出生率が低下し、時には虐待によって消えていく子どもの命もあります。この世に生まれてきた大切な子どもたちの健やかな成長には、国や県・市町村をはじめ、様々な分野から支援を充実させ、家庭や地域がひとつになった子育てを行うことが必要です。

子育ての基本は家庭です。子どもは遊びや生活の中で成長していき、親もまた子どもとの関わりを通して子どもから学び、より成長した“親となって”いきます。しかし子どもとの関わり方に悩むこともあるでしょうし、親子関係がうまくいかないときもあるでしょう。本事業の意義は子どもとよりよく関わるができる機会や、子どもと一緒に楽しむ場を提供すること、またそれらの中で、子どものいつもと違う姿や関わり方を発見し、親子のきずなを深めることにあります。

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学・認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園の主催による子育て支援事業「子育て・親育ちの会」は、食・子育て・介護・リハビリの各専門分野の特性を生かし、おかげをもちまして今年で20年目を迎えさせていただきました。

た。

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学では、建学の精神である「筑紫の心」に基づく人格教育と専門教育の充実を目指しています。

認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園においても、教育の理念「よいこのころはちくしのころ」に沿った園生活やあそびの中で、園児に「ゆうき・しんわ・あい・ちせい」の4つの心の芽を育てており、これは「幼稚園教育要領」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の求める子どもの育ちとも合致しています。

また本学園では、未就園児・附属幼稚園の園児や保護者のみならず地域社会に対して、周望学舎によるシニアカレッジや北九州市民カレッジ等を開催し、地域の活性化を目標に取り組んでおります。

本事業を通して、「子どもの成長」と「育てる喜びを感じられる子育て」を支援します。

5. 事業計画

A) 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学の講師陣によるオムニバス授業

●対象：親子（未就園児を含む）

●講義計画

日時	講師	学習テーマ	会場
7月28日 (金) 10:40～ 11:40	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 教授 佐野 幹剛	「親子で楽しもう！ 心と身体のリハビリ体操」	認定こども園 東筑紫短期大学 附属幼稚園4階 子育て支援室
8月22日 (火) 13:00～ 15:00	東筑紫短期大学 食物栄養学科 准教授 梅林 千恵子	「親子で楽しくおやつを つくろう！」 ～清涼飲料水（砂糖）の話～	短大3号館1階 103実習室
9月30日 (土) 10:00～ 12:00	九州栄養福祉大学 食物栄養学部 准教授 室井 由起子	「親子クッキング」 日常の食事に米粉、米麴を活用し、 味覚や感覚が1番成長する子どもた ちの『未来』の『食』を一緒に考え ていきましょう！	大学・短大 2号館6階 606教室
12月	東筑紫短期大学 保育学科 准教授 笹部 聡子	「親子で音を楽しもう！」	大学・短大 2号館3階 303教室

B) ワークショップ (第3回)

●対象：親子（未就園児・小学生を含む）

《テーマ》季節を感じながら親子で作ってあそぼう！！

《講師》東筑紫短期大学保育学科 准教授 吉田千津子 10家族まで（小学生可）

8月5日(土) 10:15~11:15	第1回 親子で作ってあそぼう！ 「つめたーい夏！」 ・手あそび・リズムあそび・読み聞かせ	大学・短大 2号館3階 303教室
10月28日(土) 10:15~11:15	第2回 親子で作ってあそぼう！ 「実りの秋！」 ・手あそび・リズムあそび・読み聞かせ	大学・短大 2号館3階 303教室
12月23日(土) 10:15~11:15	第3回 親子で作ってあそぼう 「冬を楽しもう！」 ・手あそび・リズムあそび・読み聞かせ	大学・短大 2号館3階 303教室

令和5年度 子育て・親育ちの会

「親子で楽しくおやつを作ろう」より

実施日：8月22日

会場：東筑紫短期大学調理室 3号館1階103



「第2回 親子で作ってあそぼう！」より

実施日：10月28日

会場：認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園4階
子育て支援室



「第3回 親子で作ってあそぼう」より

実施日：12月23日

会場：認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園4階
子育て支援室



認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園の交流活動について

－ 幼児教育と地域社会との連携 －

Exchange activities of the certified children's kindergarten

Higashi Chikushi Junior College

- Early Childhood Education and Community Collaboration -

小島久須美

Kusumi Kojima

1. はじめに

幼稚園教育要領解説の序章第2節3 幼稚園の役割の中に「家庭は、愛情としつけを通して幼児の成長の最も基礎となる心の基盤を形成する場である。幼稚園は、これらを基盤にしなが家庭では体験できない社会・文化・自然などに触れ、教師に支えられながら、幼児期なりの世界の豊かさに出会う場である。さらに、地域は様々な人々との交流の機会を通して豊かな体験が得られる場である。」注1)と記されている。これら三者(家庭・幼稚園・地域)がつながり関わりを深め連携することにより、幼児の生活は広がり豊かな体験となるのではないだろうか。

本園でも地域に根ざした幼稚園を目指して、地域との交流活動に継続して取り組んできた。令和2年(2020年)に新型コロナウイルス感染症がパンデミックとなり、その予防策として三密(密閉空間・密集場所・密接場面)を避けることが最も有効な手立てとなったため、交流活動も中止せざるを得なくなった。令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」となり、本園でも「日常」が戻りつつある今だからこそ、そして本学園に「地域連携センター」が設置される(令和5年7月)ことを機に、これまでの地域との交流活動について振り返り、今後の取り組みに向けて考えてみたい。

2. 交流活動の取り組み

〔事例1〕 到津地区自治会との交流

○こいのぼり交流会

平成22年度、元園長木本節子氏が地域の板櫃川こいのぼり揚げに園児の作品を加えてもらい、年長児が到津地区自治会の方々と保育学科生と一緒に「こいのぼり交流会」を行った。翌年(平成23年)の3月に東日本大震災が起き、この年以降は「東日本の復興を願って」年長児が大きなこいのぼりに、被災された方に届けたいものやメッセージを描くようになった。こいのぼりの留め金を付けに自治会の方が

来園されたり、保育学科生とこいのぼり製作に取り組んだり、当日はこいのぼりの歌や復興を願った言葉など、自治会の皆様や到津小学校の児童、保育学科生と本園園児が交流を図った。この様子はたびたびテレビや新聞などに取り上げられた。

今年度は自治会の方々と園児で交流会を行う予定であったが、あいにく雨天のため中止となったが、後日年長組合同で、板櫃川に揚げられた自分たちのこいのぼりを見に行った。

○昼食交流会～到津市民センターにて

こいのぼり交流会を通して到津自治会の方々と交流が深まり、平成 28 年度に到津市民センターからの依頼を受け、「ふれあい昼食会」にて剣舞「白虎隊」を披露した。以来恒例となるが、コロナ禍で中止となり、3 年ぶりに今年度再度依頼を受け、演舞「大器晩成」を披露することとなった。毎年、園児の演技を見て「かわいいね～、かわいいね～」と何度もつぶやき涙する方もいる。園児はたくさん褒めてもらうことで満足感を味わい、自信にも繋がっていると思う。

○学校関係者評価

平成 28 年度より到津地区自治会会長が本園の学校関係者評価委員に就任し、本園の教育方針を理解し支えてくれている。「しっかりした教育目標にしたがって、確実に実践していると思います。災害地の復興や地域との交流にも積極的に取り組んでいる様子が見えがえします。今後も教職員一丸となって目標、対策に取り組んでいただければと思います。」注 2) など温かい支援を感じるご意見であった。

今年度は到津地区自治会会長、到津市民センター館長、到津小学校校長、元後援会会長、並びに現後援会会長の計 5 名に就任していただき、毎月学年だよりを送付、行事や保育参観のご案内など行っている。年度末に学校関係者評価委員会を開きご意見をいただき、更なる幼児教育の質向上を目指して来年度につなげていきたい。

学校関係者評価委員の方たちは「園の応援団」ともいえると思う。

(以下、「4月のたより」「さくら1くみ こどもの姿」を掲載する。)

4月のたより (年長組)

ご進級おめでとうございます

春の陽気と共に年長組での1年間がスタートしました。今年度も子どもたちと一緒に色々な経験を重ねながら園生活最後の1年を思いきり楽しむ中で、子どもたちの思いを十分に受け止めて保護者の方と一緒に成長を喜んでいきたいと思っております。1年間どうぞよろしくお祈りいたします。
本年度も「幼稚園教育要領」に基づき本学の建学の精神「よいこのころはちくしのころ」を育む教育を行っていききたいと思います。
保護者の皆様にも毎月の「たより」にて年長組の活動やクラスの様子をお知らせします。お楽しみに!

目標 (このような姿を期待しています)
○年長組になった喜びと自覚をもつ。(異年齢の友達にいたわりの気持ちをもつ)
○新しい環境に慣れ、好きなあそびに取り組みたり友達と関わったりして楽しむ。
○春の自然に興味をもち、季節感を味わう。

生活指導 (ご家庭でも心がけてください)
○園内や送迎での決まりを再確認し、安全に留意する。

主な活動
○分散登園：Aグループ 6日(木)・Bグループ 7日(金)
○始式：10日(月)
○給食開始：18日(火) *詳細は後日お知らせします
○遠足(足津の森公園)：28日(金)
・身体測定 ・クレパス画 ・母の日プレゼント製作
・こいのぼり製作 (*25日以降板橋川に飾っていただきます。)

★誕生会は、2か月合同とさせていただきます。4月の誕生児の方は5月に誕生会を行います。
★4月は新型コロナウイルス感染症等の状況により内容を変更することがあるかもしれません。ご了承ください。また、5月以降の対応につきましては、改めてお伝えします。

★保護者の皆様へ★
幼稚園で一番大きいお兄さん・お姉さんになったことが嬉しく胸がいっぱいの子どもたち。反面、新しいクラスや担任・環境の変化に慣れないことも多く、緊張や不安な気持ちもあることと思います。新しい環境の中幼稚園で頑張っている分、お家に帰りましたらお子様の「あのね。」という園での話をじっくりと聞いてあげてくださいね。また園でのお子様の様子など心配なことや不安なことなどありましたら気軽に相談ください。

★お知らせ★

- ・しおり、おはようブックに記載してある「公欠」に該当する症状でお休みされた場合は、体調が戻り、登園ができるようになりましたら、「公欠届」を記入していただきます。ご協力お願いします。
- ・ホームクラスを利用される場合は、前日の17時までにご連絡をお願いします。
- ・今年度よりSDGsの観点からペーパーレス化を図るため、「学年だより No. 2 子どもたちの姿」は園のホームページ(保護者専用ページ)への掲載のみとさせていただきます。各ご家庭で印刷も可能です☆ぜひ、ご覧ください。

～担任紹介～

	さくら1組 たかき みり	さくら2組 いまなが らん
抱負	年長組進級、おめでとうございます! この1年間で子どもたちと一緒に楽しい思い出をたくさん作りたいと思います。ニコニコ笑顔いっぱいさくら組さんになります。今後とも協力お願いします。	年長組初めての担任で、どんな1年になるかな?と子どもたちと一緒にドキドキする気持ちと、ワクワクする気持ちでいっぱいです! 子どもたちが楽しみながら、様々なことにチャレンジし、輝いて考えたり感じたりしながら充実した1年になるように過ごしていきたいと思っています! 1年頑張ろう!お祈りします★
好きなキャラクター	すみっこぐらし	ポチャッコ★
趣味	お買い物	踊ること♪ 身体を動かすことが好きです!
誕生月 星座	1月～みずがめ座☆	7月～しし座☆



今月のうた 「こいのぼり」 作詞：近藤 富子
作曲：不詳

おあそびのこいのぼり
ちいさいひこいぼり
おもしろそうにおよびでる

さくら1くみ こどもの姿

さくら組に入園・進級したことをとても喜び、いろいろな活動に「ゆうき・しんわ・あい・ちせい」の「ちくしのころ」で取り組んでいるさくら1組さん! 活動を通してさくら1組さんは、どんなことを学び、成長するでしょう? 子どもの姿を見ながら1年間、おうちの方と一緒に考えてみてくださいね! 今月のさくら1組さんは、誕生会に向けての活動やこいのぼり製作、玉ねぎの収穫などをしました。その中で、イメージ豊かに「夢の誕生会」の絵を描いたり、友達と協力し合いながらこいのぼりを作ったり収穫の喜びを味わったり... そんな子どもたちの様子をご覧ください!

東京紫幼稚園の年長組は誕生会の内容を自分たちで考えます。

「どんな誕生会をしようかな。」とクレパス画で表現してみました。

クレパス画「夢の誕生会」

こいのぼり製作

★自分たちで計画・準備・司会をする中で、子どもたち一人一人が「ほくたち、わたしたちの誕生会!」という意識をもって活動に取り組み、誕生の喜びや命の大切さを感じてほしいです。どんな誕生会になるか楽しみですね!

4月29日(土) 昭和の日のこいのぼりまつりに行ってみてくださいね!! 八幡橋付近に東京紫幼稚園のこいのぼりが泳いでいますよ!!

さくら1組は「ちくしのころ」と「虹」を表現したこいのぼりを製作しました!

★地域交流
★伝統文化の継承

食育(しよくいく)
玉ねぎの収穫

地域の方々と一緒にロープにこいのぼりを取り付けることができたことで、板橋川にこいのぼりを飾る日が一層楽しみになつたようでした。こいのぼり交流会は雨天で中止となりましたが、板橋川で泳ぐこいのぼりを後日見に行く予定です!

ちくしの妖精たち

ちせいの妖精
しんわの妖精
あいの妖精
ゆうきの妖精

★昨年の年長組さんが苗植えした玉ねぎを収穫することで、収穫の喜びや食べ物・育ててくれた環境(自然・卒園児)への感謝の気持ちをもち、「今度はほくたちが!」と5月のサツマイモの苗植え(北区キャンパスの畑)に期待をもっていました!

〔事例 2〕北九州市の公共機関との交流

○警察署、消防署との交流

筆者が本園に就職した時から毎年 6 月に小倉北警察署の方が交通安全指導に来ていただいている。当初は各コースに分かれ、保護者に当番をしていただきながら集団で徒歩通園をしていたからである。警察の方から教えていただいた交通ルールを守り、四季折々の季節を感じながら年長組が年少組の園児の手を引いて歩いていた。毎日通るうちに顔なじみの地域の方が園児に声をかけてくれていた当時が懐かしく思える。そうしたこともあって、当時は年長組が勤労感謝の日にちなんで小倉北警察署を訪問することが多く、感謝の気持ちを伝え、花束と手作りのメモ帳やポスターなどをプレゼントし、お礼にと白バイやパトカーに乗せていただいていた。近年では、不審者対応などの指導をいただいている。

また最近では消防署の方にも避難訓練の指導をいただいている。この 2 月は富野分署の方が「Ⅲ型救助工作車」という新しい大きな消防車で来園、園児は興味津々であった。消防士の方から園児に石川県の能登半島地震についての話があり、地震が起こったときに気をつけることとして、地震が収まるまでテーブルの下に隠れ頭を守ること、避難時は割れたガラスに気をつけることなど具体的に指導をいただいた。

こうした交流を行うと、園児は警察官や消防士に憧れ、「おおきくなったらなりたい。」と、将来の夢を語るようになる。

○まち美化運動（環境局）

令和元年より北九州市のまち美化運動に参加している。期間中全園児が交代で本園向かいに位置する「下到津公園」の清掃に取り組んだ。軍手をし、手で落ち葉を拾う学年がほとんどであったが、年長組は園児用の箒やガンゼキ（竹熊手）などを使って本格的に取り組んだ。集めたごみは後日環境センターの方がごみ収集車に乗って回収に来て、園児にごみ収集について話をしてくれた。この活動に対して令和元年度は北九州市市長より感謝状をいただいた。

〔事例 3〕折り紙のコマを通した地域の方との交流

地域の方が手指のリハビリのためと「折り紙のコマ」を作っているようで大きなビニール袋 3 袋分を「使っていただけると嬉しい」といただいた。いつから始まったのかは定かではないが、かなり以前から続いており、コロナ禍が明け、今年 3 年ぶりにいただいたのである。お土産として園児が 2 個ずつ持ち帰り、クラスではひとコーナーを作り、コマ回しや長まわし競争、コマ作りなどのあそびが見られた。

園児からの発案で「ありがとう」の気持ちを込めて画用紙で手紙を作りお渡しする

ととても喜ばれた。

こうしたささやかな交流も園児にとってその方にとって、温かな地域交流といえるのではないだろうか。

〔事例4〕海外に住む幼児期の子どもの体験保育

本園では体験保育の一端として海外で生活している方が日本に帰省される際、幼稚園体験を希望されるお子さんをお預かりしている。今年度もコロナ禍に海外で生まれたお孫さんが帰省されるので、日本の幼稚園を体験させたいと祖父母の方から申し入れがありお引き受けした。

冬休みに入る直前だったため預かり保育で受け入れることとした。満3歳児から年長組20名ほどで過ごす。体験保育児は満3歳児であったが、保護者の方が帰国前に日本語や日本の文化について伝えてくれていたようで、抵抗なく過ごせた。はじめはお互いに距離感を感じていたようだが、年長組の女兒たちがお姉さんらしく世話をしたり一緒に遊んだりする中で、時間と共に打ち解けることができた。言葉は通じなくても身振り手振りでコミュニケーションを取り、体験児も「It's fun!」と笑顔になった。このことは本園の園児が英語にふれるよい機会ともなったようである。その後は面白い英語が保育室に飛び交ったらしい。園児の適応能力、コミュニケーション能力には驚くばかりである。

〔事例5〕地域に発信～子育て支援

地域の子育て支援として平成18年1月東筑紫短期大学保育学科と附属幼稚園が連携し専門の講師による「子育て・親育ちの会」を、平成24年度に園独自に未就園児の保育体験活動として「みんななかよし このゆびと～まれ!」を立ち上げた。地下1階地上5階の園舎4階には子育て支援室があり、こうした会が盛会に行われている。また近年に親子図書室の立ち上げも考えている。(次ページに施設の写真を掲載)

「子育て・親育ちの会」については長きにわたる交流活動のため、ここでは詳述できないため別途考察したいと思う。子育て支援の観点では、本田恵美子(本園の保育園部副園長)が本誌で述べているので、そちらを参照していただきたい。



写真1 <新園舎（平成29年4月設立）>



写真2 <子育て支援室>



写真3 <親子図書室>

3. 考察

[事例1] [事例2] [事例3] より

到津自治会の方たちを含めシニアの方たちと園児とがふれ合う中で育まれるものは何か。園児にとっては人をいたわる気持ちが芽生え、シニアの方が持つ知恵や知識にふれることができる。シニアの方にとっては、園児とふれ合うことで自分の役割を見だし、活力が生まれる。両者ともに出会いと体験からつながり身近な人との絆が生まれるのではないだろうか。また私たちの暮らしを支え守ってくれる公共機関との交流は「ごっこ遊び」などイメージや遊びが深まり自分たちの生活の中で生かすようになり、子どもたちの生活経験が豊かになる。

保育内容 環境の中に、「身近な地域の人と継続的にかかわることで、より一層の親しみを感じ、愛されて育つことに喜びを感じるようになる。さらに、自分の存在や行動が『地域の人の役に立つ』『喜んでもらえる』という自己有用感につながり、『この地域で育つ』自覚や自信につながり『将来の社会の一員として自覚』が育つ。」注4)とある。

こうした育ちが故郷を思い、故郷に誇りを持ち、社会に貢献できる人間として育つのだろう。

[事例4] より

園児は国や地域・人種など区別することなく自分の仲間として受け入れ、抵抗なくその仲間の背景にある言語や文化を受け入れることができる。しかしこうした姿が生まれるには環境が必要である。特に人的環境である。この預かり担当の教師は年長女児の人を受け入れ関わる力を信じ「お世話係」を任せていた。また教師自身が体験児と英語で関わることを面白がり積極的に使った。園児の目線まで下がり、興味のあることを探り一緒に遊ぶことでつながりを深め、お互いの文化にふれる環境を心がけた。こうした中で、園児は自分を取り巻く生活の様子に気付き、国際理解の意識が芽生えていくのではないだろうか。

これらの実践活動を通して三者（家庭と園と地域）の連携の中で、幼児期の大事な人格形成がなされているのだと思う。これは本園の教育理念「勇気・親和・愛・知性」の4つの心の芽を育てていくということでもあり、建学の精神の実現にも大きく関わっている。今後はさらに改善を加え、その方向に向かって研鑽を深めていきたい。

3. おわりに

こども家庭庁より令和5年12月に策定された「こども大綱」に「こどもや子育て当事者の目線に立ち、子どものための近隣地域の生活空間を形成する『こどもまんなかまちづくり』を加速化し、地域住民の理解を得た上で、こどもの遊び場とそのアクセスの確保や親同士・地域住民との交流機会を生み出す空間の創出などの取組を推進する。」注5)とあり、さらには国や地方公共団体、民間企業、地域、園、家庭などが密接に情報共有・連携・協働を行う「横のネットワーク」の必要性を説いている。

また、地域社会との連携について幼稚園教育要領では「幼児の生活は、家庭を基盤として地域社会を通じて次第に広がりをもつものであることに留意し、家庭との連携を十分に図るなど、幼稚園における生活が家庭や地域社会と連続性を保ちつつ展開されるようにするものとする。その際、地域の自然、高齢者や異年齢の子供などを含む人材、行事や公共施設などの地域の資源を積極的に活用し、幼児が豊かな生活体験を得られるように工夫するものとする。また、家庭との連携に当たっては、保護者との情報交換の機会を設けたり、保護者と幼児との活動の機会を設けたりなどすることを通じて、保護者と幼児期の教育に関する理解が深まるよう配慮するものとする。」注6)と記されている。

これらのことから幼児期は、自分の興味や関心に基づいた体験を通して、生活に必要なことが培われる時期であり、幼稚園は、家庭や地域との連携を図りながら、地域と交流することで得られる豊かな経験が実現できるように環境を整えることが大切であると考え。この豊かな体験が将来、日本人として地域社会（自分の故郷）を愛し自分自身に誇りがもてるのではないだろうか。こうしたことを踏まえ、文部科学省でも期待されているように今後も本園は家庭と地域をつなぐ幼児教育のセンター（核）となり、本学園の地域交流センターと連携を保ちながら、地域交流の場が園児・保護者・幼稚園・地域がともに育ち合える場となるよう貢献していきたい。

【 引用文献 】

注1) 文部科学省 「幼稚園教育要領解説 平成30年3月」フレーベル館 P19～P20

注2) 平成28年度学校関係者評価 評価委員 到津自治会会長のコメントより

注3) 「さくら1組 こどもの姿」 本園 さくら1組担任・主幹教諭 高木泉鑑 作成

注4) 新時代の保育双書 保育内容 環境 [第3版]

秋田喜代美他 株式会社みらい P111

注5) こども家庭庁 こども大綱 令和5年12月22日 P16

注6) 文部科学省 「幼稚園教育要領解説 平成30年3月」フレーベル館 P133

【 参考文献 】

- 1、文部科学省 「幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月」フレーベル館 P66・P210
- 2、内閣府・文部科学省・厚生労働省
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説平成 30 年 3 月」フレーベル館
- 3、厚生労働省 「保育所保育指針解説」 フレーベル館
- 4、新時代の保育双書 保育内容 環境 [第 3 版] 秋田喜代美他 株式会社みらい
- 5、〈領域〉環境ワークブックー基礎理解と指導法ー 佐藤淳子他 萌文書林
- 6、演習 保育内容 環境ー基礎的事項の理解と指導法ー 岡 健他 建帛社

短期大学の附属幼稚園における幼稚園教育実習の意義を求めて

－ 短期大学と附属幼稚園の連携についての一考察 －

In Search of the Significance of Kindergarten Teaching Practice in Kindergartens
Attached to Junior Colleges

- A Study on the Collaboration between Junior Colleges and Affiliated Kindergartens -

小島久須美

Kusumi Kojima

1. はじめに

本園は昭和 27 年に認可され、その 2 年後の昭和 29 年に東筑紫短期大学保育科が新設された。幼稚園の園舎階上（2 階）に保育科の学び舎が新築され、日々階下の園児の喜々として戯れる歓声を聞きながら、南向きの陽光を浴びて当時の保育科生は講義を受けたということである。保育科 1 期生より「附属幼稚園でじっくり基礎力を養おう」という方針のもと「保育実習」（幼稚園教育実習）が行われており、69 年間経つ現在でもその方針は脈々と受け継がれている。（当時から幼稚園と保育科は共に育ち合う密接な関わりがあったことがうかがえる。）

そして保育科が充実期（7 期～9 期）に入ると実習園を附属幼稚園だけに限定せず外部（地域）の幼稚園に依頼してはと卒業生からの申し出もあり、実習園が拡大し北九州市の地において卒業生は広く評価されるようになった。

その後本園は時代のニーズに合わせて、「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に基づき、0 歳児から 5 歳児までの乳幼児期における教育を行い、更に本園の教育理念である「よいこのころは ちくしのころ— 勇気・親和・愛・知性」の 4 つの心の芽を園児に育もうと大学の北区キャンパス内に平成 29 年 4 月に幼稚園型の「認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園」として新たなスタートを切ったことで、これまでの幼稚園教育実習に多様性が要求されるようになった。

即ち、「附属幼稚園でじっくり基礎力を養おう。」という幼稚園教育実習のための方針が、乳幼児保育（保育所実習）の観察実習にも活かされるようになったのである。

地下 1 階地上 5 階の園舎を建て、特に 5 階の研修室（講義・演習室）は保育学科生が園児の日常の姿に触れながら講義が受けられるようになっている。これからの乳幼児教育を担う後進を育成する東筑紫短期大学の附属幼稚園としての役割をハード面・ソフト面の両方で果たしているのである。（次ページに施設の写真を掲載）

園舎は教育環境において大変重要であるが、ここでは評価できないので別途考察するつもりである。



写真1 < 保育学科と同キャンパスの新園舎（平成29年4月設立）>



写真2 < 5階研修室 > < 講義・演習室 >



写真3 < 5階講義・演習室前廊下 及び ベランダ >



写真4 < 教材室 >

※保育学科の先生方の控室・幼稚園教育実習の会議等でも使用

また本園の目的を具現化するための特色ある取り組みのひとつに「本園は保育学科の『教育実習の場』でもあり園生活や様々な活動を行う中で園児と保育学科生が触れ合い親しむ。」注1)と記されている。

この度の九州栄養福祉大学こども教育学部こども教育学科設置申請（令和7年度開設予定）にあたり、これまでの短期大学の附属幼稚園における幼稚園実習の取り組みをまとめ、次へのステップへとつなげていきたいと思い本稿を記しておくこととした。

2. 附属幼稚園における幼稚園教育実習の取り組み（令和5年度）

附属幼稚園での教育実習は保育学科1年生全員を対象に、後期2グループに分け隔週で観察実習を中心に実施されてきた。附属幼稚園における幼稚園教育実習の到達目標は保育学科のシラバスに、実習の具体的内容は幼稚園教育実習実施要項に、以下のように記されている。

〈教育実習の到達目標（学習成果）〉

「2. 附属幼稚園での観察実習では、保育の観察記録を作成することを通して、園生活の流れ、保育の在り方を学ぶと共に、幼稚園の施設・設備・遊具等の配置・活用状況を観察し、幼児教育のあり方を理解する。」注2)

〈実習の具体的内容〉

「①1年次後期は見学、観察実習を行います。附属幼稚園（認定こども園）に出向いて直接幼児と触れあい幼児理解に努めるとともに、教員や園の様子を観察します。とくに担任の保育状況は細かく観察し、幼稚園教育のあり方を理解しましょう。また、幼稚園教育における1日の流れを把握しておくことも大切です。同時に、幼稚園の施設、設備、教材、教具等に関心をもち、その配置、活用の状況などもよく観察しましょう。」注3)

以上のように幼稚園教育の在り方、一日の流れ、幼児との触れ合い、保育の状況など観察実習はただ見るだけでなく、その内容を「5領域」や「10の姿」の視点をもって観る。それはかなり広い学びを必要とする。シラバスに基づき、理解をするためには、保育学科の先生方と事前・事後並びに実習過程での打ち合わせが必要となってくる。そこで、本学で実施してきた直近の令和5年度の事前打ち合わせを振り返り、以下内容について記す。

令和5年度 教育実習（附属幼稚園）観察実習事前打ち合わせ

日 時 令和5年7月3日（月） 15:00～

会 場 認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園にて

参加者 保育学科長・教育実習担当者
園長・総務副園長

- 内 容
- ①実習日程確認
 - ②オリエンテーションの場所確認
 - ③学生の配属クラス（人数・男子学生の配属・気になる学生の配属）
 - ④実習記録について
 - ⑤観察実習の際の学生と子どもとの関わりについて
 - ⑥その他
 - ・2年生後期実習について
 - ・令和6年度教育実習の依頼

100名余りの学生を実習に受け入れ、一人一人の課題に真摯に向き合い対応していくことは、幼稚園にとってもかなりの負担である。しかし、保育者こそが次の保育者を育てていくという倫理観によって育てていく。そのために乗り越え、努力していくことが大切である。極端な負担は避け、折り合いバランスをとることが必要と思われる。

こうした打ち合わせが行われた後、幼稚園教育実習担当者に教育実習計画表を作成してもらっている。

〈教育実習計画表〉

令和5年度 保育学科1年
教育実習（附属幼稚園・講義）日程

学内オリエンテーション 教育実習の授業中で実施
附属幼稚園とのオリエンテーション 9月28日（木）16:20～

- ※ **教育実習の時間は、必ず実習着（名札つき）に着替える**
- ※ 附属幼稚園に行く際の持ち物
A：筆記用具・メモ・上靴・帽子・水筒（ペットボトルは入れ物に入れて。）
- ※ 学校での講義
B：ファイル・ノート・筆記用具

回数	期 日	実習班 (幼稚園)	2限（講義）
			1-509 〈丸田〉
1	9月21日（木）	学内オリエンテーション	
2	9月28日（木）	附属幼稚園とのオリエンテーション	
3	10月 5日（木）	A	B
4	10月12日（木）	B	A
5	10月19日（木）	A	B
6	10月26日（木）	B	A
7	11月 9日（木）	A	B
8	11月16日（木）	B	A
9	11月30日（木）	A	B
10	12月 7日（木）	B	A
11	12月14日（木）	A	B
12	12月21日（木）	予備日	
13	1月11日（木）	B	A
14	1月18日（木）	予備日	
15	1月25日（木）	予備日	

※11月2日（木）大学祭飾り付け

○教育実習生の人数

クラス	人数 (R5)
1年1組	30名
1年2組	27名
1年3組	30名
1年4組	28名
総計	115名

○班の構成と人数

班	クラス	番号	人数
A	1組	No.1～30 (人)	57人
	2組	No.1～27 (人)	
B	3組	No.1～30 (人)	58人
	4組	No.1～28 (人)	

○幼稚園長 小島 久須美 総務副園長 富田 智恵
 副園長(保育園部) 本田 恵美子
 主任 豊田 泉鑑
 副主任(保育園部) 川田 麻里

○附属幼稚園クラス配当人数

	学年	クラス名 (園児数)	担任	A班人数	B班人数
1	満3歳児	もも (20名)	H1	6	6
2	3歳児	たんぼぼ (17名)	O	8	7
3		ちゅうりっぷ水 (15名)	K	6	7
4		ちゅうりっぷ藤 (16名)	H2	7	7
5	4歳児	きく (28名)	Y1	7	8
6		ばら (27名)	Y2	8	7
7	5歳児	さくら1 (26名)	T	7	8
8		さくら2 (26名)	I	8	8

図 2

次に観察実習の流れを記してみる。

(観察実習の流れ)

- 8 : 30 ○下津公園集合 → 附属幼稚園へ
 ○担当クラスへ (朝の外掃除など手伝う。)
- 9 : 00 ・登園時から朝の準備、遊び、昼食の様子までを観察
- ～12 : 10 ○観察実習終了 → 大学に戻る。
- 16 : 20～ ○担当クラスにて反省会

※各クラスの週日案を配布

※実習観察記録は教育実習担当者が対応

※反省会記録は各担任が対応

※その都度細やかに連携を取り、保育学科・幼稚園がそれぞれの立場で個々の学生にアプローチしていくことが重要であるとする。

このように、基本的な幼稚園教育実習の流れを記してくることによって、あらためて課題が浮かび上がってきた。

3. 課題

(1) 附属幼稚園における短期大学の実習の在り方

幼稚園は幼児にとって、心身共に成長していく生活や遊びの場である。保育学科生（実習生）はその環境や遊びを妨げない姿勢が大切である。保育学科生にとっては保育の現場を知ることによって、あらためてその魅力に触れ、自分の適性を知り、幼稚園教諭になるという強い思いを自覚する学びの場である。これらのことを踏まえ、幼稚園・短期大学は、幼児・保育学科生が互いに育ちあう教育の場となるよう短期大学と附属幼稚園がそれぞれの立場で細やかな話し合いのもとに授業計画をたてる必要がある。

(2) 幼稚園教育実習の中で幼児と触れ合い、園生活を過ごすことは魅力的であるが、日々の観察記録が保育学科生に負担になっていることが見受けられる（このことは日本中の養成校の課題となっているようである。）無論、保育学科生だけでなく保育者側においても負担になっている。

幼稚園でも ICT 化が進む中、保育学科生においても情報機器を活用し記録など事務処理の合理化を図るなど保育者・保育学科生双方において負担を緩和する工夫が今現場に必要なになっているのではないか。

4. おわりに

思えば自分自身も幼稚園の担任の先生に憧れ、園児の頃から幼稚園の先生になりたいという夢をもって来た。成長するにつれ自分は本当に子どもが好きで一層保育者になりたいと強く心に思ったものである。領域「環境」の第1回授業で「どんな保育者になりたいですか?」「その理由は?」と尋ねてみると、その回答から今現在も保育者を目指す多くの保育学科生は、こうした一途な思いをもっていると感じる。

筆者は昭和58年に本学の保育科を卒業しそのまま附属幼稚園に就職する。幼稚園生活の見通しが立たず、右も左もわからないまま日々が過ぎていき、先輩の先生方に迷惑をかけ、落ち込む日々であったが、クラスの担任として幼児から笑顔で「先生大好き!」と言われることだけが励みで過ごす毎日であったような気がする。一年目の前期は保育科2年生の部分実習、後期は保育科1年生の見学実習で毎週火曜日に入れ替わり実習生指導をしていたことを思い出す。今振り返ってみると3年目頃までは指導という指導ができるはずもなく、ただ保育学科生に近い目線で幼児について保育について語り合うことで、自分自身が成長できる場でしかなかったと思う。本音を言うならば、担任として保育をすることが精一杯の中、実習生を十数名引き受けなければならないのかと苦悩し

た。しかし、先輩方の姿や助言によって何とか乗り切ることができたことが現実である。

クラス担任として21年間、保育学科生の実習指導に当たり、主任として6年間、副園長として3年間、園長代理・園長として11年間附属幼稚園として現場の立場から幼稚園教育実習を担ってきた。主任として以降は直接的な実習担当ではなかったが、幼稚園の役割について全般的な説明を行い、記録や指導案の書き方について自信のない保育学科生には対応してきたつもりであるがとても充分とはいえない。今振り返ってみると、保育学科生を指導してきたつもりがむしろ、そうした経験が自分自身を保育者として育ててもらったのかもしれない。やはり、真の保育者は保育の現場で育てていくことが大切なのだと思う。

附属幼稚園の実習で、保育学科生ははじめて幼児と生活を共にすることで幼児を理解しようとし、幼児にとってあそびと生活の中に学びがあることを知り、その援助や環境構成の大切さに気付いていく。またピアノや製作などの保育技術、自分の生活態度や健康管理の必要性など保育者としての自己課題の発見にもつながっていく。実習を通して得た課題は以後の学習意欲を育むに十分な成果が期待できるものであり、保育者への新たな自覚を得る機会として、かけがえのない意義をもっている。

保育学科のオープンキャンパスに参加した学生のアンケート調査から、幼児と触れ合える喜びを感じた学生が多いと聞く。幼児と触れ合うことで、その時点からすでに保育者としての意識が芽生えてきているのではないだろうか。

文部科学省より令和3年8月に教職課程コアカリキュラムの教育実習の全体目標として「教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。

一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。」注4) とある。

更に附属幼稚園における教育実習の意義は、「実習前実習」ができるということが大きいと思う。学外に出て2週間から3週間実習するということは並大抵ではないストレスがかかることは言うまでもない。実習で一層保育者として期待を持つ保育学科生は少なくないが、中には幼稚園免許をあきらめる保育学科生もいると聞く。

附属幼稚園で実習を経験することで学外実習に見通しや余裕がもて、附属幼稚園の先生との関係性で些細な悩みでも相談することができるコミュニケーション能力が育まれる。そのステップを経て学外実習を迎える精神的余裕ができるのである。

この精神的余裕は、本学のような教育理念を持っている大学には特に重要である。ともすれば4つの心（勇気・親和・愛・知性）の芽は些細なストレスでも均衡・発達するものに歪みを生じさせてしまうからである。

そこで躓き自信をなくした保育学科生がいたとしても、保育学科の先生方と附属幼稚

園の先生方が協力し細やかな打ち合わせや配慮をして補完実習が行えるのも附属幼稚園
ならでは、であり、更にはこの4つの心を着実に育むための教育実習システムであると思
う。

以上、附属幼稚園における幼稚園教育実習の意義を求めて、自分なりの考察を加えて
みた。

【引用文献】

注1) 令和6年度認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園 入園のご案内より P2

注2) 令和5年度 東筑紫短期大学 保育学科 教育実習 シラバス 丸田敦子

注3) 幼稚園教育実習実施要項 令和5年度 東筑紫短期大学 保育学科 P7

注4) 文部科学省 教職課程コアカリキュラム 平成29年11月
教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会 P29

【参考文献】

1. 東筑紫学園廿年史 東筑紫学園
2. 東筑紫学園卅年史 東筑紫学園
3. 東筑紫学園四十周年記念誌 東筑紫学園
4. 幼稚園教育実習実施要項 令和5年度 東筑紫短期大学 保育学科
5. 文部科学省 資料3 教職課程の改善・充実について
(教職課程の改善・充実の関する協力者グループにおける検討)
6. 幼稚園教育実習についての一考察
ー江戸川大学子どもコミュニケーション学科一期生の実態からー
浅川 陽子・猶原 和子

園と地域がともに育てる子育て支援

Child-rearing support nurtured by the kindergarten and the community together

本田恵美子

Emiko Honda

1 はじめに

人口減少・少子高齢化や核家族化・価値観の多様化等のさまざまな社会状況や子育て環境が変化し、それを取り巻く子どもの生活環境にも大きく影響している。例えば、子どもが自ら主体的に環境に関わっていくことや子ども同士で互い関わりあって遊ぶことが減るなどして、様々な体験の機会が少なくなっている。また、ゲームやインターネット等の情報化社会の影響により、室内での遊びが増え、自然や地域の中で人に関わる経験も少なくなっている。かつては、「子どもを育てる」ということは親だけでなく、近所の大人もともに育ちを支えていたが、今は、地域の大人が子どもの育ちに積極的に関わろうとしない、またはかかわりたくても価値観や多様な考えがあり安易にかかわりにくい環境にあるなどの問題がある。よって、子育て家庭は地域社会との交流が少なくなり、孤立してしまっているケースもある。そのため、子育ての不安や育児ストレスが元となり、子どもの健やかな育ちが脅かされる事態となることも少なくない。虐待やネグレクトにより子どもの最善の利益が危ぶまれる事件も起こっており、発生を予防または早期に察知し、対応することが重要である。地域全体が子どもや子育て家庭を見守り、支えていくということは、喫緊な課題であり、関係機関等との連携及び協力を図っていく中で、幼稚園・保育園・認定こども園（以下、「幼稚園等」）の子育て支援の在り方を考えていかなければならない。以下、筆者のこれまでの保育実践を踏まえて、【事例1】から【事例6】までを上記のタイトルの下に考察してみることにする。

2. 幼稚園・保育所・認定こども園に求められる子育て支援

幼稚園の運営に当たっては、子育ての支援のために保護者や地域の人々に機能や施設を開放して、園内体制の整備や関係機関との連携及び協力を配慮しつつ、幼児期の教育に関する相談に応じたり、情報を提供したり、幼児と保護者との登園を受け入れたり、保護者同士の交流の機会を提供したりするなど、幼稚園と家庭が一体となって幼児の取組を進め、地域における幼児期の教育のセンターとして役割を果たすよう努めるものとする。

(1) 幼稚園教育の子育て支援

幼稚園は、「幼児の生活全体が豊かなものとなるよう家庭や地域における幼児期の教育の支援に努めるものとする」となっている。

(2) 保育所の子育て支援

保護者に対する子育て支援を行う際には、各地域や家庭の実態を踏まえるとともに、保護者の気持ちを受け止め、相互の信頼関係を基本に保護者の自己決定を尊重すること。

保育所の子育て支援においては、保護者とのコミュニケーションと信頼関係が重要である。保育士等は、一人一人の保護者を尊重しながら、保護者の気持ちを受容し、保護者を深く理解する。そのことによって、信頼関係を築くことができ、それが子育て支援の基本である。

(3) 幼保連携型認定こども園の子育ての支援

地域の子どもが健やかに育成される環境を提供し、保護者に対する総合的な子育て支援を推進するため、地域における乳幼児期の教育及び保育の中心的な役割を果たすよう努めること。

幼保連携型認定こども園は、1号認定から3号認定まで様々な保育形態の子どもがいることから「全ての保護者の相互理解が深まるように配慮すること」また、教育時間終了後の預かり事業等の活動に関して、「保育教諭間及び家庭との連携を密にし、園児の心身の負担に配慮すること」を留意事項としている。幼保連携型認定こども園は、幼稚園・保育園双方の子育て支援の観点が求められている。

以上、幼稚園教育要領・保育所保育指針・における「子育て支援」を取り上げてみたが、いずれにしても、保護者へのサービスではなく、「子どもの最善の利益」を考慮したものであり、「子どもの健やかな育ち」のための子育て支援でなければならないということを、保育者として基本的な認識としておきたい。

3. 子育て支援における園や保護者・地域との連携の必要性

「子ども・子育て支援法」の第2条（基本理念）では、「子ども・子育て支援は、父母その他の保護者が子育てについての第一義的責任を有するという基本的認識の下に、家庭、学校、地域、職域その他の社会のあらゆる分野におけるすべての構成員が、各々の役割を果たすとともに、相互に協力して行わなければならない。」と記されている。このように社会全体で子育てを支えるためには、社会の構成員がそれぞれの役割を果たすとともにさまざまな連携が必要になる。地域子育て支援拠点事業の実施要綱においても、他の専門機関や園による活動等と連携をしながら事業を展開するように求められている。こういう基本的認識の中で、個々の幼稚園や保育園が役割を実現していかなければならない。

4. 園における子育て支援の実践例

今まで筆者が保育者（幼稚園3年・保育園18年・こども園2年勤務）として、保育をしてきた中で、子どもの育ちや学び・保護者や地域との連携の事例をあげる。

【事例1】子育て親子の「居場所」や「出会いの場」作り（地域子育て支援事業）

《 福岡県行橋市 行事保育園（H20～H23） 》

園に併設された子育て支援事業は、市内の未就園児の親子を対象とし、週に3回（10時～15時）開催している。子育て中の保護者が集まり、わらべうたあそびや製作・簡単なクッキングなど親子で一緒に参加し、楽しむ。その中で子ども同士を遊ばせながら保護者間で自由に相談や意見交換もできる「集いの場」。子育て家庭の育児不安や悩みは尽きず、様々な意見が飛び交う。

●活動内容

保育者や参加者同士で何気ない会話を楽しみながら子どもと遊んで過ごし、時間になるとその日の活動を開始する。

- ① 親子で一緒に遊ぶ …わらべうた・水遊び・公園に散歩など
- ② 育児相談会 …講師による育児講座・専門家による育児相談
保護者間でのワークショップ
- ③ 参加者間の交流 …園との交流・公民館等で「おはなし会」の開催

保護者は、自分の子どもだけではなく、他の子ども達との交流をもつことで、子どもは一人一人に発育や特性に違いがあることを具体的に感じ、安心して子育てができるようになる交流の場である。

【事例2】多世代間交流や関わりを通じて（高齢者施設との交流）

《 福岡県苅田町 白川保育園 R15～H19 》

「敬老の日」に、慰問をしていた高齢者施設に「デイサービス」があり、子どもの散歩途中に、職員の方が「遊びにおいでよ」と声をかけてくださったことがきっかけとなり訪問するようになった。最初は、興味津々に施設の中に入った子どもたちだったが、利用者の方々を目の前にすると、表情が一変。高齢者とふれあう機会が少ない子どもたちにとって、不安でしかなかったようだ。しかし、何度か訪問するうちに、利用者の方がリハビリをしている姿を眺めたり、時には歌をうたいながら肩たたきをしたり、一緒に折り紙やぬり絵をしたりして会話を楽しむようになった。その中で、下記の表は高齢者と子どもが関わることで互いに受けた影響である。

子ども	高齢者
・いろいろな知識や経験を教わる。	・自分の知識を子どもに伝えることで新しい役割を見つける。
・高齢者への労りの気持ちや思いやりの心が育まれる。	・役割意識の活性化（生きがいを感じる）
・やり取りの中で礼儀や作法を学ぶ	・脳の活性化（意欲向上）

また、保護者には、「日々の連絡帳」や「クラスだより」を通して、交流の様子を知らせた。家庭では見ない子どもの姿に驚いたり、交流で経験したことや楽しかったことが家族での会話の一つになったりしたようで、保護者は喜んでいて。中には、子どもに「こうやってするといいよって、おじいちゃんが教えてくれたよ」と言われることもあり、保護者自身も子どもから学ぶことがあると話していた。

【事例3】コロナ禍での高齢者との交流

《 北九州市 あだちのもり保育園（R3.4～H4.3） 》

コロナ禍で、高齢者施設への訪問や交流をすることは、感染した場合のリスクが大きいことから一旦中止せざるを得ない状況であった。しかし、先の見えないコロナ禍だからといい、子どもの経験や育ちが失われてしまうのではと考え、園内でできる高齢者との交流を検討した。園には、用務員（80代）が在籍しており、検温・消毒・換気などの感染対策を十分に行い実施できた。

●コロナ禍での活動内容

「敬老の日」 …敬老会を開催し、子どもが用務員へインタビューをする。また、用務員は昔の話や様々な経験談を子どもに分かりやすく話し、交流をもつ。

「勤労感謝の日」 …子どもたちが用務員の仕事や日頃の様子を話し合い、感謝の気持ちを伝える。0歳児から5歳児までの子どもたちが協力してカレンダーを製作し、一緒に添える。

「昔遊びの日」 …正月遊びの中で「こま回し」「メンコ」「けん玉」などを用務員が担当する。子どもたちに手本を示したり、遊び方を教えたりする。

【事例4】地域の町おこしイベントに参加し、子どもとともに地域の活性化

《 福岡県苅田町 白川保育園（H12～H19） 》

子どもたちが、地域の町おこしイベントに参加し、園の活動として行っている「和太鼓」を披露する。「小さな子どもたちが叩く太鼓の音に、町も活気や元気をもらえる」と地域の人やそれを企画した人たちは喜ぶ。

その後は、子どもと保護者が一緒に、ステージイベントや「あそびの広場」に参加したり、食事を一緒に食べたりして、家族団欒のひと時を楽しむ。食事をしながら親が子どもへ「和太鼓を叩いているところ、かっこよかったよ」と、褒めると嬉しそうにほほ笑む子どもの姿や親子で真剣に遊びを楽しむ姿が印象的であった。

【事例5】地域の園や学童保育と連携協力し、人的交流を図る

《 福岡県 白川保育園・行事保育園 (H17.18.19) 》

地域の園や小学生(学童保育)との交流体験活動。地域交流園(3園)での交流の場を『どんぐり団』と称し、春は近くの山で『筍掘り』・夏は『カブトムシ・クワガタ捕り』・簗島海岸での『地引網体験』など、季節に応じて、親子での交流体験をする。

① 筍掘り体験

竹林に入ると、小さな小川や急な山道など、様々な自然が出迎えてくれる。筍が掘れる場所に到着し、地面に目を凝らすと、筍の先が少し顔をだしている。それを見つけた子どもは「わぁ！たけのこだ！」と喜ぶ。子どもたちが最初にスコップで筍の周りを掘りはじめ、続いて大人が鍬で根元まで掘り起こす。「紫色のブツブツ(筍の根)が見えるまでね！」と親子で目標をもって掘った筍を見ながら「筍の皮には毛が生えているのだね」「紫色のブツブツはなあに」と興味津々に親子で会話する。皮をむいて遊んでみたり、生のタケノコを味わってみたりと土から出ている野菜の強さを感じたり、いろいろな友だちとの交流を楽しんだりする体験である。

② 地引網体験

地元の海岸に集まり、地引網体験をする。準備された地引網の綱を50人近くの子どもや大人と一緒に沖から浜に向かって引っ張っていく。浜に近づくと連れて網の中の魚が跳ねはじめる。子どもたちのわくわく・ドキドキは高まり、網の中の魚を見たときは感性をあげて喜ぶ。終了後は、みんなで海のゴミ拾いをする。海を綺麗にすることで、海の生き物の命が守られること等、地球環境について考えるきっかけとなっていく。

③ 田植え体験(保幼小の交流)

園児と小学生と一緒に田植え体験をする。裸足で土の感触を味わい、ぬかるみに足をとられながらも、小学生は園児をしっかりとサポートして一步一步田んぼに入る。ロープに沿って一列に並び、「おいしいお米になってね」と皆で願いを込めながら植えていく。終了後は、土で汚れた足を小学生が洗ってくれたり、着替えを手伝ってくれたりし、一緒に経験することで、お互いを思いやる優しい心の育ちが見られる。また、体験したことを家庭で話し、家族のコミュニケーションにもつながる。秋になると収穫をし、脱穀機を使って米の脱穀してみたり、粃殻をとってみたりし、食についての学びだけでなく、地域の風習や文化に触れるよい機会となっている。

【事例6】保護者の「保育体験」を通して

《 認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園 (R6.2) 》

本園では、今年度の「自己評価」の取組指標のひとつとして「保護者と協働的な関係性を生み出す工夫」がある。園での子どもの姿を口頭やクラスだより等で知らせ、子どもの育ち理解や保護者に園行事へ積極的に参加をしてもらい、保護者とともに子どもの育ちや成長を共有することで、より園への理解や信頼関係が深めてもらうことを目標としている。3学期に入り、保育者間で声が上がリ、計画し、保護者に「保育体験」の参加を募った。予想外にたくさんの参加希望が

あり「絵本の読み聞かせ」「ボールあそび」「ままごと遊び」など、保護者自身がさまざまな保育内容を考え実践してくれた。体験に参加した保護者からは「たくさんの子どもと遊ぶことができ楽しかった」「改めて、先生方の変えが実感できた」などの感想をいただいた。また、この体験で園を身近に感じられるようになったのか、温かな雰囲気笑顔で話す保護者の変化も心なしか感じられた。

5. 実践を通しての考えや今後の課題

【事例1】については、15年前に事業立ち上げから携わり「子育て支援」への理解を深めるきっかけとなった。未就園児の親子の関わりや遊びを支えるだけでなく、子育てについての悩みや相談も受けながら、保護者自らが子育ての楽しさを感じることができるよう配慮していくことの必要性に気が付いた。「孤育て」とも言われるようになり、一人で悩みを抱え込む保護者は増えている。その悩みを聴くことで、保護者の表情は明るくなり、子どもの表情にも笑顔がみられるようになる。それが、本当の子育て支援だと感じた。また子育て支援事業のよさは、参加した保護者が他の支援センターや育児相談会で出会った人たちを誘い、支援の輪が次々と広がっていくことである。その時に感じたことが「人と人とのつながりの大切さ」である。しかし、地域支援の場に参加しない・できない子育て家庭がいることも現状である。そのような子育て家庭への支援も含め、さまざまな機関との連携を図りながら、子育て支援の輪を広げ、地域の子育て力を向上していくことは、今後も大事である。

【事例2】【事例3】で、多世代交流を積極的に行うことで、高齢者は「子どもから元気と意欲をもらおう」「いつまでも元気でいたいね」と話す。子どもは高齢者からさまざまな知識や経験を教わったり、歩くことが不自由な方、耳が聞こえにくい方にかかわるためにはどうしたらいいのだろうかと考えたりすることで、労りの心を学ぶことができ、相互理解の関係ができていた。また、筆者が保護者に交流時の子どもの姿を伝えることで、保護者は子どもの興味・関心や心の成長を、ともに喜び合うことができた。核家族化が進み、高齢者とかかわる機会が少なくなっている中での「新型コロナウイルス」は、より交流の機会を失われた。しかし、その中で「今できること」を工夫し実践していくことが必要だと考えた。

【事例4】に、毎年、参加を繰り返す中で、子ども・保護者・園の職員・地域とのかかわりが深まり、イベントに参加するだけでなく、子どもや地域の情報交換を互いに行う場ともなってきた。高齢化や人口減少で小さな町の行事や祭りの担い手が減り、日々の生活維持さえ困難になる地域が増えていると言われていた中、園と地域と協働しながら進めていくことで、地域の力とともに保育を豊かにしていくことができると思う。

【事例5】『子ども同士の交流活動は幼児と児童と一緒に活動し、双方にとって意義のある交流活動となるようにするとともに、継続的に取り組み、交流が深まるようにすることが大切である。(保育所や幼稚園等と小学校における連携事例集より)』と記されている。子ども・小学生・保護者との活動を通して、子どもたちにとって新しい人や活動との出会いや「自然の恵みを感じる」という日頃できない体験は、心身ともに子どもの豊かな学びとなることが、自身も体験して

感じた。今後は、幼保小の連携を通して「小学校への円滑な接続する」「架け橋プログラム」などについて、自身の学びを深めていきたい。

【事例6】

参加した保護者の声や変化から園への理解や信頼関係がより深まったことを感じられた。また、体験を通してのアンケートも行っているので保護者の感想や意見が楽しみである。集計後は、保育者間で良かった点や改善点を見直し、来年度はより多くの保護者が参加してもらえればと考える。期間については、子どもの育ちや教育的配慮を考慮し、行っていきたいと思う。今回、小さな一歩を踏み出したばかりなので、今後、保育体験を子育て支援の観点から、別途考察するつもりである。

6・まとめ

幼児期をともに過ごしてきた子どもたちが成人となり、幼児期の思い出話をするときは、「原体験」(直接体験)の話が魅力的である。原体験は、幼児期から小学生にかけて自然の中で遊び、ふれあいを通じて育成される「思考力」「判断力」「表現力」などが人間としての「生きる力」であると言われている。実物に触れながら実際に行う「直接体験」はいつの時代でも子どもだけでなく、大人にとっても大変重要なものである。その体験を通して、さまざまな人と関わり、直接体験したことややり取りをしたことは、今も心に深く残っているようだ。

幼稚園や保育園で友だちや教師との活動での学びは大きく、重要な育ちとなっていることは言うまでもないが、地域や異年齢との交流を通して様々な学びがあることは、実践を通して感じられる。これらの取り組みを継続していくことが、子どもの学びや経験の幅を広げていくのに必要な経験である。子どもにとっての経験を豊かにしていく活動を続けるためには、園・保護者・地域と連携や協働して進めていくことが重要であり、今後の課題でもあると考える。

現在は、子ども園で0歳児クラスを担当し、子どもが安心して心地よく園生活を過ごすことができるように、日々の子どもの姿や成長を保護者とともに見守り、喜び合いながら保育している。時には、育児不安や悩み相談を受けることもあるが、そのような時は、話を聞き、気持ちを受容・共感するようにしている。保護者が子育ての喜びを感じ、子どもの育ちにとってよりよい方向性を導いていくことが保育者の役割である。子育て環境や地域により、保護者が求める子育て支援や抱える悩みは多様であるが、その多様な子育て支援に柔軟に対応できるよう、地域子育て支援事業の拠点を担うこども園とし、今後も邁進していきたいと考える。

【引用・参考文献】

- (1) 文部科学省「幼稚園教育要領解説」平成30年 フレーベル館
- (2) 厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館

- (3) 内閣府・文部科学省・厚生労働省
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説平成30年」フレーベル館
- (4) 子ども子育て支援法 第2条
- (4) 保育学講座5 保育を支えるネットワーク―支援と連携 日本保育学会 2016年5月
- (5) 子ども大綱 令和5年 12月
- (6) 地域子育て支援拠点ガイドラインの手引き(第4版) 中央法規出版 2023年1月
- (7) 人口減少に向けた保育所・認定こども園・幼稚園の子育て支援 倉石哲也 中央法規出版
2023年 2月
- (8) 保育所や幼稚園等と小学校における連携事例集 文部科学省 厚生労働省 平成21年

幼稚園教諭・保育士養成校と実習園との連携に向けて

Toward cooperation between kindergarten teachers and Nursery schools and training schools

本田 恵美子

Emiko Honda

1. はじめに

保育者として、さまざまな子どもと出会う中で「おおきくなったらようちえんのせんせいになりたいな」「ほいくえんのせんせいになりたいな」と嬉しそうに将来の夢を話す姿を見てきた。そのあこがれの保育者を目指して幼稚園教諭・保育士養成校（以下、「養成校」）に進学し、勉学や実習に励み、免許や資格を修得し、子どもたちの幸せな幼児期を支える保育者という仲間となっていることは、とても嬉しいことである。しかし、中には実習の負担を感じ保育の道を断念する学生、免許・資格修得後は幼稚園・保育園・こども園等（以下、「幼稚園等」）に就職しても辞めてしまう学生、小さな頃からあこがれていた保育者への夢や目標は何をきっかけに変わってしまうのだろうかを考える。

今、全国的にも保育者の人材が不足していると言われている。子どもの年齢や人数に対する職員配置基準【園児数：保育者数】は、北九州市の場合は0歳児3：1、1歳児5：1、2歳児6：1、3歳児20：1、4・5歳児30：1と子どもの年齢が低いほど保育者数が必要である。処遇改善や労働環境の改善を行い、保育者の採用と定着の向上をしていく取り組みを行政や自治体も行っているのも関わらず、人材確保は難しいことが、今の幼稚園等の現状である。

筆者は現在、母校である東筑紫短期大学の附属幼稚園（認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園）に勤務させていただいている。そこで、保育学科生1年次（後期）の見学・観察実習を受け入れているが、学生は安心して実習に取り組む姿がある。それは、保育学科と附属幼稚園との細やかな連携により、実習内容や学生一人一人への配慮がなされているからである。そこで、筆者が他園で実習生（4年制大学・短期大学・専門学校など）を受け入れる中で、養成校と実習園との連携はどのようなことが必要であるか、実践してきた実習内容や対応を振り返りながら考察を試みる。

2. 教育実習の目的と背景

筆者の母校でもある東筑紫短期大学保育学科の「幼稚園教育実習実施要項」には、教育実習の目的の中に「教育実習を通して実践力・応用力が身につくとともに、教育理論がさらに深化し、より豊かになります。教育実習は理論と実践を統合し、実践的指導力を身につけることを目指しています。」と記されている。実習は、子どもとのふれ合いや保育者との関わりという実体験を通して、実践的な力を身につけることができ、座学では学べないとても重要な社会経験の1つで

あると考える。保育者を目指す学生が、実習を通して保育のスキルを獲得するだけでなく、子どもと関わる喜びを感じることで保育の道に進む意欲をもち、有意義な実習としていきたいと考える。

【資料1 オリエンテーション資料】

教育実習について

〇〇幼稚園

(1) 実習期間

〇〇年 △月 △日 (△) ~ △月 △日 (△)

(2) 実習生氏名

〇〇 〇〇〇 (〇〇〇短期大学)

(3) 教育実習の目的

- ・幼稚園の教育方針・機能や役割の理解
- ・1日の生活の流れ
- ・教師の幼児へのかかわり方や指導の仕方
- ・幼児の興味・関心、友達とのかかわり方 など

(4) 勤務時間

8:15~17:00 ※出勤後は、出勤簿に必ず捺印をする …保育所の場合は早出や遅出も経験する。

(5) 実習の配属クラス、担当教諭

〇歳児 〇〇組 (名) 担任 〇〇 〇〇〇

(6) 教育実習の持ち物、服装について

- ・活発で動きやすい服装
- ・メモ用ノート、筆記用具、帽子、水筒
- ・エプロン、三角巾 (給食用) ・上靴、下靴 など

(7) 実習にあたってお渡しするもの

- ・園の概要 (教育理念・職員構成・園児数等も含む)
※個人情報に関わるため、実習終了後は返却してください
- ・指導計画 (年間・月案・実習中の週案)
- ・幼稚園の一日の流れ
- ・園だより
- ・年間行事予定表

(8) その他

- ・進んで明るく挨拶をしましょう。
- ・幼児の遊びに自ら参加し、一人一人との関わりをしながら幼児理解を深めましょう。
- ・実習日誌は、その日又は翌朝に、担当教諭に提出してください。

をもちにくいことが感じられ、独自のオリエンテーション資料【資料1】を作成し、実習についての概要を口頭ではなく、目で見て分かりやすいものを掲示し、学生と一緒に実習内容について確認していくようにした。教育実習計画【資料1(9)】については、学生自身が経験したいこと(手あそび・絵本読み聞かせ・ピアノ伴奏・責任保育など)を中心に、実習計画を組み立てるようにしていった。

養成校からの実習内容(実習で経験してほしいこと)については、各学校で異なり、実習日誌の書式や責任実習の在り方など様々で、それらを実習園でそれぞれに対応することができていたかという点、そうではなく、自身の実習生時代の経験を基に指導を行い、いわゆる自己流の実習指導を行っていたように思う。

3. 養成校と実習園との連携の必要性

実習後に学生との談話(反省会)をもつと「子どもとたくさん遊び、声もかけてもらい楽しい実習でした」「1つ1つ丁寧に指導してくださり、いろいろなことが学びとなりました」「絵本や手遊び・手作り玩具など、準備してきたものを子どもたちが喜んでくれ、嬉しかったです」など、充実した実習ができたことを感想として話す。しかし、中には悩みや不安を抱えている実習生がいることも、後々になって耳にすることがある。「子どもとどのように遊んだらよいか分からない」「実習日誌の書き方が分からない・とても負担である」「教師に聞きづらいので、分からないことをそのままにしてしまう」「養成校で学んだことと教育・保育現場での現状の違いに戸惑いをもつことがある」「就職後、子どもの保護者対応に不安がある」等々。実習生の不安や困っていることの中には「子どもへの関わり方」「実習記録や指導案の作成」「人間関係」があることが分かった。

実習生の指導にあたって自身を振り返ってみると、幼稚園で教育実習を担当した際は、園児が降園後に、その日の実習についてのカンファレンスや翌日の打ち合わせを行う時間を十分に確保していたが、保育所での実習を担当した際は、保育時間が長いこともあり、その中で様々な工夫をしながら学生とのカンファレンスの時間確保をするが、時には実習生にとって十分な時間確保が困難なこともあった。そのため、実習生は聞きづらさを感じ、聞けず仕舞いで実習を終えてしまうこともあったのではないかと推測する。よって、そのような実習生、一人一人の学びや意欲を支えていくためには、養成校と実習園との連携を行い、実習園が考える実習だけではなく、養成校の現状や実習生の様々な思いも聞き、情報交換を行いながらより実りある実習としていくことが必要であると感じた。

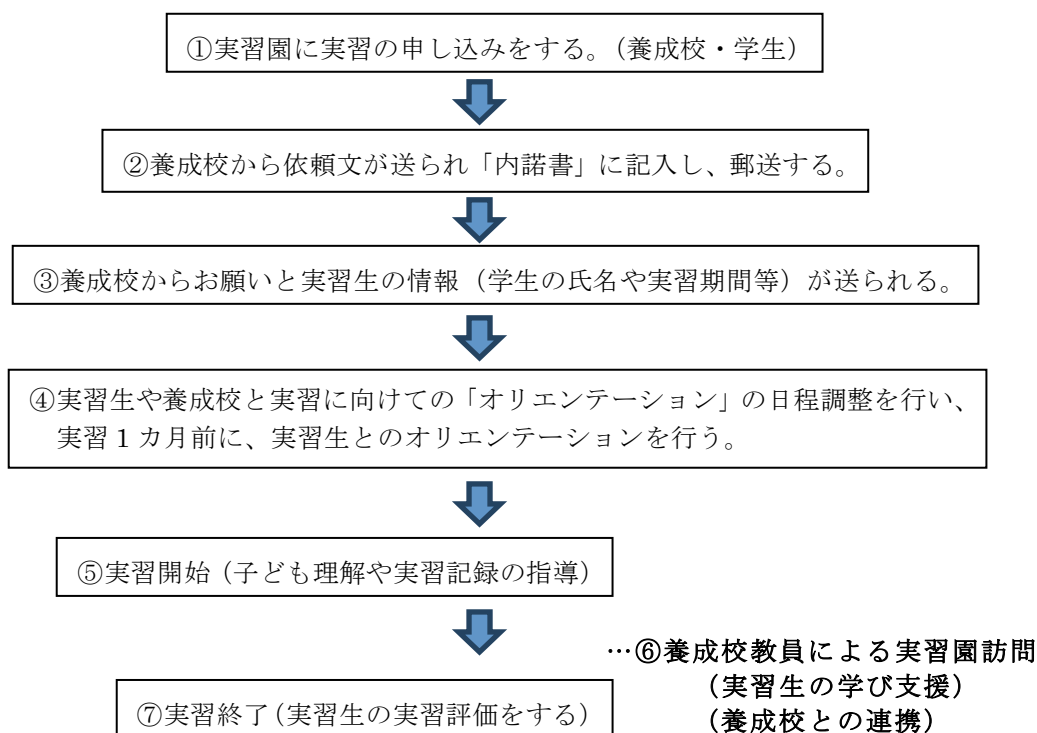
4. 養成校と実習園の連携状況と今後の課題

教育・保育実習が行われるまでの流れ【表1】は、養成校と実習生からの実習依頼があった後は、オリエンテーションの日程調整等、実習生とのやりとりが中心となる。これは、社会人としての自覚をもつ練習として必要なことであると思う。オリエンテーションでは、園の概要・実習内容の打ち合わせを行う。表中の「⑥養成校教員による実習園訪問」で、養成校の現状や実習生

一人一人の内面的理解をしているのが現状である。

【表1】

《 教育・保育所実習が行われるまでの流れ 》



保育者は子ども理解を深めるために、子どもの発達過程や状況を理解しながら、保育環境(人的・物的・自然・社会的)を準備し、子ども一人一人に応じた援助をすることが求められている。子どもの見えている姿のみに注目するのではなく、発達や内面の育ちに沿った保育をすることで、子どもとの信頼関係ができ、主体的・対話的学びが育まれていくことができる。学生の実習もそれと同様に考え、実習の担当者は指導者であると同時に支援者としても実習生に接することの必要性を感じている。実習生が養成校でどのような学びをしているか、実習生の思いや不安はどのようなことか等、実習生の内面的理解をすることで、一人一人に合わせた実習内容を検討していくことができる。また、実習生を受け入れる実習園の思いや考えることはどのようなことか等、学生・養成校・実習園の互いの思いや情報交換の場をもつことで「学生にとってどのようなかわりや実習の取り組みが必要か」という様々な課題を互いに分かり合うことができる。学生自身が主体的・対話的で深い学びができる実習になるためには、養成校と実習園がより実質的・具体的な連携でつながっていくことが、今後の課題であると考えられる。

7. まとめ

2017年に幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(以下、「幼稚園教育要領等」)の改訂(改定)により、幼児教育において育みたい資質・能力及び「幼

児期の終わりまでに育てほしい姿」が告示された。また、保育の資質・能力の向上により「子どもの主体的・対話的学び」を中心として保育が進められるようになった。また、教育実習は「教育実習を通して実践力・応用力が身につくとともに、教育理論がさらに深化し、より豊かになります。教育実習は理論と実践を統合し、実践的指導力を身につけることを目指しています。」と記されている。幼稚園教育要領等の改訂により、教育・保育内容は大きく変化している。筆者自身の保育も振り返り・見直し、学生の学びが深まる教育・保育実習となるよう研鑽していきたいと思う。

現在、筆者が勤務している東筑紫学園は、九州栄養福祉大学、東筑紫短期大学、東筑紫学園高等学校、照曜館中学校、認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園がある。学園の教育は、一貫した共通の建学の精神「筑紫の心」を基に、「勇気・親和・愛・知性」の心を養い、個人の有する能力を伸ばす教育と社会において自主的に生きる基礎を培う人材育成を目指している。教育の連携や協働性の推進が重要視されている中で、教育の縦の連携や横のつながりがあることは、学生にとって安心して学びを深めることができる環境であるかと思う。特に保育学科の学生は、1年次に附属幼稚園での見学・観察実習を行い、実習後はその日の振り返りを行い、その中で質問や分からないことを尋ね、その場ですぐに子ども理解が深めることができる。また、学生一人一人に合わせたサポートもしやすく、学生がこれまでの学習で身につけた知識や技能を実習での体験を通して理解を深め、期待をもって2年次の学外実習に取り組むことができるのではないかと感じている。

筆者が大学キャンパスの中庭で、子どもたちと遊んでいると、学科を問わずいろいろな学生が子どもたちを見て、微笑みながら手を振ったり、傍にきて優しく声をかけたり、子どもとふれ合ったりしている。学生が心から子どもと関わる喜びを感じている瞬間だと思う。幼児期にあこがれた保育者を目指して進学してきた学生が、自信をもって保育の道へ進むことができるよう、養成校・実習園との連携の在り方をこれからも考えていきたいと思う。

【引用・参考文献】

- (1) 東筑紫短期大学 保育学科「幼稚園教育実習実施要項 令和5年度」1P
- (2) 文部科学省「幼稚園教育要領解説」平成30年 フレーベル館
- (3) 厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館
- (4) 内閣府・文部科学省・厚生労働省
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説平成30年」フレーベル館

7 高大連携 (農園実習)

学校法人東筑紫学園 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学
北九州市立高等学校との高大連携に関する協定締結調印式

- 日時：令和5年9月25日(月) 午前10時開式
○場所：宇城記念館3階会議室(北九州市小倉北区下到津5丁目1番1号)

【調印式次第】

- 1 開会
- 2 出席者ご紹介
- 3 協定書調印
- 4 両校代表者ご挨拶
- 5 写真撮影
- 6 閉会

【出席者】

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学

室井 廣一 理事長・学長
杉元 康志 学長補佐・地域連携センター長
中岡 寛 学長補佐・教授
藤本 公輝 法人事務局長
佐野 幹剛 教務部長・実習農園長

(他 地域連携センター事務局)

北九州市立高等学校

増田 順 学校長
増田 繁雄 副校長
能勢 大志 教諭
秋好 望美 教諭

北九州市教育委員会

篠原 係長

【配布資料】

- ・ 式次第
- ・ 協定書(複写)
- ・ 大学案内(募集要項)
- ・ 学校案内

<問合せ窓口>

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学
地域連携センター事務局
松成 翔(学生部 就職指導課)

093 - 561 - 2172

matsunari@hcc.ac.jp

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学と北九州市立高等学校との高大連携に関する協定書

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学（以下「大学」という。）と北九州市立高等学校（以下「高校」という。）は、相互の連携により、学校教育の振興並びに地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的とし、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、大学と高校が包括的連携のもとに、教育・研究及び文化等の分野で相互に協力し、学校教育の振興並びに地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的とし、相互協力・連携体制を構築するために協定を締結する。

（連携事項）

第2条 大学と高校は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項について相互に連携協定をするものとする。

- （1）教育内容及び教育方法に関すること。
- （2）教育・研究に関すること。
- （3）学習支援に関すること。
- （4）地域社会の発展に資すること。
- （5）その他、前条の目的を達成するために必要な事項に関すること。

（実施の方法）

第3条 大学と高校は、前条の各号に掲げる連携協力に関する事業を実施する場合は、当該事業ごとに担当する部署が協議するものとする。

- 2 前項の協議に関して、大学と高校は、予め、第2条各号の連携事業ごとにそれぞれ担当者を定め、相手方に連絡するものとする。加え、連携事業を実施するにあたり、高校から大学、または、大学から高校への要望が必要となる場合については、「要望書」を作成し、相手方に提出の上、担当者間で協議し、決定するものとする。

（経費）

第4条 本協定に要する経費の負担については、当該事業ごとに大学と高校が協議して定めるものとする。

（守秘義務）

第5条 大学および高校は、本協定に基づく活動において、相手方より知り得た情報については、本協定の有効期間中および有効期間終了後を問わず、第三者に対して開示または漏洩してはならない。ただし、事前に相手方の承諾を得た場合には、この限りではない。

(有効期間)

第6条 この協定は、協定期間の日から発効し、令和6年3月31日までとする。ただし、期間満了の1か月前までに、大学、高校のいずれかから、見直しの申し出がない場合には、更に1年間更新し、その後も同様とする。

2 この協定が終了した場合、その時点で継続している活動も終了することを原則とする。ただし、大学、高校のいずれかから活動中の事業継続を希望する旨の申し出がある場合は、当該活動の取扱いを別途協議するものとする。

(その他)

第7条 この協定に定めのない事項について、疑義が生じたときまたは本協定に定めのない事項について必要があるときは、大学と高校が協議して定めるものとする。この協定の締結を証するため、本協定書2通を作成し、大学と高校が署名のうえ、各自1通を保有する。

令和5年9月25日

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学

北九州市立高等学校

学長

空井慶一

校長

増田順

地域連携としての高大接続と行事教育としての農園実習の役割

九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科

地域連携センター 副センター長・農園長 教授 佐野幹剛

1. 学内に農園実習場を整備

平成 16 年（2004 年）4 月、労働福祉事業団九州リハビリテーション大学校（小倉南区葛原、現南区キャンパス）の閉校に伴い東筑紫学園が継承し、専門学校九州リハビリテーション大学校として開学した。その際、初代学校長の室井廣一先生のリーダーシップのもと、副校長であった坂口昇一先生、教学部長であった橋元隆先生と共に約 1 60 坪の学内敷地に学生が憩える場所と農園実習ができる畑を開拓した。



2. 行事教育としての実習農園の活用

平成 17 年度（2005 年）より毎年、重要な学内行事として 5 月に種蒔き祭、10 月に収穫感謝祭を実施している。平成 18 年度（2006 年）の収穫感謝祭からは、専門学校九州リハビリテーション大学の学生と九州栄養福祉大学食物栄養学部の学生がいっしょに作業するようになった。他学科が共同で作業を行うようになったのは、建学の精神に基づいた実学教育を実践していくとともに、食と運動の重要性の観点から少子高齢社会を担う同志として切磋琢磨していけるようにといった室井学校長の教育理念によるものである。

平成 23 年（2011 年）4 月、九州栄養福祉大学リハビリテーション学部が開設された。その年から、種蒔き祭・収穫感謝祭の趣旨として次のように明記された。九州栄養福祉大学では、人の健康生活の基盤となる「食と運動」を連動的にとらえる教育視点をカリキュラムに位置づけるだけでなく、食物栄養学部とリハビリテーション学部とが連携して、有機的に協働できる視野を持った専門家を養成するという使命を持つ。種蒔き祭、収穫感謝祭は、このような大学としての使命を具現化する重要な行事として位置づけられた。

さらに、種蒔き祭・収穫感謝祭の目的として次のように明記された。(1) 足立山の大地にふれてみよう、草をむしり、石をひろい、土をほり、田畑を耕そうという勇気の心を育てること。(2) 「健康生活の番人」をめざす同志として、作業を共有することで親和の心を育むこと。(3) 足立山の土のぬくもり、風のやさしさ、草木のおどる音、大自然から与えられる癒しの愛を感じることに。(4) 夏野菜の苗を植えるにふさわしい床の作り方、農具の使い方、作業の持つ身体的精神的効果に関する知識を体得すること（種蒔き祭）、作物を収穫するにふさわしい農具の使い方や作業の持つ身体的精神的効果に関する知識を体得すること（収穫感謝祭）。

平成 25 年 5 月に食ができるまでの総合的な教育(食育経験)の一環として、テニスコート上の空き地に約 100 坪の芋畑を増設した。平成 25 年 10 月 19 日の収穫感謝祭において、東筑紫短期大

学附属幼稚園の園児 61 名が初めて参加し、食の大切さ、自然への感謝を感じる体験ができた。



3. 地域連携センターの発足と高大接続、そして建学の精神に基づいた農園実習

令和 5 年（2023 年）7 月、九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 地域連携センターが発足した。さらに、令和 5 年 9 月 25 日、学校法人東筑紫学園 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学と北九州市立高等学校との高大連携に関する協定締結調印式が執り行われた。

この協定締結の趣旨及び建学の精神に基づき、また新型コロナウイルス感染症が 5 月に 5 類に移行したことを受けて食物栄養学部の室井先生とともに準備を進め、令和 5 年 10 月 21 日収穫感謝祭を実施した。食物栄養学部・リハ学部 1 年生 93 名、附属幼稚園年中組園児 55 名に加え、初めて北九州市立高校の 3 年生 12 名が参加した。実習内容は、教職員・学生・生徒・園児が心ひとつにして、5 月に植えたさつまいも（品種：紅はるか）を収穫することである。絹雲広がる清々しい秋空、広大な足立山の麓にある南区キャンパスの農園で、室井学長に収穫感謝祭祝詞をあげていただき、農園実習が始まった。学生が園児に掘り方を教えたり、芋を傷つけないよう優しくスコップを使ったり、虫を怖がりながらも芋蔓を探したりと、学生・生徒・園児が和気あいあいと芋掘りを楽しんでいた。今回の農園実習体験において、高校生は、本学の建学の精神である勇気・親和・愛・

知性の4つの心の発動の大切さを体現できたのではないか。この点において、高大接続における農園実習は、本学入学を希望する生徒たちの学習意欲を高める役割として重要であると考えられる。



引用文献

- 1) 佐野幹剛：学内実習農園の開設と行事・教科教育としての実践,九州栄養福祉大学研究紀要,Vol12,2015.
- 2) 九州栄養福祉大学ホームページ：

https://www.knwu.ac.jp/campuslife/news_detail.html?id=561

九州栄養福祉大学×北九州市立高校×GRAN DA ZUR

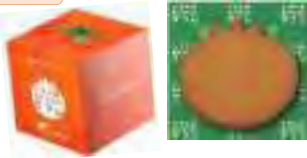
第2弾！！トマトのおんがえしサブレ商品開発への道のり ～響灘菜園の年間100t規格外トマトの復活を目指す課題解決プロジェクト～

第1弾



響灘菜園さんの規格外トマトを復活させる思いで、北九州市・企業と連携して第1弾「トマトのおんがえしカレー」の開発を行い、規格外トマト100t中1tのトマトを復活させました。

第2弾



第2弾は、「トマトのおんがえしサブレ」として、サブレ5枚でトマト1.5個分を摂取できる栄養価の高いサブレを作りました。レシピの開発については、将来、管理栄養士になる学生が考案し、マーケティングについては、北九州市立高校が中心となり何度も打ち合わせをし、商品開発を進めてきました。製造に関しては、北九州のお土産でGRAN DA ZURさんに協力を頂きました。第2弾も、売り上げの一部は北九州市子ども食堂に寄付し、「子どもの居場所づくり」の実現を目指します！！

北九州市立高校との連携について

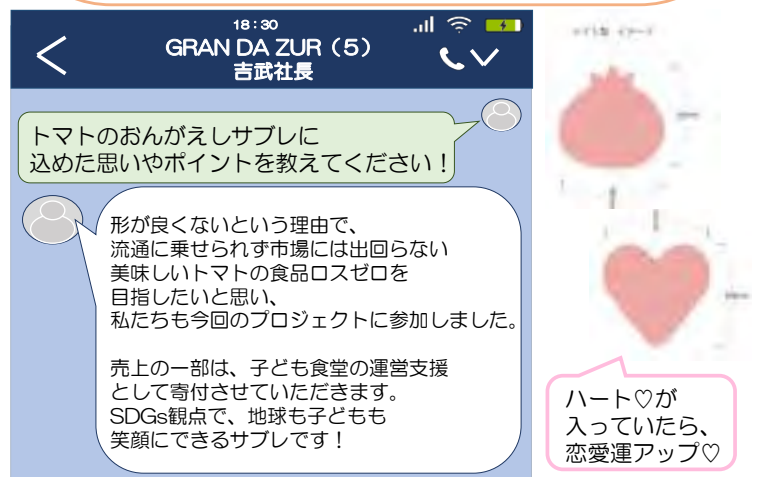
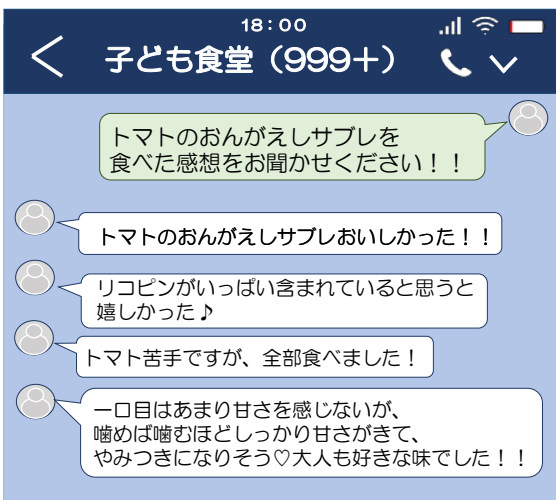
令和5年9月に、北九州市立高等学校と連携協定締結をし、食を通じた様々な活動を行ってきました。大学生はレシピの考案、高校生はマーケティングを中心に積極的に動き、井筒屋、ローソン、イオン、ゆめマート等、多くの北九州のお店で販売できることが決まりました。

市長と語ろう！みらいミーティングで、武内市長に試食してもらい、とてもおいしいと言って頂きました。今後の予定は、北九州マラソン2024で、大学生と高校生が、ランナーにトマトのおんがえしサブレを配布します。

3月14日の販売を目指し、宣伝活動中です！



北九州を代表するお土産になるようにがんばります！！



九州栄養福祉大学×北九州市立高校コラボメニュー！ 旬の食材を使ったカフェ風弁当

お弁当コンセプト

- ・地元の野菜に興味を持ってほしい！
- 地産地消の食材を使用(松浦ファーム)
- ・糖尿病の方でも食べられるお弁当！
- 食物繊維たっぷり！高タンパク質！低糖質！
- ・野菜不足を解消
- ・カフェ風の映え弁当→彩りを意識したお弁当
- ・春と冬をテーマにしたお弁当



お弁当メニュー

- ・鮭と枝豆の混ぜご飯
- ・鶏肉とれんこんのナゲット
- ・紫キャベツのサラダ
- ・低カロリーのポテトサラダ
- ・キッシュ
- ・菜の花のお浸し
- ・キャロットラペ
- ・きのこのソテー



栄養成分表示(1個当たり)

エネルギー	548kcal
たんぱく質	26.4g
脂質	14.2g
炭水化物	73.4g
食塩相当量	1.4g
食物繊維	11.3g

アレルギー表示(7品目)

小麦・卵・乳

1/2日以上の
食物繊維が摂取できる

1日に摂取すべき食物繊維の摂取量
年齢:18~64(歳)
男性:21g以上 女性:18g以上

参考文献:日本人の食事摂取基準(2020年版)

工夫したポイント

- 鶏肉とれんこんのナゲット**
→れんこんと豆腐でかさ増しすることにより、
食感・満足感UP!
- 低カロリーポテトサラダ**
→じゃがいもの半量をおからに置き換えて、
食物繊維たっぷり！便秘解消効果◎
- 紫キャベツのサラダ**
→生活習慣病を予防する効果◎
くるみを加えることで食感up!
さらに、悪玉コレステロール値を下げる効果あり◎
- 菜の花のお浸し**
→春の季節感を出すために春の旬の食材を使用
- きのこのソテー**
→炭水化物エネルギー比を抑えるために使用
油脂と一緒に摂取してビタミンDの体内吸収率up!

お弁当完成までの道のり

レシピ 開発

北九州市立高校の学生とリモートで打ち合わせを行い、コンセプトやレシピについて話し合いました。高校生が提案したアイデアを基に、大学生がアレンジを加えお弁当のメニューを作り上げました。



お弁当 の作成

今回のお弁当には、若松区にある“松浦ファーム”の野菜を使用しています。北九州市で育った野菜を使用することで地産地消に繋がります。また、お弁当の作成では、戸畑区にある“カフェアターブル”に協力していただき、作成したレシピ通りに作っていただきました。

今後の 展開

今後は、季節を生かしたお弁当や痛風予防弁当などお弁当の種類を増やし、戸畑のカフェや病院、介護施設等で提供できるような展開を目指しています。

レシピ紹介

■ 低カロリーポテトサラダ【作り方】

【材料】(2~3人分)

じゃがいも	120g
おから	60g
にんじん	40g
きゅうり	40g
ハム	20g
ヨーグルト	大さじ1.5
マスタード	小さじ1
塩	0.8g

1. おからを耐熱容器に入れ、ラップをして電子レンジで600Wで1分ほど加熱し、室温程度に冷ます
2. じゃがいもは皮をむき、4等分に切る。人参はいちょう切り、きゅうりは輪切りにする。きゅうりは塩をひとつまみふり、よく揉んでしばらく置き、ぎゅっと絞って水気を切る。ハムは短冊切りに
3. 小鍋にじゃがいもとにんじんがかぶるくらいの水を入れ、竹串がすっと入るまで茹でる。
4. じゃがいもはあついうちにポテトマッシャーやフォークの背などでお好みの大きさにつぶす。
5. ボウルでじゃがいも、おから、にんじん、きゅうり、ハム、調味料を混ぜ合わせる。



北九州市の企業とコラボ!

松浦ファーム

- ・北九州市若松区で100年以上続く専業農家。
- ・収穫した野菜は学校給食へ出荷



詳細が知りたい方は、
こちらからご覧ください!



cafe a table

- ・フランスの家庭菓子や季節のジャム、アイスクリームを作っているカフェ

行ってみたい方は、
こちらからご覧ください!



8 国際交流

国際連携

本学は、平成13年に、韓国の釜山女子大学、平成29年に、台湾の長庚大学、令和元年に、米国のベルビューカレッジと協力提携を結び、海外研修を企画、実施し、多様化のすすむ社会へ送り出す学生の国際感覚の向上に努めてきた。

ここ数年、欧米にくらべ、地理的により身近で、学生にとって経済的に英語が学べ、異文化を体験できるアジア圏の研修地を模索してきた。そして、令和5年10月に、フィリピン・セブ島のラプラプセブ国際大学(LCIC)との間に協力提携を結んだ。LCIC大学は、マクタン・セブ国際空港に隣接し、セキュリティもしっかりした施設を提供し、海外生活が初めての学生でも安心して語学あるいは異文化を学べる環境を提供してくれる。



学長グレース・ハモン博士(左から2番目)

また、提携校学外企画として、NGO団体 ANYA'S HOMEを訪問する。団体代表より、2年前の大型台風による洪水などの被害により、火が使えなくなり、大変だった経験から、火を使わないのでできるレシピと調理方法を教えてほしいとの依頼があった。

そこで、緊急時にも手に入りやすい缶詰で調理済の豆類(ひよこ豆や、金時豆、小豆)をジップロックに入れ、すりこ木等でつぶしトリュフ風にしたたり、地元では豊富に手に入る乾燥果物(マンゴー、パイナップル、バナナ等)、オートミール、水を混ぜ、数時間かけて、ジップロック内でふやかすレシピを現在提案する予定で準備中である。

令和6年3月末に、6泊7日のセブ研修中、LCIC大学の学生、教職員との交流企画を実施する。

【提携校学内企画】

①ChatGPTを利用した栄養指導

当日に飲食した内容を聴き取り、不足する栄養分を摂取するためのレシピ等の推奨。(栄養科の学生による)

②折り紙体験会

日本文化の紹介の一環として、折り紙創作実体験。(保育科の学生による)



LCIC職員



1. 研修先：韓国（釜山・慶州）

2. 日程：令和5年8月28日（月）～31日（木）3泊4日

3. 研修目的：本研修は、食と福祉に貢献するとともに、国際的視野を持った学生を育成

することを目的としている。今回で15回目であり、3泊4日の充実した研修であった。



8月28日、初日は釜山タワー、国際市場、チャガルチ市場、西面地下商店街・西面モール、ロッテデパートなどを見学した。



釜山タワーでは、釜山を一望できとても圧倒された。国際市場では、たくさんのお店がとても賑わっていた。夕食は、チャガルチ市場で



ヒラメの鍋料理を食べた。ホテルまでは地下鉄で移動する。

8月29日、歴史的遺産で知られる慶州にバスで約2時間ほどであった。午前中、韓国で有名な慶州パン作りを、現地の先生から直接



教わり綺麗なパンを作ることができた。作ったパンはそれぞれお土産として持ち帰った。



午後は、韓国の伝統衣装韓服（チマチョゴリ）の着付けをして、慶州の観光名所として脚光を浴びている場所皇南クンキル（大通り）



日本で言う京都を感じさせる、昔ながらの建物(韓屋)を生かしたお店や住宅を散策しチマチョゴリを身にまとい、王朝時代を体験する

ことで韓国の歴史に触れ、そこでしか体験できない経験を積み、伝統衣装から韓国の文化を想像した。

その後、世界遺産の韓国が世界に誇る仏国寺を見学する。慶州を訪れる誰しものが必ず足を運ぶ場所である。ユネスコの世界遺産にも認定され、韓国が世界に誇る宝となっていて、みんな真剣にガイドの説明を聞いていた。仏国寺は慶州でも特別な存在である。

釜山に戻り、夕食は韓国最大規模の釜田市場に行き、くるみ・かぼちゃ・小豆などが入ったお粥やそうめんや医食同源のユッケジャンを食べた。お粥は柔らかい食感であり、小豆粥は至の厄除け料理として普及していることを食を通して知ることができた。

8月30日、K-POPダンスでは、本場韓国で練習生を指導している講師から、レッスンを受け基本動作を中心に学んでいき、K-POPダンスの習得を目指す。ダンスは言葉が通じなくてもカウントと体の動きで教えられ学ぶことができるので、最後まで楽しく踊りみっちり教わった。

3泊4日の韓国の国際理解を通して、異文化について考え、相互理解への関心を深め、学生たちは視野も広がり、様々な刺激を受け、全員が成長したと実感している。

国際感覚の向上を目的に、講義科目【国際理解】では、座学と海外研修（フィールドワーク）を行っている。本年度9月には、アメリカ合衆国パームスプリング市に、5泊7日で、15名の学生と共に訪れた。ほとんどの学生が海外経験がないので、研修先選びは慎重に行った。ロスアンゼルスやニューヨークを希望する声がある中、大都市での安全面を考えると、この地を選んだ。大都市ロスアンゼルスから車で3時間ほどで行けるパームスプリングは、リタイア後のアメリカ人高齢者が多く移り住む閑静な町で、砂漠の真ん中につくられた観光地でもある。

研修の目標の一つは、一人でもアメリカで生活ができるように最低限のスキルを身に着けることである。例えば、車での移動が必須のカリフォルニア州で、その利用が定着したUberが使えるようになることであったが、ほぼ全員がクリアできたと思う。



オンタリオ国際空港にて

海外で、まず、悩むのは、A地点からB地点への移動である。今回、一つ目の課題は、Uberを利用して、自由に移動ができるスキルを身につけること。2つ目は、買い物が支障なくできるようになること。ドルを円に換算する経済感覚を持ちながら、支払い決済も現金やクレジットカードを選べるようになり、同時に、クレジットカードとデビットカードの違いを理解することである。3つ目の課題は、食物科の学生は、地元のスーパーで豊富な野菜や果物をみて、手に入れた食材で料理をする。また、保育科の学生は、ハロウィーンのデコレートされた巨大な画材屋さんで記念のキーホルダー作りの材料を入手し、手作りのお土産を製作する。英語で説明された折り紙セットを発見、購入した学生もいた。様々な新しい体験のできた5泊7日であった。今後の人生に生かしてもらいたい



サンジャシント山頂にて

Day1 福岡空港より、台湾経由でオンタリオ国際空港に到着、Uber配車サービスを使い、同日夜パームスプリングのホテルにチェックイン。

Day2 シェフ・ディアナ・ベンソンによるクッキングレッスン。同日の夕食は2年生が担当。



クッキングレッスン

Day3&4 ビジターセンター訪問。地域の地図やイベント情報を入手。昼食は、ピザ。各自がそれぞれ、トッピングを選びオリジナルのピザを楽しんだ。グループに分かれて、標高2000mを超える サンジャシント山州立公園を訪問したり、スーパーで、食材を手に入れ、画材屋さんでは記念のキーホルダー製作作用の材料を入手。美術館を訪問、歩行者天国になった大通りのフェスに参加。Day3の夕食は1年生が担当した。

Day5 朝食は、自作のアメリカンブレックファーストを満喫、チェックアウト後、空港への道すがら、アウトレットにもよった。

Day6&7 オンタリオ空港を出発、台湾経由で福岡に戻った。

姉妹校の締結

2023 年度にフィリピン・ラプラプセブ国際
大学と姉妹校の締結をしました。

MEMORANDUM OF AGREEMENT

Between

Lapulapu-Cebu International College
Lapu-Lapu City, Cebu, Philippines

And

Kyushu Nutrition Welfare University
Higashi Chikushi Junior College
Kitakyushu, Japan

In order to promote friendship and cooperation through a mutually beneficial association, Lapulapu-Cebu International College and Kyushu Nutrition Welfare University/Higashi Chikushi Junior College, located at 5-1-1 Shimotozu Kokurakita-ku Kitakyushu, agree to the following:

1. The two institutions shall promote the following programs:
 - 1.1 Exchange of students and faculties;
 - 1.2 Exchange of academic information and publications;
 - 1.3 Other exchanges of an academic nature agreed upon by both parties.
2. The detailed provisions of each exchange program shall be developed and agreed upon in writing by both institutions.
3. This Agreement shall become effective of the date of signature by the representatives of the two institutions, and shall remain in effect for a period of five (5) years. The agreement will be renewed for additional periods of five (5) years unless either party provides written notice of termination at least 6 months prior to the termination date.
4. This Agreement may be amended or modified from time to time following consultation and agreement in writing by both institutions.
5. This Agreement is drawn up in duplicate versions in English and in Japanese, with both versions having equal validity, and each party to the Agreement will retain one copy of each version.

For and on behalf of
Lapulapu-Cebu International College

For and on behalf of
Kyushu Nutrition Welfare University
Higashi Chikushi Junior College


Grace R. Gorospe-Jansen, President PhD


Hiroichi Muroi, President and CEO

2023.10.9
Date

2023.10.3
Date

MEMORANDUM OF AGREEMENT

Between

BELLEVUE COLLEGE

Bellevue, WA, USA

And

KYUSHU NUTRITION WELFARE UNIVERSITY / HIGASHI

TSUKUSHI JUNIOR COLLEGE

Kitakyushu, JAPAN

In order to promote friendship and cooperation through a mutually beneficial association, Bellevue College and Kyushu Nutrition Welfare University / Higashi Tsukushi Junior College, located at 5-1-1 Shimoiotozu Kokurakita-ku Kitakyushu, agree to the following:

1. The two institutions shall promote the following programs:
 - 1.1 Exchange of students and faculty;
 - 1.2 Exchange of academic information and publications;
 - 1.3 Other exchanges of an academic nature agreed upon by both parties.
2. The detailed provisions of each exchange program shall be developed and agreed upon in writing by both institutions.
3. This Agreement shall become effective of the date of signature by the representatives of the two institutions, and shall remain in effect for a period of five (5) years. The agreement will be renewed for additional periods of five (5) years unless either party provides written notice of termination at least 6 months prior to the termination date.
4. This Agreement may be amended or modified from time to time following consultation and agreement in writing by both institutions.
5. This Agreement is drawn up in duplicate versions in English and in Japanese, with both versions having equal validity, and each party to the Agreement will retain one copy of each version.

For and on behalf of Bellevue College

For and on behalf of Kyushu
Nutrition Welfare University and
Higashi Chikushi Junior College



Dr. Jerry Weber, President



Hiroichi Muroi, President and CEO

Date

11/8/19

Date

10/15/2019

MEMORANDUM OF AGREEMENT

Between

Lapulapu-Cebu International College
Lapu-Lapu City, Cebu, Philippines

And

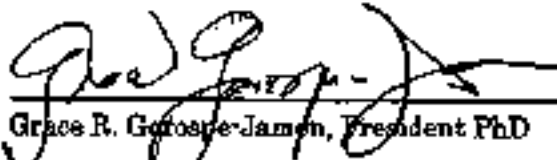
Kyushu Nutrition Welfare University
Higashi Chikushi Junior College
Kitakyushu, Japan

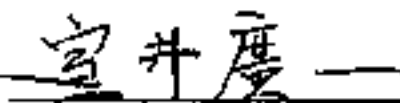
In order to promote friendship and cooperation through a mutually beneficial association, Lapulapu-Cebu International College and Kyushu Nutrition Welfare University/Higashi Chikushi Junior College, located at 5-1-1 Shimoiotozu Kokurakita-ku Kitakyushu, agree to the following:

1. The two institutions shall promote the following programs:
 - 1.1 Exchange of students and faculties;
 - 1.2 Exchange of academic information and publications;
 - 1.3 Other exchanges of an academic nature agreed upon by both parties.
2. The detailed provisions of each exchange program shall be developed and agreed upon in writing by both institutions.
3. This Agreement shall become effective of the date of signature by the representatives of the two institutions, and shall remain in effect for a period of five (5) years. The agreement will be renewed for additional periods of five (5) years unless either party provides written notice of termination at least 3 months prior to the termination date.
4. This Agreement may be amended or modified from time to time following consultation and agreement in writing by both institutions.
5. This Agreement is drawn up in duplicate versions in English and in Japanese, with both versions having equal validity, and each party to the Agreement will retain one copy of each version.

For and on behalf of
Lapulapu-Cebu International College

For and on behalf of
Kyushu Nutrition Welfare University
Higashi Chikushi Junior College


Grace R. Gerospe-Jamen, President PhD


Hiroichi Muroi, President and CEO

Date

2023.10.9

Date

2023.10.3

ベルビューカレッジと九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学間の協定覚書

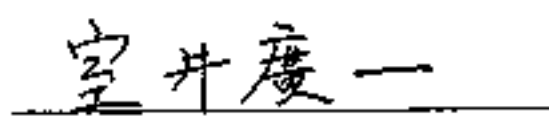
アメリカ合衆国ワシントン州ベルビュー市にあるベルビューカレッジと日本国福岡県北九州市にある九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学は、相互に有益をもたらす為、連携を結び、親交と協力を深めるため、下記の事項に合意する：

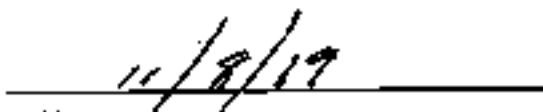
1. 両当事者は、下記のプログラムを推進する。
 - 1.1 学生と教職員の交流
 - 1.2 学術上の情報や刊行物の交換
 - 1.3 両当事者が合意する他の学術的なものの交換
2. 各々の交流プログラムの具体的な規定は、両当事者により協議され、書面により合意されるものとする。
3. この協定は、両当事者の代表者が署名した日に発効し、5年間有効とする。この協定は、満期の少なくとも6か月前に、いずれかの当事者が、書面による解約の申し入れをしない限り、さらに、5年間更新される。
4. この協定は、相互による協議と合意により、時にふれて、改定あるいは、修正できる。
5. この協定は、英語と日本語の一对で作成され、どちらも同一の効力を持ち、当事者双方が、それぞれ1通を保管する。

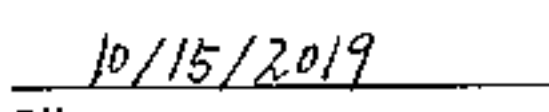
ベルビューカレッジ代表

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学代表


ジェリー・マエバー博士、学長


空井廣一、学長兼代表理事


日付


日付

その他のこれまでの姉妹校との締結書

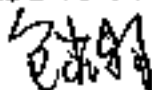
長庚大学と東筑紫短期大学との 姉妹校締結に関する協定

長庚大学（中華民国、桃園市）および東筑紫短期大学（日本国、福岡県、北九州市）（以下「両大学」という）は友好と相互理解を進展させる意図のもとに協定を締結するものとする。

1. 両大学は、相互に合意された諸活動および教職員、学生間の友好関係を発展させるために協力するものとする。
2. この協定に基づく各交流プログラムの施行にあたっては、両大学の学長が指名する実務者間の別途の合意により決定する。
3. 両大学は、前項の目的を達成するために、つぎの諸活動を行うことを奨励する。
 1. 教育、学術、文化関係の資料、経験および知識の交換
 2. 教職員、学生の相互交流
 3. その他、両大学間で合意を得た活動
4. この協定は、両大学の学長の是認および署名により、発効するものとする。
5. この協定は、相互の合意のもとに随時改定または修正できるものとし、またいずれか一方の文書による通知により解除されるものとする。
6. この協定書は、中国語および日本語で作成し、各書面同一の効力を有する。

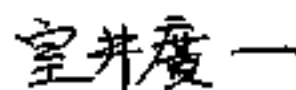
2017年5月6日
長庚大学
中華民国桃園市

長庚大学学長



2017年6月2日
東筑紫短期大学
日本国福岡県北九州市

東筑紫短期大学学長



長庚大学と九州栄養福祉大学との 姉妹校締結に関する協定

長庚大学（中華民国、桃園市）および九州栄養福祉大学（日本国、福岡県、北九州市）（以下「両大学」という）は友好と相互理解を進展させる意図のもとに協定を締結するものとする。

1. 両大学は、相互に合意された諸活動および教職員、学生間の友好関係を発展させるために協力するものとする。
2. この協定に基づく各交流プログラムの施行にあたっては、両大学の学長が指名する実務者間の別途の合意により決定する。
3. 両大学は、前項の目的を達成するために、つぎの諸活動を行うことを奨励する。
 1. 教育、学術、文化関係の資料、経験および知識の交換
 2. 教職員、学生の相互交流
 3. その他、両大学間で合意を得た活動
4. この協定は、両大学の学長の是認および署名により、発効するものとする。
5. この協定は、相互の合意のもとに随時改定または修正できるものとし、またいずれか一方の文書による通知により解除されるものとする。
6. この協定書は、中国語および日本語で作成し、各書面同一の効力を有する。

2017年5月6日
長庚大学
中華民国桃園市

長庚大学学長

徐明

2017年6月2日
九州栄養福祉大学
日本国福岡県北九州市

九州栄養福祉大学学長

室井慶一

長庚大學暨東筑紫短期大學締結姐妹校協議書

長庚大學(中華民國桃園市)與東筑紫短期大學(日本國福岡縣北九州市)為促進雙方發展與交流，締結為姊妹校並達成以下協議：

1. 兩校基於發展雙方教職員生的友好關係，商定交流活動。
2. 為落實本協議，雙方校長另指派專人進行合作內容之協商。
3. 雙方交流活動包含以下內容
 - (1) 教育、學術、文化等資料、經驗與知識交流。
 - (2) 教職員與學生互訪交流。
 - (3) 其他雙方合意之交流活動。
4. 本協議書經雙方簽署後即時生效。
5. 本協議之修訂或解除經雙方協商後重新簽署即生效。
6. 本協議書中文及日文版各一式二份，簽署後雙方各執一份為憑。

長庚大學
台灣桃園市龜山區文化一路 259 號

校長

包永勳

2017 年 5 月 16 日

東筑紫短期大學
日本福岡縣北九州市小倉北區下到
津 5-1-1

校長

室井廣一

2017 年 6 月 2 日

長庚大學暨九州營養福祉大學締結姐妹校協議書

長庚大學(中華民國桃園市)與九州營養福祉大學(日本國福岡縣北九州市)為促進雙方發展與交流，締結為姊妹校並達成以下協議：

1. 兩校基於發展雙方教職員生的友好關係，商定交流活動。
2. 為落實本協議，雙方校長另指派專人進行合作內容之協商。
3. 雙方交流活動包含以下內容
(1) 教育、學術、文化等資料、經驗與知識交流。
(2) 教職員與學生互訪交流。
(3) 其他雙方合意之交流活動。
4. 本協議書經雙方簽署後即時生效。
5. 本協議之修訂或解除經雙方協商後重新簽署即生效。
6. 本協議書中文及日文版各一式二份，簽署後雙方各執一份為憑。

長庚大學
台灣桃園市龜山區文化一路 259 號

校長

徐鈞

2017 年 5 月 16 日

九州營養福祉大學
日本福岡縣北九州市小倉北區下到
津 5-1-1

校長

室井廣一

2017 年 6 月 2 日

釜山女子大学と東筑紫短期大学 との姉妹校締結に関する協定書

釜山女子大学（大韓民国、釜山市）および東筑紫短期大学（日本国、福岡県、北九州市）（以下「両大学」という）は友好と相互理解を進展させる意図のもとに協定を締結するものとする。

1. 両大学は、相互に合意された諸活動および教職員、学生間の友好関係を発展させるために協力するものとする。
2. この協定に基づく各交流プログラムの施行にあたっては、両大学の学長が指名する実務者間の別途の合意により決定する。
3. 両大学は、前項の目的を達成するために、つぎの諸活動を行うことを奨励する。
 1. 教育、学術、文化関係の資料、経験および知識の交換
 2. 教職員、学生の相互交流
 3. その他、両大学間で合意を得た活動
4. この協定は、両大学の学長の承認および署名により、発効するものとする。
5. この協定は、相互の合意のもとに随時改定または修正できるものとし、またいずれか一方の文書による通知により解除されるものとする。
6. この協定書は、韓国語および日本語で作成し、各書面同一の効力を有する。

2001年 9月15日

釜山女子大学
大韓民国釜山市

정남이

鄭 南 伊
釜山女子大学長



2001年 9月16日

東筑紫短期大学
日本国福岡県北九州市

室井 廣

室 井 廣
東筑紫短期大学長



フィリピン・ラプラプセブ国際大学の紹介

フィリピン・セブの国際大学が、
グローバル社会で活躍するひとを育てる

新たな留学先へ



ラプラプセブ国際大学

Lapulapu-Cebu International College (LCIC)

開設学部:外国語学部/ツーリズムマネジメント学部/理学療法士学部

ラプラプセブ国際大学はフィリピン大学の著名な教育家が学長に就任し、
世界で活躍できる高度人材の育成を目標に掲げるセブの国際大学です。
留学生専用のプログラムで英語や異文化に対する理解を深めます。

グローバルな実践力を磨く質の高い教育の場

留学生だけの、英語や様々な科目のカリキュラムを設定し
履修科目の単位を認定します。

ラブラブセブ国際大学英語教育理念

私たちは質の高い授業を行い、あらゆる英語レベルの
留学生に次の力をつけることを目標とします。

- 世界のあらゆる場所・場面で通用する英語力
- 異文化を理解し受容する力
- 豊かな表現でコミュニケーションできる英語力

We provide international students with quality English education at all levels to

- become globally competent
- develop cross-cultural understanding
- improve communication skills.

受賞歴多数の有名教授を学長に据え、教育理念を実践。



学長
Grace R. Gorospe -
Jamon

- フィリピン大学卒
 - フィリピン大学元教授
 - フィリピン大学在籍46年
 - 数々の賞を受賞
 - 学生による授業評価で
40年近くトップ3を堅持
- 学位
【1998年政治学のPhD】
Doctor of Philosophy in Political
Science October 1998
【1982年政治学の修士】
Master of Arts in Political
Science April 1981
【1976年政治学の文学士】
Bachelor of Arts in Political
Science April 1976



外国語学部長
Vanessa Madelo

- サンカルロス大学卒
- サンセブ国際大学英語学部長
- セブ大学16年

LCICでは、すべてのフィリピン学生に日本語と日本文化を含むコースを提供
しています。これらのプログラムは、外国人留学生は英語だけでなくフィリピ
ンの文化も学び、フィリピン人学生は日本語と日本の文化を学ぶ機会をフィ
リピン人学生と外国人留学生の双方に、提供しています。LCICは、留学生にコ
レドニーで快適な学習環境と質の高い教育を提供することを約束します。
私たちは、LCICでみなさんをお迎えし、共に学ぶことにワクワクしています。

Laguna-Cebu International College (LCIC) offers courses that include
Japanese language and culture to all Filipino students. These programs
provide opportunities for both Filipino and international students to have
an exchange of learning where the international students can learn not just
the English language, but also the Filipino culture, and the Filipino students
can learn Japanese language and culture. LCIC assures international
students a quality education with a friendly and conducive learning
environment. We are delighted to welcome and educate you at LCIC.

学長メッセージ

LCICの目標は言語と文化の体験を通して相互理解を深めることです。歴史ある
セブのマクタン島に位置する私たちのキャンパスでは、地域の人々と一緒に生活
し、景色や伝統、海洋環境を楽しむことができます。私たちの語学プログラムは、
言語の5つのスキル分野である「読む」「書く」「話す」「聞く」「文化的適応」の実践
と学習を促進するように設計されています。本校のESLプログラムでは、英語を理
解して話す能力を留学生に身につけさせ、穏やかで温かな人々が住むセブ島を留
学生に体験させることができます。LCICでは、学生はなりたいた自分になり、母国
語、第二言語、そして外国語で自分を表現することも学びます。私たちの第二言語
である英語で話したり、聞いたりすることを学んでいただきながら、みなさんをキ
ャンパスにお迎えし、ご案内したいと思っています。

The goal of LCIC is to promote international understanding through language and cultural
experiences. Located in the historic island of Mactan, Cebu, our campus will afford you to live
with the community and enjoy the sights, traditions, and marine environment. Our language
programs are designed to facilitate the attainment and learning in the five skills areas of
language – reading, writing, speaking, listening and cultural adaptation. The ESL program of
our school gives the students the ability to understand and speak the English language and
experience Cebu with its gentle and mild-tempered people. In LCIC, students learn to
become who they want to be and express themselves in their native, second, and foreign
languages. We hope to welcome you in our campus, assist and help you overall as you learn
to speak and listen in our second language – English.



留学プログラム担当エグゼクティブアドバイザー
Michael Torpey

- オーストラリア出身
- コロンビア大学教育学博士
- 日本での英語教授歴20年以上

私たちはLCICのアプローチを通して世界中から来る留学生、両面で通用する英語力
び豊かな表現でコミュニケーションできる英語力を身につけることを目標としま
す。現地にやないフィリピン人学生との交流を通してコミュニケーション能力を自
信を持ってください。この一歩踏み出すことで、より充実した人間になり、目
指した学習環境で新しい文化を学ぶことができます。

Our goal for international students is to become globally competent as well
as improving communication skills through their studies in LCIC. Gain
confidence in your ability to communicate by interacting with the friendly
Filipino students. Take this step forward to become more independent and
learn a new culture in a supportive academic environment!

LCICとは?

LCIC(Lapulapu-Cebu International College)は、専門学校でもなければ、語学だけの大学でもありません。各国の留学生や現地の学生がともに学び、生活する中で「英語で」各専門分野を学び、グローバルに活躍できる人材を育成する国際大学です。

2021年9月にフィリピン政府の認証を受けた『大学』です。

- ◆ 教員は修士課程(もしくは同等)以上の教育機関で教育学を学んだ専門家!
- ◆ 全ての教員に対してLCICの教育方針に基づく教授法を十分にトレーニング!
- ◆ 出席やレポート、試験等で基準を満たした科目は本学での修得単位として認定!



学びのポイント

1 充実の英語教育

- ◆ 授業は、レベル別に4つのクラスで行います。英語に全く自信がない人から、高度な英語を学びたい人まで、幅広いニーズに応えます。
- ◆ スピーキング、ライティング、リーディング、リスニング、英語に欠かせない4技能をそれぞれ磨けるカリキュラムです。
- ◆ さらに英語を学びたい人は、放課後にマンツーマンレッスンの受講も! (別料金)

2 韓国語・中国語も学べる

- ◆ 初級レベルのみの開講ですが、英語に加え多言語を学びたい、国際的な視野をより広げたいという人には特長の強みがあります。

3 母校の単位を遠隔授業で修得可

- ◆ 母校での単位を遠隔授業で修得することが可能。セブと日本の時差はわずか1時間です。[大学によって規定が異なりますので、各自でご確認ください。]

4 遠隔授業専用ルーム設置

- ◆ 遠隔授業を受けるための専用ルームがあるので、集中して取り組みます。

5 高速・安定のインターネット回線

- ◆ 学内のネットワークはNTTの現地子会社と契約。高速で安定したインターネットを利用することが出来ます。

6 SDGsがわかる教養科目(中期留学コースのみ開講)

- ◆ 教養科目は全てSDGsに関連! 興味のある分野を選べます。*
- ◆ 英語による授業が不安な学生には日本語教員が同席。予習・復習にも日本語プリントを用意。英語力が不安な程度から、質の高い学びが可能です。
- ◆ 定期的に模擬面接を実施。留学科目は日本語教員が日本で補習を行う。チュータリングシステムを採用。 (*開講していない科目がある場合があります)

一日の過ごし方の例

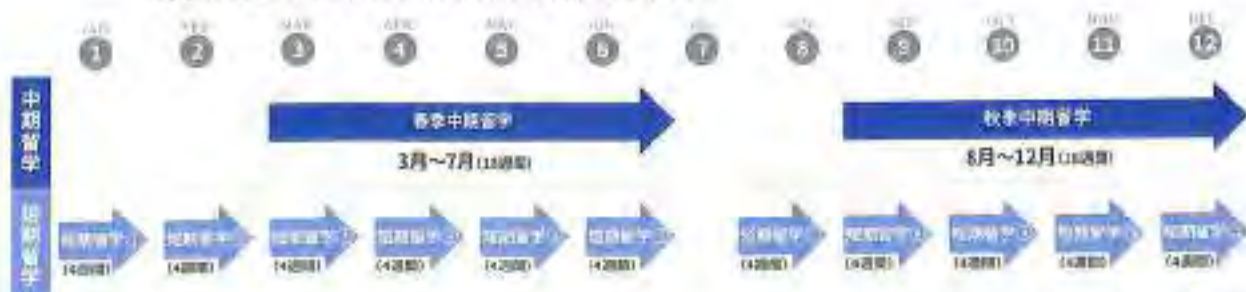
9:00	午前中の授業 朝は比喩的な英語の習い合わせや、簡単なグループワークの授業など。	
12:00	ランチ	
13:00	午後の授業 大学の各へまで実習授業を行います。大学外で英語を使えるチャンス!	
17:00	サークル活動	
19:00	夕食	
	翌日科目も自由に選択できます。	
毎日英語のみ受講 A4単位-FM教養科目受講		

スケジュール

年間のながれと申込時期

留学コースは「中期留学」と「短期留学」があります。留学の申込時期は各留学開始の2か月前までとなります。

申し込みはこちらから



※1ヶ月単位に、大学、施設など一大学単位で開講している予定です。

学びも、生活も。有意義な留学への各種サポート

留学対象者

大学・短期大学・大学院に在籍している学生が対象となります。

学費・留学費

欧米への留学費用よりリーズナブルなうえ、各種コミコミ!

授業料 寮費 食費 水道光熱費 込みで

短期留学 4週間 **218,000円** (税込) 中期留学 18週間 **981,000円** (税込)

別途、入学金20,000円と自宅からマクタン・セブ国際空港までの交通費、教科書代が必要です。

各留学コースに連続して参加することも可能!



1 欧米のわずか1/2から1/3程度の留学費用!
留学費用だけでなく、日本からの送金費や現地での物価も、欧米諸国と比べてリーズナブルです。



2 家賃、水道光熱費、3食代もコミコミ!
寮費だけでなく、水道光熱費もコミ、3食分の食事付き! 節約になるだけでなく、勉強にも集中できます。

※留学費用は各セミナー等の研修で変わる可能性があります。※入学金には在籍した大学の送金費用、海外にVISA・ACR・Cardの購入費用、3ヶ月間の航空チケット代が含まれます。また、入学金については留学期間に渡ります。留学のたびに一回のみ必要となります。※ご自宅からマクタン・セブ国際空港までの送金手数料は別途に負担となります。

カリキュラム・異文化体験

さまざまな学びや異文化体験のニーズに
きめ細かに応えるカリキュラム!

カリキュラム表はこちら



▶カリキュラムの自由度が高い!

英語、韓国語、中国語、教養科目(SOGE)。
自分の学びの目的に合わせて組み合わせられます!

▶英語のマンツーマンレッスン!

英語を徹底的に勉強したい学生にはマンツーマンレッスンも。
※単位認定されません。(別料金)

▶スキューバダイビングの免許が取れる!

土曜日にセブの海で行う集中講座で免許取得可!
(※体育科目として単位認定、追加料金)

▶サークル活動も活発!

放課後は地味サークル活動も、いろいろな経験がありますよ。
さまざまな国の学生と交友を深めましょう。



短期留学カリキュラム表(例)

コース	1	2	3	4	5
1コース 8週-10週	TOEIC®L&R	English Communication	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R
2コース 10週-12週	English Communication	TOEIC®L&R / 韓国語 / 中国語	English Communication	TOEIC®L&R / 韓国語 / 中国語	English English
英語専攻コース(例)					
3コース 10週-14週	Intermediate English	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R / 韓国語 / 中国語	English Communication	TOEIC®L&R / 韓国語 / 中国語
4コース 14週-20週	TOEIC®L&R	Intermediate English	TOEIC®L&R	English Speaking Labors	TOEIC®L&R
5コース 16週-18週	Intermediate English	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R	マンツーマンレッスン	TOEIC®L&R
6コース 18週-18週	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R

中期留学カリキュラム表(例)

コース	1	2	3	4	5
1コース 18週-18週	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R
2コース 18週-18週	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R
英語専攻コース(例)					
3コース 18週-18週	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R
4コース 18週-18週	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R
5コース 18週-18週	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R
6コース 18週-18週	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R	TOEIC®L&R

※カリキュラムは変更されることであります。詳細は各セミナー等のカリキュラム表をご確認ください。

快適な寮生活

みなさんが留学期間中に多くの時間を過ごすことになる寮は、快適さと安全性にとことんこだわりました。1ユニット10人のシェアハウス型の寮には、多様な国の学生がともに暮らし、授業以外でも国際交流ができる環境です。1階には共同学習室やアクティビティルーム、自由調理室があり、5階には大浴場を完備。会館が24時間常駐し、セキュリティも万全です。



大浴場、露天風呂、サウナ付き

実はフィリピンはシャワー文化中心で、ゆっくり湯船に入る習慣はあまりありません。でもこの寮には、5階に露天風呂とサウナ付きの大浴場を完備しています。毎日中っくと手足を伸ばしてお湯に浸かることができます。露天風呂からは星雲を見上げたり、国際空港を見下ろしたりと、景観もばっちり。サウナでたっぷり汗をかけば、気分爽快にリフレッシュできます。勉強に遊びにと、疲れた心と身体を毎晩心地よく癒し、楽しい留学生活を過ごしてほしい。そんな思いを込めて作った設備です。個室シャワールームもあります。



留学生は全員個室

全ての個室にベッド・クローゼット
机・金庫の家具一式付き

留学生には小さな個室が用意されています。その個室にはベッド・机・クローゼット・金庫が揃え付けられています。プライベートが保たれ、家具一式も揃っているため、長期の留学でも快適に過ごすことができます。



10人1ユニットのシェアハウス型

例：日本人3人、韓国人2人、
中国人1人、フィリピン人4人 など

シェアハウスのメンバー構成は多国籍。個室で過ごすだけでなく、リビングでくつろぐさまざまな国出身のメンバーと会話を楽しむことも可能。気軽に国際交流できる環境で、自分のスタイルに合わせて異文化体験を楽しめます。



日本食も用意あり

うどん、ラーメン、カレーなどが
いつでも食べられる！（別料金）

寮は3食付きですが、別料金で日本食を注文することができます。メニューはうどん、ラーメン、カレーなど。海外で暮らすと日本食が恋しくなるもの。食べたい時に懐かしい味が食べられるというのは、海外生活では嬉しいことです。

安全へのサポート

「治安は大丈夫?」「もし病気や怪我をしたら?」「トイレなどは清潔?」など、海外に行く時はさまざまなことが不安になるもの。治安がよく、非常に衛生的な日本と比べると、セブには不便点があるかもしれません。だからこそ、LCICではみなさんが安心して留学できるように、多方面に渡るサポートを用意し、安全で有意義な留学を支援しています。

セキュリティ万全の大学・寮で安心して生活できる

- ◆ 学内は複数の警備員が24時間常駐し見回り
- ◆ 正門と寮の入り口にはセキュリティゲートを設置
- ◆ 寮には複数の会館が24時間常駐
- ◆ 大学の外周にはフェンスを設置
- ◆ 大学構内には多数の監視カメラを設置
- ◆ スクール看護師、カウンセラーが常駐
- ◆ 学内のトイレは全てTOTOウォッシュレット付き

▶ 学内に看護師が常駐しているので病気・怪我などに安心対応



フィリピン・セブって、こんなところ

Guide to CEBU

日本からのアクセスの良さと、美しい常夏のビーチで観光地として人気があるフィリピン・セブ。早々の準備としての魅力の高さが、今注目を集めています。

温かい人と過ごしやすい気候、セブで身につける国際感覚！

フィリピンは東南アジアの島国です。歴史的にスペインやアメリカとの関わりが深く、公用語はフィリピン語と英語です。西洋文化の影響を受けていますが、食事は米食中心で物価も安く、日本人には馴染みやすい国と言えるでしょう。気候は日本の夏のような気温が通年続きます。その中でもセブは雨季・乾期の区分がなく過ごしやすい場所です。そんなフィリピンが近年留学先として人気を集めている秘密は、主に3つあります。

一つ目は、英語を話す人口の多さ。アメリカ、インドに次いで世界第三位の英語人口を誇っています。

二つ目は、「フィリピン・ホスピタリティ」とも呼ばれる親しみやすくフレンドリーな国民性。教員との距離感も近く感じられ、どの教科でも安心して教わることができます。

三つ目は、豊かな自然と国際的な環境。美しい常夏のビーチにひかれて、多くの国から留学生や観光客が集まるので、異文化に触れる機会が多く国際感覚が磨かれます。このような大きなメリットを生かして、リゾート地としても名高いセブで、充実の学びを経験してみませんか。

成田空港・中部国際空港・関西国際空港から直行便



セブ市内

アクセス

関西国際空港から
直行便で

4 時間
前後

時差

日本の
標準時間から

-1 時間

気候 セブは常夏の南国の気候。ほぼ1年中、日本の夏の服装で過ごせます。

2020年のセブと東京の月別平均気温

月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
セブ	27℃	29℃	27℃	28℃	30℃	30℃	28℃	29℃	29℃	28℃	28℃	27℃
東京	11.1℃	13.3℃	16.0℃	18.2℃	24.0℃	27.5℃	27.7℃	34.1℃	28.1℃	21.4℃	18.6℃	8.6℃

データ提供：平均気温 気象庁, Past Weather in Cebu City



休日! 充実!

オススメ1dayプラン

せっかくセブに留学するのなら、
リゾートも思いっきり満喫したい。
たとえば、こんな休日をごせちゃいます!

6:00

大学のある
ラブラブ市内から
オスロブ村へ出発!
移動約3時間半。

9:30

オスロブ村に到着。
ジンベエザメと
ダイビング!!
セブに来たらぜひ
体験してほしい!

12:00

セブ市内へ移動
約3時間。
道中でランチ。



15:00

セブ市内の
アヤラモールで
ショッピング!
名物「ハロハロ」
でひといき。



まだまだある!

セブ周辺の人気 スポット



カワサン滝
透明度が抜群で青色を保つ海蔵。

18:00

トロピカルなディナー!
セブ市内のレストランは、
リーズナブルに南国の
食事が楽しめるお店が
多数あり。



21:00

ラブラブ市内の
大学の寮に帰宅。



ボホール島
世界最小のサル「ターシャ」に会う。

ラプラプセブ国際大学で学ぶ 5つの魅力

大学、短期大学、大学院に在籍中の学生のみなさん。
メリット豊富な本学で、グローバルな学びの時を過ごしてみませんか？

1 留学費用がリーズナブル 欧米留学より安価な留学先

留学費用は、授業料・寮費・食費・水道光熱費込みで

短期留学(4週間)218,000円(税込) 中期留学(18週間)981,000円(税込)
別途、入学金20,000円と自宅からマクタン・セブ国際空港までの交通費、教科書代が必要です。

留学費用は航空レート等の相場で変わる可能性があります。※入学金には登録費と大学の施設費、滞在ビザ、ACR(Child)外国人登録費、SSP(特別留学者)を
含みます。また、入学金については留学課窓口に関わらず、留学のたびに一日のみ必要となります。※ご自宅からマクタン・セブ国際空港までの移動は各自手配・ご負担となります。
※留学期間中も、各大学に定める授業料が別途必要となります。

2 日本の大学の 単位に認定可能

留学中に修得した科目は「ラプラプセブ国際
大学(LCIC)」の単位として認定します。LCIC
で認定した単位は60単位まで卒業単位とし
て在籍大学に申請することができます。

※大学によって規定が異なりますので、各自ご確認ください。

3 遠隔で日本の大学の 授業も受けられる

時差わずか1時間。「ラプラプセブ国際大
学(LCIC)」からも、日本の大学の授業に
遠隔で参加できる環境があります。

※日本の法令により、必須授業は60単位まで修得可能です。
※在籍大学の遠隔授業の実施可能、及び、詳細については
在籍大学にご確認ください。

4 シェアハウス型の 寮完備

10人1ユニットの個室タイプのシェアハ
ウス寮になっています。さまざまな国籍
の学生と国境を越えた共同生活が体験
できます。

5 自然豊かな 人気観光地

「ラプラプセブ国際大学(LCIC)」のあるマクタ
ン島は、リゾートホテルが立ち並ぶ観光地。近年は、日本人にも人気の自然が美しい観光地に
なっています。

+α 韓国語・中国語も学べる

英語に加え、韓国語(初級)や
中国語(初級)の授業も選択可能です。

現地LCIC在籍学生向けの授業も受講できる

※単位として認定することはできませんが一部の指定された科目
のみ受講可能です。

ラプラプセブ国際大学(LCIC)概要

設置形態：株式会社立	開学時期：2021年9月
敷地面積：64,803㎡	学生収容定員：1600人(1入学定員400人)
校舎面積：17,250㎡、寮10,500㎡(予定)	大学留学生定員：492人



ラプラプセブ国際大学(LCIC)ジャパンデスク

〒731-0295 広島市安佐北区可部東一丁目2番1号

電話：082-814-3772

E-mail: lcic_japandesk@lcic.jp 0120-607-779

LCIC留学について検索はこちらから (<https://lcic.jp>)

ラプラプセブ国際大学

検索

公式サイトはこちらから (<https://lcic.edu.ph>)

Lapulapu-Cebu International College

検索



寄稿論文他

寄稿文

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学地域連携センター設立に寄せて …… 141

国立大学法人 九州工業大学
先端研究・社会連携本部 産学イノベーションセンター
産学連携・ベンチャー担当マネージャー大庭 英樹 (本学客員教授)

研究論文

「産学官民連携を基盤とした健康づくり・介護予防事業の実践」 149

九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部
橋元 隆、諸富 真理、西口 瑞希

「北九州市認知症支援・介護予防センターと本学部との連携のもと、…… 156
地域で行っている「尿もれ予防体験会」について

九州栄養福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科
吉田 遊子、中藤 佳絵、神崎 良子

特別寄稿文

「学年の国語科教育方法に関しての一考察」 …… 168

～幼小接続における取組みと期待される効果～

東筑紫短期大学 保育学科

上森 哲生

「これからの教職に求められる資質・能力に関する一考察」 …… 191

～幼小の一層の円滑な接続のためにアセスメントを活用する～

東筑紫短期大学 保育学科

上森 哲生

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 地域連携センター設立に寄せて

国立大学法人 九州工業大学
先端研究・社会連携本部 産学イノベーションセンター
産学連携・ベンチャー担当マネージャー
大庭 英樹 博士（農学）

はじめまして。九州工業大学の大庭です。

ご縁があって、昨年10月から、こちら九州栄養福祉大学・地域連携センターの客員教授として、週に一度お邪魔しています。

九州工業大学では、主に、「企業さんのニーズ（課題）と大学の研究シーズをマッチングさせる産学連携」と「学内の教員や学生さんの起業相談対応」の仕事をしています。

企業さんのニーズ（課題）と言っても多種多様で、大学の研究シーズの中からベストマッチなものを探す作業はたいへんですが、ベテランのコーディネーターさんの助けを借りながら、マッチングした結果、具体的な共同研究等に進展して、企業さんの課題が解決した場合はとても達成感を感じます。

また、大学には、「自身の研究シーズを使って起業したいけど、どのようにすればよいのか分からない」と言った教員や「研究とは直接関係ないけど、ユニークなアイデアを使って起業したい」と言った学生さんがたくさんいて、そのような起業相談にも丁寧に対応しています。

起業に関して言えば、年一回開催される学内の起業家コンテストの企画も担当しています。

それでは、続いて自己紹介をしたいと思います。

生まれも育ちも北九州で、モットーは、“自分に誇れる自分になれ”です。

私が八幡高校を卒業する頃は、ちょうどバイオテクノロジーが注目を集めはじめた時期

ということもあって、九州大学農学部を受験して、運よく合格することができました。

入学してからの一年半は、教養部というところで、医学部、薬学部、理学部、文学部、経済学部などの他の学部の学生達と一緒に基礎科目の講義を受け、本学に進学した際に必要な知識を勉強しました。

マンドリンクラブに入部して、年 2 回の演奏会活動や合宿などを通して、学部の枠を超えた多くの先輩、友人、後輩をはじめ他大学の友人を得ることができました。

今振り返ると、人生で一番楽しい時期を過ごすことができたと思っています。

農学部には、当時 10 の学科がありましたが、一番人気は食糧化学科で、私は二番人気の農芸化学科に進学することにしました。

農芸化学科には、さらに 7 つの研究講座があり、進学してからの一年半は、それら 7 つの研究講座に関する基礎的な知識を学ぶと共に、講座に入った際に必要な実験や実習を一通り行いました。

卒業論文の研究を行う研究講座としては、一番面白そうな生物化学講座を選びました。

生物化学講座は、タンパク質の研究ではとても伝統があり、世界的にもハイレベルな研究を行っていて、大学の教員をはじめ民間企業や国公立の研究機関の研究員を多く輩出しています。

皆さんが、よくご存じの食物栄養学部の渡邊先生も生物化学講座のご出身で、現在も元気にご活躍中です。

当時は景気がとても良かったこともあり、大学を卒業したら、バイオ系の一般企業に就職することにしていましたが、両親や担当教官の勧めもあり、いろいろと考えた結果、とりあえず修士課程には進むことを決心しました。

しかし、修士課程に進んだおかげで、タンパク質研究の面白さに気づくことができ、迷うことなく博士後期課程に進みました。

生物化学講座には、通算 6 年間在籍しましたが、一貫して、「タンパク質の一次構造と機能の相関性を解明」を研究テーマとしました。

とてもやり甲斐のある研究テーマで、生物化学講座での研究活動が、その後の私の研究者としての人生に大きな影響を与えたと言っても過言ではありません。

九州大学で、農学博士の学位を取得した後、これまた運よく、工業技術院（現在の産業技術総合研究所）という通商産業省（現在の経済産業省）が所管する国立の研究所に就職することができました。

工業技術院には、全国に試験所がありましたが、私は佐賀県鳥栖市にある九州工業試験所に配属になり、2001 年に独立行政法人化して、産業技術総合研究所九州センターに名称が変更してからも、トータルで 31 年間、国立研究所の研究者として、主にバイオ関連の基礎から応用までの様々な研究に従事することができました。

主な研究テーマとしては、「白血病細胞と機能性タンパク質の相互作用に関する研究」、「遺伝子の効率的な細胞導入に関する研究」、「動植物組織からの生理活性物質の抽出と応

用に関する研究」、「蛍光標識タンパク質の応用に関する」等を挙げることが出できます。

どの研究テーマでもそれなりの成果を上げることができたものと、自負しています。

産業技術総合研究所に在籍中は、九州大学や佐賀大学、そして近畿大学と言った近隣の大学の学生さんを研修生として受け入れ、卒論や修論、そして博士論文の作成のお手伝いをさせていただきましました。

また、ハンガリーやブルガリア、そして韓国などの海外の研究者を特別研究員として招へいし、グローバルな研究にも従事することもできました。

昭和大学薬学部や長崎大学歯学部の客員教授として、講義をした経験もあります。現在、勤めている九州工業大学でも非常勤講師として、講義を担当したことを覚えています。

産業技術総合研究所での、最後の 5 年間は産学官連携推進室という部署に異動して、企業さんのニーズ（課題）と研究所の研究シーズをマッチングさせる仕事に従事しました。

この時の経験が現在の九州工業大学での仕事に大いに活かされています。

産学官連携推進という立場から、九州・沖縄地域の産業技術連携推進会議の運営にも携わっていました。九州・沖縄各県にはそれぞれ、「ものづくり中小企業を中心とする県内企業を技術面から総合的に支援している」公的な試験研究機関として 8 つの工業技術センターがあります。産業技術連携推進会議は、これら工業技術センターの相互連携を担うものです。

今後は、以上の経験を活かして、九州栄養福祉大学・地域連携センターの客員教授とし

て、お役に立ちたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、最後に少しだけ、九州工業大学の紹介をいたします。

九州工業大学の起源は、1907年に私立明治専門学校（北九州市戸畑区）の設立にはじまります。1949年に名称を九州工業大学と改め、以来、学科、学部の増設を経て、2009(平成21)年には創立百周年を迎えています。

九州工業大学には、工学系の学生が学ぶ戸畑キャンパスの他に、情報工学系の飯塚キャンパス（飯塚市）と生命科学系の若松キャンパス（ひびきの）があります。

“地域活性化に役立つ近代化産業遺産”として認定されている戸畑キャンパスの正門(写真1)をくぐると、緑いっぱいのキャンパス(写真2、3)が目の前に広がります。



写真1



写真2



写真3

整備された花壇では、季節ごとにいろいろな花々を楽しむことができます(写真4)。



写真4

教育棟や研究棟が立ち並ぶ広いキャンパス内(写真5、6)を南方向に進むと、GYMLABO
という旧体育館(1965年～2014年)が見えてきます。



写真5



写真6

GYMLABO (<https://www.gymlabo.kyutech.jp/>) (写真7) は、2019年に110周年
を迎えた九州工業大学の記念事業の旧体育館の再生プロジェクトによって、大学・企業・
地域をつなぐイノベーションハブとして、再生されたもので、2022年5月にオープンしま
した。

グローバルな人材、アイデア、シーズなどを有機的に結びつける交わりの形成拠点とし
て、コワーキングエリア、企業用のシェアオフィス、ミーティングルーム、セミナールー

ム、イベント会場を完備しています（写真8、9、10）。

毎日200名近くの学生さん達で賑わっています。九工大生以外の学生さんも自由に使うことができますので、キャンパスの見学も兼ねて遊びに来てください。



写真7

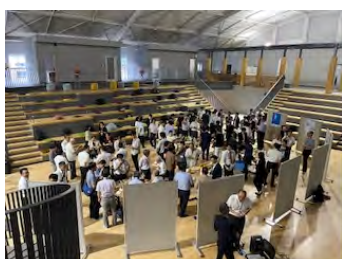


写真8



写真9

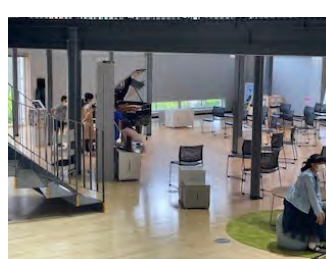


写真10

研究論文

産学官民連携を基盤とした健康づくり・介護予防事業の実践

九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
教授 橋元 隆
北九州市保健福祉局技術支援部 認知症支援・介護予防センター
地域活動推進係長 諸富 真理
北九州市福祉事業団 介護・実習普及センター 福祉用具プラザ北九州
理学療法士 西口 瑞希

はじめに

従来、健康づくり(ヘルスプロモーション)は「予防」の観点から進められてきたが、近年では「いきいきと生きる(健康寿命の延伸・ウェルビーイングの実現)」へとシフトしてきている。

北九州市では、高齢化の進行(31.4%:令和5年9月現在)に伴い、介護が必要な高齢者や認知症高齢者の増加、これに伴う家族介護者の負担感や不安、さらには介護職の不足への対応が緊急課題となっている。

こうした課題は平成当初より危惧されており、平成18年度から「北九州市高齢者支援計画」を3年ごと策定し、今期第7次計画(令和6年度～8年度)の策定が進められている。また、第二次高齢者支援計画(平成21年から23年)から健康づくり・介護予防事業の充実が推進され、私たちは健康づくり・介護予防の視点から平成20年度より北九州市と連携し、きたきゅう体操、ひまわりタイチー(太極拳)、公園遊具の設置、EG体操の開発、実践教室の開催、普及員養成など「介護予防・健康づくり」事業の推進をはじめ、栄養改善や口腔機能の向上に関する各種教室や講演会などを通じて、地域住民の健康増進に寄与してきた。

健康づくり事業は、ただ健康増進という目的にとどまらず、地域住民の新たなコミュニティの創造(地域づくり)という面も担う必要があり、医療専門職(主に理学療法士・作業療法士等)のみではなく、住民を核に保健・福祉・教育などに関わるあらゆる職種、産学官民連携が強調される所以である。副次的効果として、顔見知りになり他の場面でも交流が可能になるなどその効果は多面にわたる。

1. 介護予防事業の概説

平成21年より私たちが取り組んできた北九州市・企業団体との連携を基に取り組んできた「介護予防事業」を概説する。

1)「きたきゅう体操」

日常生活に必要な筋力(特に体幹・下肢)や、バランス力の向上を目的に日常生活で行う動きを中心に、「準備体操:6つ」「筋力向上体操(重りをつけて)4つ」「バランス・協調体操:5つ」「整理体操:5つ」の20の体操から構成、椅子に座ったまま行えたり、重りを使ったり、号令をかけリズムをとり

強弱をつけるなど、個別に応じて筋力強化ができるよう配慮したものである。個々の能力に合わせてプログラムが可能である。

毎年、普及員養成講習会を実施しており、令和4年末現在普及員は280名、受講者が地域では講師を務め、自主グループは132か所におよんでいる。

当初は、本学理学療法学科学生教員、北九州市保健福祉局健康推進課と介護・実習普及センターの理学療法士・作業療法士が連携し、普及講習会の企画・運営、指導等実施していたが事業の安定継続に伴い、現在は公益社団法人福岡県作業療法士協会に委託されている。(図1)



図1 「きたきゅう体操」普及講習会風景

2)「ひまわり太極拳」

平成19年より、高齢者の身体機能や筋力の低下を防ぐ効果的な「健康づくり」、介護予防を目的とする運動プログラムの普及・啓発が進められた。高齢者が気軽に楽しく取り組めて、また非常に興味あるものとして「介護予防太極拳」が開発された。「北九州市武術太極拳連盟」の協力を得て、日常頻繁に行う動作(立しゃがみ、フスマやドアの開け閉め、床のものを拾いあげるなど)の動作を取り入れ、太極拳のよさを失うことなく改良を重ねて完成されたのが北九州市オリジナルの12の型からなる「北九州市介護予防十二式太極拳(愛称:ひまわりタイチー)」である。

太極拳の特性(動き・スピード)・風格を活かし、四肢・体幹のストレッチやバランスの立直りの獲得、呼吸機能の向上など、全身の筋力向上を図り、介護予防に役立つ動きを取り入れている。まさに、時間をかけ、民の意見を取り入れながら産官学民が連携して完成させたものである。平成21年度より普及講習会を開催している。

新型コロナウイルス感染が拡大する以前は、「きたきゅう体操」とあわせ、当時担当していた介護予防普及センター主催で共演会(自主グループの発表会)が開催され、非常に盛況であった(図2・3)、令和5年4月現在、普及員養成488名、自主グループ160か所におよんでいる。



(図2・3 ひまわり太極拳発表会)

3)「公園の健康遊具」

市内公園の有効活用を促進するため、平成23年度に保健福祉局健康推進課と建築局緑政課が連携し、市内基幹公園の健康遊具の見直しを検討した。そのモデル事業として、基幹公園の利用調査について依頼された。

公園利用の年齢層・利用時間、利用目的等を学生とともに、平日・日曜日について基幹公園で調査、その結果年齢層は圧倒的に高齢者が多く、平日の朝6時過ぎからラジオ体操目的で来園、ウォーキングとあわせて30分程度の利用であった。日中は犬の散歩、日曜日は中年層のジョギングが多く、子供の利用はほとんどなく、従来から設置されている健康遊具は、朽ちて使用されることは皆無であった。利用者は自宅から10分程度で来園できる方であった。

平成27年度、地域の公園利用時に健康づくりや介護予防に取り組めるよう7種類の健康遊具(図4)を開発し、その適切な使い方や効果的な運動方法をパネルで各遊具の傍に設置、同時にNPO法人北九州スポーツクラブ連絡会と連携し、現地で運動指導を行う教室(週1回半年)を開催、その

一環として設置公園の近隣市民センターで、使用方法はもとより、効果的な介護予防運動についての座学をも開催している。こうした継続事業で、令和5年4月には7基フルセット設置した公園数は29公園(市外福岡市の団地や長崎市内にも設置されている)、普及員養成224名となっている。

その成果は、行政内部の横の連携、大学の遊具使用目的、その方法など知的提供、遊具メーカーの目的を理解の上、製作した精密な遊具、民の活動支援と、まさに産学官連携が目的を共有し有機的につながり、それぞれが継続的に事業のPDCAを繰り返しているたまものといえる。

北九州市内の公園に設置されている健康遊具



(図4 市内公園に設置されている健康遊具)

4)「E・G 体操」

E・G 体操とは、～みんなで Enjoy Genki ならう～ の略である。

平成28年4月「北九州市認知症支援・介護予防センター」の開設に併せ、ロコモティブシンドローム(ロコモ)を予防していく意識を高めるため、開発したリズム体操である。

日常生活でよく用いられる動作を取り入れて、体の動きの基本となる「柔軟性」「足腰の筋力」「体のバランス」などを維持し、向上するのに効果的である。13行程からなる約90秒の体操で子供から高齢者まで、いつでも・どこでもできることを念頭に制作した。振り付けは地元・北九州市出身(北九州市特命大使)の芋洗坂係長である。BMは北九州百万踊りでも使用されている「わっしょい百万踊り」が流れている。現在では「きたきゅう体操」同様、地域で自主グループが結成され、市民センターや地元のお祭りなどでも実施されている(図5・6)。解説リーフレットとともにDVDも作成されている。



(図5 E・G 体操発表会)



(図6 DVD制作の一コマ)

2. 地域における産学官連携の意義

地域・社会課題が多様化・複雑化する中、官・民がそれぞれ単独での課題対応は困難になっており、地域で持続的に課題解決を行うためには、地域の産学官が連携して、地域・社会課題解決と目標達成に取り組むことが望まれている。またそのことが地域の経済活性化の促進につながることもなる。

3. 産学官(多職種)連携に必要なこと

1) 地域で連携するとは

連携を大別すると、

横断的連携: 課題解決型: 現時点における課題解決に向けた連携

縦走的連携: 目標達成型: 将来の目標に向かっての連携

の2つがある。

2) 組織が連携するためには

- ・理念が共有されている
- ・目的が明確に示されている
- ・情報が共有されている

- ・スタッフ間の知識・技術が高いレベルで維持されている
 - ・責任体制が明確化されている
- が望まれる。

その基盤は信頼関係の構築であり、求められる能力はコミュニケーション能力(聞く力, 理解する力, 伝える力), 行動力(目標設定能力, 戦略的思考力, 実践力), 問題解決力(状況認知力, 発想力, 決断力)であり, これらの包括的活動がネットワーク力を生み出すことになる。組織としての説得力ではなく, 人としての納得力が重要となる, その底辺となるのは信頼関係の構築といえる。

3) 役割(ミッション)の遂行

それぞれの特性を活かすべくミッションの遂行である。

① 産学官民の役割

産: 技術の提供

学: 知識の提供

官: 財政基盤の提供・コーディネーター的役割

民: ニーズの提供: プログラムの実行

② 連携で求められるものは

多職種連携にあたっては, 個々のスタッフの高い能力と同時に, フォーマルな関連機関・団体相互の連携とボランティアなどの住民活動などインフォーマルな活動を含めた地域の様々な社会資源の統合, ネットワーク化が重要となる。

終わりに

介護予防事業は見えない将来の姿をいかに見える化を図り, 目標達成に向けて具現化するかにあるといえる。

介護予防事業とは, 専門職や関係機関・団体, 行政, そして地域住民が一体となって織りなす「地域づくり, まちづくり」としての取り組みといえる。専門職の説得力より人としての納得力が重要となる。そのためには実績・データの積み重ね, その成果を評価し, 事業の継続性が不可欠である。しかしながら, ここ数年来新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大もあり, 三密の禁止, 外出自粛などの規制からも, これらの事業活動が円滑に広く市民に普及しているとは言い難く, 健康づくりに積極的でない方や, 取り組みたいと思っても機会がない方に対して普及できるような取り組みを再度検討しているところでもある。私たちが平成 21 年度より産学官連携を基に組み組んできた, 北九州市における「介護予防・健康づくり」について紹介したが, 地域・地方で考えられたいろいろな体操が紹介されている。主役はその地域で暮らす住民であり, その地域の文化・慣習を取り入れたものがなじみ易い。

大切なのは, 動けなくなってリハビリを頑張るのではなく, 転ばない・寝たきりにならないように予防的リハビリテーション, 介護予防, 日常の生活の中で体と心を動かす習慣をつけることが大切であり, 健康づくりの目的は 栄養・運動・休養, そしていかに社会参加を促すかにある。住み慣れたところで, 安心して, 生き活きとした生活へと繋ぐことが, 産学官民が連携する本質といえる。

人生 100 年時代, 生きがい・生活の目的の構築が重要といえる。決して 定年=隠居ではない。

参考資料

- 1) 「きたきゅう体操」普及用解説リーフレット 北九州市介護・実習普及センター, 公益社団法人福岡県作業療法士協会
- 2) 公園で健康づくり リーフレット 北九州市保健福祉局健康推進課・建設局緑政課, NPO 法人北九州スポーツクラブ連絡会. 監修:九州栄養福祉大学リハビリテーション学部
橋元隆 2022
- 3) 「ひまわり太極拳」普及員養成講座テキスト 平成 26 年度版 北九州市介護・実習普及センター
- 4) 北九州市オリジナル E・G 体操 ～みんなで Enjoy Genki になろう!! ～DVD.
北九州市認知症支援・介護センター 平成 28 年 3 月 第 1 版

北九州市認知症支援・介護予防センターと本学部との連携のもと、

地域で行っている「尿もれ予防体験会」について

九州栄養福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科

准教授 吉田遊子、准教授 中藤佳絵、准教授 神崎良子

はじめに

北九州市の高齢化率は、1990年に全国平均を上回り、その後も一貫して全国よりも高い水準で推移し、2023年には31.2%と政令指定都市の中で最も高い高齢化率である¹⁾。このような背景から、北九州市は、2014年に地域包括システムの構築が介護保険法に盛り込まれて以降、高齢者の自立支援と要介護状態の重度化防止、住民主体の介護予防や生活支援など地域に根ざした様々な活動を展開している²⁾。

ところで、「尿もれ」「頻尿」は、老年期症候群の一つとされ後期高齢者で増加し、フレイル、QOL及び日常生活活動の低下、要介護状態との関連が指摘されている。一方、尿もれ等に対する理学療法は、現在のところ、診療点数に収載されておらず、病院等で適切な指導を行う体制が整っていない。以上のような背景から、我々は行政からの委託を受けて、2007年度から「女性のための高齢者尿失禁予防教室」を、2015年度から現在まで、地域

で「尿もれ予防体験会」を行っている。

以下、「尿もれ予防体験会」開催の経緯と内容、現在までの実績及び課題について報告する。

1. 「女性のための高齢者尿失禁予防教室」から「尿もれ予防体験会」への変遷について

2007年に北九州市保健福祉局は、介護予防事業の一環として、「高齢者尿失禁予防事業」を立ち上げた。これは、排泄に関する相談窓口と、相談者の受け皿としての「女性のための高齢者尿失禁予防教室（以下、尿失禁予防教室）」などで構成され、全国的にも珍しい取り組みであった。「尿失禁予防教室」の立ち上げにあたって、本学部は、教室プログラム作成と指導者養成の委託を受け実施した。教室は3ヵ月全8回で構成し、開催にあたっては、委託を受けた市内3施設の理学療法士・作業療法士・看護師3～12名がローテーション体制で運営を行った。さらに、泌尿器科医が医学的指導を、本学部が教室運営指導を、行政が参加者募集を行い、教室運営をサポートした。本教室は2007年～2015年の9年間に22教室が開催され、のべ349名（1教室あたり平均15.9人）の参加があり、尿もれ症状・QOL等の改善、さらには介護予防の効果も確認された^{3～5)}。

しかしながら、本教室は、「高齢者尿失禁予防事業」が他の事業と統合されたことで、2015年に終了した。その際、教室参加者から、「より身近な地域で尿もれ予防体操の指導をしてほしい」、「会場が遠く、通うのが大変だった」との要望・意見を受け、2015年に「尿もれ

予防体験会（以下、体験会）」に移行し、現在も継続している。

2. 「尿もれ予防体験会」について

1) 体験会の概要

体験会は、北九州市保健福祉局認知症支援・介護予防センター（以下、北九州市）からの委託を受けて、本学部の理学療法学科教員（女性理学療法士）3名のうち1名が出前講座を行っている。対象は、「おおむね65歳以上の人を5名程度以上含むグループ」で、1年間15グループを上限としている。

出前講座の内容は、下部尿路症状の基礎知識、尿もれの種類、排尿日誌、骨盤底筋体操、膀胱訓練、生活指導について、講義と演習を行っている。なお、尿もれの種類には、腹圧性尿失禁、切迫性尿失禁、機能性尿失禁、溢流性尿失禁があるが、高齢者においては様々な症状が合併していることもある。

「骨盤底筋体操」は、軽度から中等度の腹圧性・切迫性尿失禁が適応であり、この体操を1～3カ月継続すること、併せて適正体重、便秘予防などの「生活指導」が有効とされている。骨盤底筋体操のターゲットである「骨盤底筋」は、骨盤の深層部に位置するため筋収縮の認識が難しく、体操修得が難しい。そのため、体操指導にあたっては、骨盤模型とイラストを用いて骨盤底筋の場所をイメージしてもらい、筋の特性（遅筋と速筋の2種類の筋があること、横隔膜・腹斜筋などの筋肉と共働するなど）を説明したうえで演習を行

っている。特に、高齢者においては、筋収縮の認識が難しく、代償的に別の筋を収縮させてしまうことがあるため、体表からの触診を併用している。次に、体操時の体位として臥位、座位、立位と段階的に難易度を増すことから、対象者の理解度・会場の環境に応じて適宜、演習を行っている。さらに、フレイル・姿勢や動作・肥満との関連など、全身的な視点からも指導している。

「膀胱訓練」の適応は、頻尿や尿意切迫感、切迫性尿失禁である。これに対しては、まずは、自身の排尿状態を知ってもらうために、「排尿日誌」を用いて排尿量・排尿回数・飲水量・尿もれ状態の測定方法を指導する。膀胱訓練は、尿意を我慢して膀胱を元の大きさに戻す訓練であり、骨盤底筋体操を併用すると効果的である。さらに、水分摂取の内容や適量、適正体重、夜間頻尿対策などの「生活指導」も行っている。

「機能性尿失禁」は、加齢や疾患などが原因で、排尿関連動作に問題がある場合にみられる尿もれである。これに対しては、全身運動、排尿排便環境の整備、尿取りパッド、市の排泄相談窓口（福祉用具等）の紹介などを行っている。

尿もれや頻尿症状で困っている方の中には、「年だから仕方がない」と諦めていたり、「誰にも相談できず、悩んでいた」という方も多くいらっしゃる。よって、体験会では和やかな雰囲気づくりを心掛け、「誰でも起こること」、「予防すれば改善すること」を説明している。さらに、体操を継続するために、生活の中に体操を取り入れ、お互いに声を掛け合っ

て、体操を継続していただくよう指導している。しかしながら、一定期間、体操等を実施しても効果が認められない場合は、外科的治療等が適応のこともあるため受診することも



説明している。

(図 1)「尿もれ予防体験会」の様子

2) 北九州市との連携体制

体験会参加者の募集は北九州市が行っている。北九州市はチラシ(図 2)を市民センター等に設置し、市民センターの職員・保健師等からの声掛け、さらには「サロンで健康づくり」の事業から市民に紹介している。体験会終了後、グループ代表者は「尿もれ予防体験会実施報告書」を北九州市に提出し、本学部は、月締め及び年度末に「尿もれ予防体験会実施報告書」を北九州市に提出する。これらの情報を元に、北九州市は事業企画への反映

を行っている。



(図 2)「尿もれ予防体験会」のチラシ⁶⁾

3) 2015 年～2022 年の体験会の実績

表 1 に「2015 年～2022 年の「尿もれ予防体験会」の実績（まとめ）」を示す。2020・2021 年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、申し込み件数減少・キャンセルがあったが、合計 108 会場（年間平均 13.5 会場）で開催した。参加者合計数は 2,342 名（年間平均 292.8 名）、1 回あたりの参加人数は 21.2 人であった。

(表1) 2015年～2022年の「尿もれ予防体験会」の実績（まとめ）

年度	件数	参加者数	1回あたりの参加人数
2015 (H 27)	15	355	23.7
2016 (H 28)	15	339	22.6
2017 (H 29)	14	265	18.9
2018 (H 30)	15	401	26.7
2019 (R 1)	14	472	33.7
2020 (R 2)	7	104	14.9
2021 (R 3)	13	204	15.7
2022 (R 4)	15	202	13.5
合計	108	2,342	169.7
平均	13.5	292.8	21.2

表 2 に「2022 年度の尿もれ予防体験会実施報告書」を示す。実施会場は市内 5 区の市民センター、公民館、集会所の計 15 会場で、申込者は会の代表者や地域を担当する保健師など様々で、過去に受講した方によるいわゆる「口コミ」もあった。開催時間は 50～90 分間であった。参加者は 50 歳代～90 歳代と幅広く、性別は女性が多数だが、男性が数名いる場合もあった。骨盤体操については、初めて聞く方、過去に体験会を受講したことがある方、病院でパンフレットを貰ったが、一人ではできない方など様々であった。よって、体験会の内容は、会場の環境（椅子の有無やマットなどあり背臥位をとれる環境か）や身体活動レベル、男女比、排尿に関する困り度、体験会へのニーズなどを考慮しながら行った。

参加者は、日頃からグループ活動をされている顔なじみということも多く、体験会終了

時に質問や相談が数件、上がることが多い。また、日頃のグループ体操活動に「骨盤底筋体操」を取り入れて、継続したいとのコメントをいただくこともあった。さらに、保健師や健康指導員、まちづくり協会が関わっているグループでは、情報交換内容を指導に活用、グループ代表者から、他のサロンに関する利用相談などがあれば、適宜、北九州市に情報提供を依頼した。

4) 2022 年度受講グループ代表者からの「尿もれ予防体験会実施報告書」結果について

図 3 に、2022 年度受講グループ代表者からの「尿もれ予防体験会実施報告書」結果を示す。

「1.体験会の感想」（「大変満足」～「不満」の 5 択から回答）では、全員が「大変満足」と回答し、「2.指導者について」（「大変分かりやすかった」～「分かりにくかった」の 5 択から回答）では、「大変分かりやすかった」14 名、「分かりやすかった」1 名の回答だった。

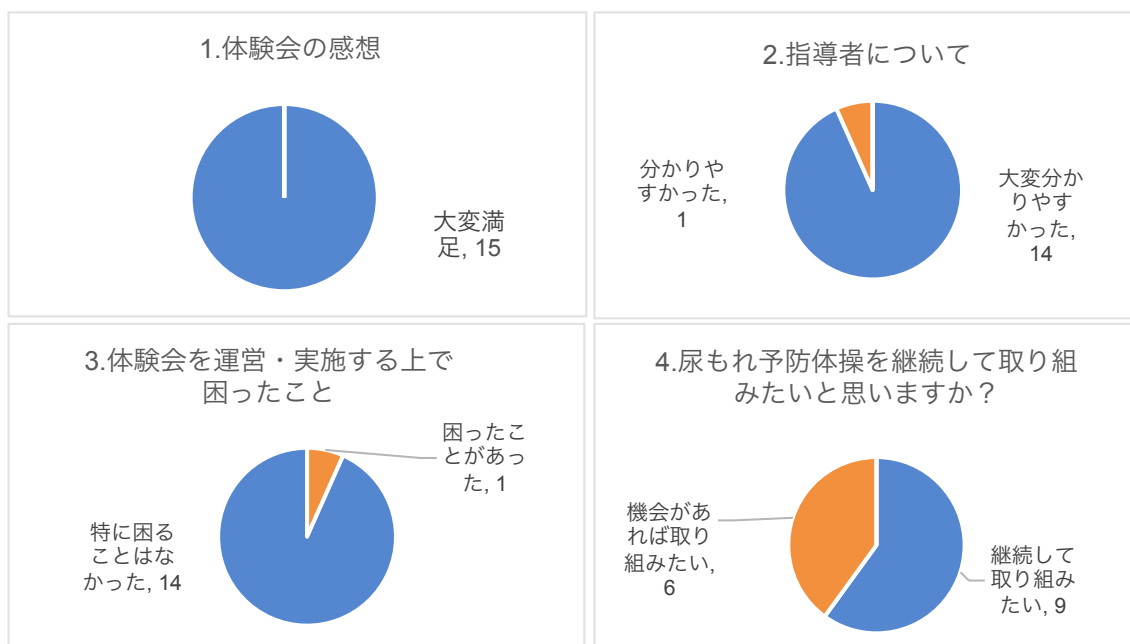
また、「3.体験会を運営・実施する上で困ったこと」（「特に困ることはなかった」「困ったことがあった」の 2 択から選択）では、「特に困ることはなかった」14 名、「困ったことがあった」1 名で、内容は「座る椅子の準備が必要なため、参加人数に制限があると思った」であった。

「4.尿もれ予防体操を継続して取り組みたいと思いますか？」（「継続して取り組みたい」「機会があれば取り組みたい」「行わない」の 3 択からの選択）では、「継続して取り組み

たい」9名、「機会があれば取り組みたい」6名であった。

以上の結果から、「体験会」は非常に好評を得ており、運営・実施上の問題もなく実施できていることが分かる。

2022(令和4)年度 尿もれ予防体験会 実施報告書 (年報)					
回数	月	時間数 (分)	実施会場	参加者 人数(人)	所感(気づき)
1	5	70	小倉北区 A市民センター	8	参加者は全員女性。45年来のボランティア団体で尿もれの悩みもお互いに話し合える親しい間柄であった。「筋力や体力測定してもらえる場があれば参加したい」とのことで、市から「サロンで健康づくり事業(運動器)」を紹介してもらった。
2	6	70	戸畑区 B市民センター	14	参加者は全員女性、会場まで徒歩で来場している方がほとんどであったため、立位での運動や排泄関連動作に対する体操なども加えて行った。
3	7	90	門司区 C市民センター	17	男性2名を含む17名の参加。参加者同士の関わりが良好で、声を掛け合いながら理解を深めている様子が見えた。
4	9	60	小倉南区 D市民センター	12	男女比は半々、参加者から他のサロンでの開催についての打診があったため、申し込みについての案内を行った。
5	10	60	戸畑区 E市民センター	14	参加者は全員女性。尿パッドを使用している方もおられたため、使用方法(ギャザーの立て方、サイズの選び方など)も丁寧に説明し好評であった。
6	10	60	戸畑区 F市民センター	12	男性1名を含む12名の参加。参加者の大半が尿失禁対策についてはじめて話を聞くとのことであったため、解剖などの基本から体操までを丁寧に扱った。
7	10	65	八幡西区 G集会所	18	男性1名を含む18名の参加。骨盤底筋は聞いたことはあるが、実際の体操は初めてとのことだった。座位での収縮が分からない方には、背臥位で収縮確認をしながら指導した。
8	11	80	小倉南区 H市民センター	15	男性1名、女性14名の参加。60分で終了予定であったが、もう少し体操がしたいとの要望があり、ハンドタオルを用いた収縮方法を説明、実践した。
9	12	75	小倉北区 I公民館	9	男性2名を含む9名の参加。理解度が高く、座位での体操が概ね可能であったため、立位での体操も実施。尿意がないのにトイレに行っていた、初めて聞く内容がたくさんあったと、とても好評であった。
10	12	70	小倉南区 J市民センター	19	参加者は全員女性。他の会場で行われた本体験会に参加した方の後日談を聞き、興味をもち参加した方が数名おられた。半数が尿失禁対策についてはじめて話を聞くとのことであったため、解剖などの基本から体操までを丁寧に扱った。骨盤底筋体操を普段の健康体操の中に取り入れるように提案した。
11	1	75	戸畑区 K市民センター	8	寒波のため参加者は予定数よりも少なかった。参加者の理解度が高く、立位での収縮やスクワットなど排泄関連動作へのトレーニングも実践した。男性用のパッドを初めて見た方が多く、好評であった。
12	2	90	八幡西区 L公民館	21	男性10名、女性11名の参加。すでに泌尿器科受診をしている方もいたため、参加者の経験談なども聴取しながら実施した。あらかじめ福祉用具プラザからサンプルや試供品を借用して尿取りパッドの話をおこなった。
13	2	80	八幡東区 M市民センター	17	センターの年間講座の一環で開催。これまでの講座の内容も踏まえながら講演を行い、頻尿や膀胱炎の悩み、薬や体操に関する事など積極的に質問が上がった。
14	2	50	若松区 N市民センター	10	男性2名、女性8名の参加。体験会は50分間と短い時間であったため、十分な実技指導ができなかった。
15	2	75	戸畑区 O市民センター	8	夜間頻尿に対してお悩みがあり、夕方の緑茶を別の物に変える対策の他に、昼寝を短時間にする、夕方の軽い運動や下肢の挙上、風呂でゆっくりリラックスすることなど説明した。
15会場				202人	



(図 3) 2022 年度受講グループ代表者からの「尿もれ予防体験会実施報告書」結果

3. 結語

「尿もれ予防体験会」は、「尿失禁予防教室」参加者からの、「より身近な地域で尿もれ予防体操の指導をしてほしい」、「会場が遠く、通うのが大変だった」との要望・意見を受け、現在の形になった。これについては、我々が、市内全域に伺い出前講義を行うことで、解消されていると考える。一方で、「尿失禁予防教室」は 3 カ月間全 8 回の教室で、かつ 1 回あたり複数名のスタッフが指導したが、体験会は 1 年間に 1 グループ 1 回のみの受講、出務者 1 名が短時間で指導しているため、指導内容の習熟については課題が残る。

この点について、体験会参加者が受講後 3 か月後に、「骨盤底筋体操」「膀胱訓練」「生活上の工夫」を継続実施しているか調査した結果⁷⁾では、回答者の 7 割程度が継続実施して

いた。「継続している理由」としては、「生活の中に取り入れて、一人でも取り組める」との回答が最多であった。一方で、「継続していない理由」としては「習ったが、一人ではできない」が最多であった。よって、このような方には「定期的な体験会参加」や「グループでの支援」といったソーシャルサポートの必要性が示唆された。

実施報告書の所感欄より、講義担当者は参加者の年齢層や性別と比率、身体活動レベル、排尿に関する困り度、体験会へのニーズ、グループ内の親密度、申込者の思いなど様々な情報を基に体験会を構成し、その場の反応に応じて強調する内容を柔軟に変えていることが分かる。これは老年期の心身機能や生活機能を熟知した理学療法士だからこそできることであり、今後も介護予防事業にリハビリテーション専門職が関わる意義があると考えられる。

4. 引用文献

- 1) 北九州市ホームページ 北九州市の現状,

<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/files/001046944.pdf> (2024年2月6日引用)

- 2) 北九州市ホームページ 第2次北九州市いきいき長寿プラン 介護保険事業計画及び老人福祉計画 令和3(2021)年度～令和5(2023)年度,

<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/files/000930947.pdf> (2024年2月6日引用)

- 3) 吉田遊子：地域における排泄リハビリテーション。「リハスタッフのための排泄リハビリテーション実践アプローチ」（鈴木重行,他編）pp376-383, メジカルビュー, 2018
- 4) 吉田遊子・他：北九州市における高齢者尿失禁予防事業への関わり～理学療法士の立場から～. 日本老年泌尿器科学会誌 28:55.2015.
- 5) 神崎良子・他：北九州市における「女性のための尿失禁予防教室」参加者の高齢者実態調査について. 日本老年泌尿器科学会誌 28:94,2015.
- 6) 北九州市保健福祉局認知症支援・介護予防センター作成：「あきらめないで!!尿トラブル」
- 7) 吉田遊子・他：「尿漏れ予防体験会」参加者の講座内容理解度と尿漏れ予防対策継続実施状況の報告～介護予防事業における理学療法士の関わりから～. 九州栄養福祉大学研究紀要 16,25-36,2019

低学年の国語科教育方法に関しての一考察

～幼小接続における取組みと期待される効果～

保育学科 上森哲生

A study on Japanese language teaching methods for lower grades

～Efforts and expected effects in connecting kindergartens and elementary schools

～

Childcare department Tetsuo UEMORI

要旨

学習指導要領の「総則編」では、「2 教育課程の編成」の「2 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成」として、国語に関しては「言語能力」育成が他の分野と共に述べられている。さらに「4 学校段階間の接続」の（1）においては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導の工夫により、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが求められている。

教科「国語」の最も留意する点は「言葉」を中心に子どもたちの育成に当ることであり、それは、社会生活を営む上で、また、文章の種類は様々なものであっても、内容把握においては、「言葉」を介しての理解や認識であるので、それらの基盤となる重要なものだからである。そのための幼小のスムーズな接続が必須である。幼児期の経験カリキュラムでの育成が小学校の教科カリキュラムでの育成に移行する時期での課題として、小1プロブレム¹と呼ばれる事態が発生している。令和4年には「幼保小の架け橋プログラム²」が提示され一層の円滑な接続に進む感があるが、小学校学習指導要領「総則編」及び幼稚園教育要領「総則」そして、同じく「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、領域「言葉」と小学校学習指導要領「国語」との関係性及び接続に関して検討し、接続の対処策として、保育内容「言葉」と他の養成校で担当した科目「表現と理解」の授業における取り組み事例二つを示し、2019年の文部科学省のデータも参照してスムーズな接続の対処策を考えてみる。

¹ 小1プロブレム：幼小のギャップに落ち着きがない状態などが起きる問題

² 幼保小の架け橋プログラム：文部科学省のHP 参照

キーワード：幼保小のスムーズな接続 小1プログラム 領域「言葉」
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 学習指導要領「国語」

I 問題の所在

- 1) 小1プログラムの解消策の一つとして、「架け橋プログラム」の一つを担う「十の姿」及び領域「言葉」と学習指導要領との接続における関係性の比較検討と「言葉の獲得」に関しての各分野の専門家の見解を紹介する。

そして、幼児教育の児童文化財の中心に位置するといっても、過言ではない「絵本の読み聞かせ」における効用について専門家の見解をもとにし

て考察してみたい。そこから、スムーズな接続に関するやり取りが出てく

るのではないかと考えている。

- 2) 幼児教育において最も重要な「三つの育みたい資質・能力の基礎」は小学校での同じ資質・能力が「知識及び技能の**修得**、思考力・判断力・

表

現力の**育成**、学びに向かう力。人間性等の**涵養**」各々の力の修得・育成・涵養」と変わっており、教科という区分けの細分化により、より専門化した内容と要求度が高くへの成長が高くなっており、幼小の接続は重要度を増している。そのための策の一つである「架け橋」としては「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を介しており、幼稚園・小学校とも互いに折り合う必要があると思われる。重要性の高さは言うまでもない。岡本夏木³はその書「幼児期」において、「こどもは世界をどうつかむか」と副題を付け、幼児期において何が育つのか、何を育てる必要性があるのか、「しつけ」「遊び」「表現」「言葉」の四つテーマを取り上げて、「いわゆる従来の『しつけは厳しく、遊びは元気に、表現はのびのび、

³ 岡本夏木「幼児期」

言葉ははきはき』式の子ども観が、これまでの保育方針を全面的に支配してきた」が、昨今の社会状況や子どもの置かれた物的な環境などから、この書籍では四つのテーマの表層的な分野よりも、内包する問題をさらに一歩深めた点を紐解いている。それだけ、ダイバーシティが拡大しつつあるのか、それでも幼稚園側は特性に応じて発達の課題に応じて、一人一人の教育に当たっている。

3) 次の学習指導要領等の改訂予想までには、すでに半分の時間が経過し、残り時間も4年ほどと思われる。移行期の取り組みがスムーズか否かは次々と出る答申や通達等から見れば、必ずしも進捗具合が文部科学省の想定通りではないのかもしれない。2019年6月11日の文部科学省の「幼児期の教育と小学校教育の接続について」の資料中のデータでは芳しくない状況だが、時間がかかり過ぎているので、現在は改善が進んでいるものと考えている。そのうえ、小学校に入れば、この小1プロブレムとは別に「9歳の壁⁴」と称されている大きな問題もある。9歳の壁とは、具体表現からの抽象表現への変化とその語群の増大により、子どもの理解度が進まないといわれる躓きの一つである。今井むつみ⁵によれば、この9歳の壁問題にも幼児期の生活体験が大きく影響していると「ことば力と思考力⁶」の中で指摘しており、併せてその解決策を提起している。この二つの問題の対応策に共通点があるので、今井むつみが書籍で述べている対応策をまとめる。

II 研究の目的

1) 幼児教育が学校教育の始まりだから、小学校での教育はもう少し幼児教育の内容面の認識を深める必要があると思われる。そのためには教育要領の解説と五領域、幼児理解と幼児教育における学びとしての遊びの内容と意義についての理解が欠かせない。前述しているが児童文化財の一つである「絵本の読み聞かせ」に焦点を当て、後ろの方でそれをアレンジした

⁴ 9歳の壁：抽象語の理解が進まない、算数の小数分数が不得手な問題等

⁵ 今井むつみ：発達心理学者 慶応義塾大学 教授

⁶ 「ことば力と思考力」：今井むつみの著書

形での国語力の引き上げ方法を考察する。

- 2) 小学校学習指導要領の「総則」及び「国語」と幼稚園教育要領の「言葉」との関連性といわゆる国語の三つの領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」との関連性を整理する。特に、幼児期の「話すこと・聞くこと」から小学校では「書くこと」つまり、文字に関する国語力の伸長が求められている。そこで、絵本の読み聞かせをアレンジしての「絵描きと言語表現のトレーニング」として、「絵から文」、逆に「文から絵」の遊び（＝幼児期の学び）の活用をはかることの考察である。
- 3) 近年、「幼保小の架け橋プログラム」や「個別最適な学びと協働的な学び」として、2017年の補足と発展をしている施策が提示されているが、この分野においても検討を加えてみたい。

Ⅲ 研究の方法

- 1) 学習指導要領「総則編」についてのまとめ
- 2) 幼児教育の領域「言葉」と学習指導要領「国語」の比較
 - 2-1) 領域「言葉」の「ねらい」と教科の「目標」
 - 2-2) 領域「言葉」の「内容」と教科「国語」の「知識及び技能」の「内容」（幼稚園教育要領）抜粋
 - 2-3) 領域「言葉」の「内容の取扱い」と教科「国語」の「知識及び技能」の「指導計画の作成上の配慮事項と内容の取扱い上の配慮事項」
 - 2-4) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
- 3) 文部科学省の2019年のデータより判明した事とその対応
- 4) 「言葉の育つ環境としての土台」の事例＝児童文化財の活用は有効策＝「幼児期の生活」「絵本の読み聞かせ」「語り掛け」による効用について
 - 4-1) 「ことば力と思考力」今井むつみ
 - 4-2) 「クシュラの奇跡⁷⁾」ナンシードロシー
 - 4-3) 「一日30分の語り掛け⁸⁾」サリーウオード

⁷⁾ クシュラの奇跡：ナンシードロシー著 のら書店 2006年

- 5) 国語の入門期に「絵から文章へ・文章から絵を描く」について
＝「個別最適な学びと協働的な学び」に関連して

参考：「言葉」に関する参考についてのまとめ（NHKのテレビ番組より）

- 1 「出産：人は難産を選んだ」 *明和政子（京都大学大学院教授）
- 2 「母乳」 *和田友香（国立成育医療センター小児科医長）

以上の内容と順番で検討・比較・まとめを行った。

IV 考察

1) 学習指導要領「総則編」について

学習指導要領の「総則編」では、「2 教育課程の編成」の「2 教科等横团的な視点に立った資質・能力の育成」として、その中で国語に関しては「言語能力」育成が他の分野と共に述べられている。さらに「4 学校段階間の接続」の（1）においては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能になるようにすること。」加えて「低学年における教育全体において生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が他教科等の学習においても生かされるように・・・」とある。そして、次に特筆される部分がある。「特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと」と記載されている。かなり細かい部分までの記述から、小学校関係者は個々の部分をもう一度見直して、文章の行間を読み込んでゆく必要があると思われる。その後半部分での説明には幼児期教育と同じ三つの視点、すなわち「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点での授業改革が求められている。「その深い学び」の「鍵としての『見方・考え方』は「どのような視点で物事をとらえ、どのような考え方で思考してゆくののか」という「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核」「教科等の学習と社会をつなぐ」と重要な点に触

⁸ 一日30分の語り掛け；サリーウオード著 言語療法士 小学館 2001年

れている。教育の根幹である点をこれほどまでに記述している点を振り返りつつ小学校教育をみてゆかねばならないと考える。

2) 幼児教育の領域「言葉」と学習指導要領「国語」の比較

2-1) 領域「言葉」の「ねらい」と教科の「目標」について

(幼稚園教育要領)の抜粋

4 言葉の獲得に関する領域「言葉」

1 ねらい

- (1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。(心情)
- (2) 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。(意欲)
- (3) 日常生活に必要な言葉がわかるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる。(態度)

※なお、波線部は今回の改訂で加わった記載部分。強調文字は筆者の書き込みによる

(小学校学習指導要領)の抜粋

1 教科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。(知識・技能の修得)
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。(理解力・判断力・表現力の育成)
- (3) 言葉が持つよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。(学びに向かう力・人間性等の涵養)

※ 二重傍線部及び()内は、筆者の書き込みによる

幼児教育において、保育内容「言葉」の指導の基盤・目標としては、「教育要領解説書」フレーベル館 文部科学省⁹の中に、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」という記述がある。そのねらいには1) 楽しさを味わう 2) 伝え合う喜びを味わう 3) 絵本や物語に親しみ、新しく追加されている「言葉に対する感覚を豊かにし」、という項目が挙げられている。その「解説」部分には「言葉は身近な人との関わりを通して次第に獲得されるもの」、「幼児は自分なりのことばで表現したとき、相手が頷いたり、言葉で応答してもらおうと楽しくなり、もっと話そうとする」という意欲を引き出すとあり、言葉の意義の一つに、「伝え合うこと」があるので、ひいては「相手との共感や喜び、楽しさも感じる」と述べている。「伝え合う」ことはそのまま小学校の学習指導要領にも登場する大事にしている文言である。この学習指導要領における解説箇所が二重傍線部であるが、「言葉」に関することとして、その求められる資質・能力の内容としては大きな開きがある。唯一同文言が使用されているのが、「伝え合う」ことであり、幼児期ではその「喜び」一方、小学校では「力」となっている。それは解説書のなかにもあるが、「言語能力を育成する中心的な役割を担う国語科」であるからと解される。当然のようだが、あらためて認識をしておく必要がある。「言葉による見方・考え方」の説明も「対象と言葉、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり、問い直したりして、言葉への自覚を高めることである」と極めて重要な点を記載している。しかも、「国語で正確に理解し」、「適切に表現する」という求めである。ここも社会を構成する一員として備えるべき必須条件が提示されている。さらに、幼児期・小学校ともに同じ記述の「伝え合う」ことが大きな役割を担う分野である。幼児期に始まった「言葉」への親しみや興味・関心・楽しさから社会生活を営む上で必須の役割を明記して三つの資質・能力の醸成を求めている。加えて、学年の目標として 1・2 学年、3・4 学年、5・6 学年の三区区分がなされている。ここでは今回の幼小接続の意味もあって、低学

⁹ 「教育要領解説書」フレーベル館 文部科学省

年の部分のみを取り上げる。

知識及び技能

(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。

理解力・判断力・表現力等

(2) 順序だてて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや感が出をもつことができるようにする。

学びに向かう力・人間性等

(3) 言葉が持つ良さを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に
して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

解説書によると、「知識及び技能」については、全学年同じ内容。「思考力・判断力・表現力等」については、その内容は系統的に求めている。たとえば、「考える力」について12学年の「順序だてて」34学年の「筋道立てて」考えるようにと系統的に求めている。「自分の思いや考え」では、12学年は「もつこと」34学年は「まとめること」56学年は「広げること」と段階を踏んでいるところが評価できる。子どもへの配慮が感じられる。

2-2) 領域「言葉」の「内容」と教科「国語」の「知識及び技能」の「内容」
(幼稚園教育要領) 抜粋

内容

- (1) 先生や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする。
- (2) したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。
- (3) したいこと、してほしいことをことばで表現したり、分からないことを尋ねたりする。

- (4) 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。
- (5) 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。
- (6) 親しみをもって日常の挨拶をする。
- (7) 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。
- (8) いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。
- (9) 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを
味わう。
- (10) 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。

(小学校学習指導要領) の抜粋 (枚数の関係で一つの区分のみ項目掲載)
三つの区分での説明となる。

2 「知識及び技能」の「内容」

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・言葉の働き
- ・話し言葉と書き言葉
- ・漢字
- ・語彙
- ・文や文章
- ・言葉遣い
- ・表現の技法
- ・音読、朗読

(2) 情報の扱い方に関する事項

- ・情報と情報との関係
- ・情報の整理

(3) 我が国の言語文化に関する事項

- ・伝統的な言語文化
- ・言葉の由来や変化
- ・書写
- ・読書

3 思考力・判断力・表現力等の内容

- A 話すこと・聞くこと (略)
- B 書くこと (略)
- C 読むこと (略)

解説書の p 41～p 75 に至る分量と内容の深さが記載されている。これは低学年分のみである。さらに説明は三つの力に沿って説明量も一つ一つの事項もかなりの分量となっている。枚数等の関係もあり、一つずつここでは挙げていないけれども、項目を見ただけで一気に難度が上がっている。ただ、幼稚園教育要領の記述を一つずつ見てゆくと、(1)～(10)までのすべての項目が小学校の学習指導要領との関連性の深さに気づかされる。幼稚園側はもちろん、小学校側の先生たちも全員が認識を深めるべきと思われる。理由は受け入れ側に質問の数量質ともにたくさんあるであろうと思われるからである。双方改めて

幼稚園教育要領の総則に関して行間も含めて読みこむ必要があると思われる。そして意外となされていない幼稚園側も小学校の指導要領の求める内容について把握すべきと思われる。幼児にとって、幼稚園時代までは比較的自分の思いや行動は主体的でよかったものが、小学校へ入ると、教科の学習一つとっても、思い通りにはなかなか許されないことも多くなると考えられる。一斉授業から個別授業へのシフトが今後は行われてゆき、ある意味幼稚園時代と近くなるかもしれないが、このことから先ほどの2019年のデータでの小1プロブレムは「家庭のしつけ」とか「自己中心」とかがあるので、「進まないという理由になってくる」のであろうと思われる。ただ、この姿勢は教員事態の積極性にやや欠けるのではないかと思われる。受け身になってはいはしないかと思うところである。小学校の教員を責めているのではないが、学習の量も質も幼児期の3月までと小学校一年生の4月からでは、大きな差異があるので、そこで、対応策としての「架け橋プログラム」が出てきているのであり、従来の枠組みを外れて思い切って、幼児期の学びが遊びそのものであり、生活でもあったので、教員も遊びの中で教材や教具を探して徐々に学習指導要領の求める内容の難度まで進める必要があるのではないか。その方策として考察すれば、交流の一環としてゲストティーチャーとしての受け入れは確かに着手しやすい有効な方法である。それこそ児童文化財に堪能な方を含め、ベテランの小学校教師や地域人材の活用も視野に入れるとよい。

2-3) 領域「言葉」の「内容の取扱い」と教科「国語」の「知識及び技能」の「指導計画の作成上の配慮事項と内容の取扱い上の配慮事項」

この「ねらい」「内容」のほかに、幼小の比較対象に「内容の取扱い」があるが、これも先ほどの「内容」と同じく小学校は詳細にわたっての記述がある。とてもこの場でさばける分量と質ではない。幼児教育への配慮がより慎重になされていることがうかがえるが、「遊び」が「学習」である時期に、小学校の本格的で緻密な意図のもとに作成されている学習指導要領とその趣旨に基づいての教科書及び「学び」の実践のあることが理解できる。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の各段落の四段落が「教師の役割」、五段落目が「小学校との接続」の記述であることも認識しなければならない。ただ、学習指導

要領の記述内容は紙面の都合上省き、ここでは幼稚園教育要領のみ掲載する。

3 「知識及び技能」の「内容の取扱い」

(幼稚園教育要領) 抜粋

- (1) 言葉は、身近な人に親しみをもって接し、自分の感情や意志などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して次第に獲得されていくものであることを考慮して、幼児が教師や他の幼児と関わることにより心を動かされるような体験をし、言葉を交わす喜びを味わえるようにすること。
- (2) 幼児が自分の思いを言葉で伝えると共に、教師や他の幼児などの話を興味をもって注意して聞く事を通して次第に話を理解するようになっていく、言葉による伝え合いができるようにすること。
- (3) 絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結びつけたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによつて、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。
- (4) 幼児が生活の中で、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れ、これらを使う楽しさを味わえるようにすること。その際、絵本や物語に親しんだり、言葉遊びなどをしたりすることを通して、言葉が豊かになるようにすること。
- (5) 幼児が日常生活の中で、文字を使いながら思ったことや考えた事を伝える喜びや楽しさを味わい、文字に対する興味や関心を持つようにすること。

※波線部は今回の改訂で変更された部分

以上の掲載分のみでも小学校の学習指導要領の求められる内容とその取扱いや指導計画の立案時の内容と一致するあるいはその基礎となることが理解できると考える。以上の法的な分野においては、接続に関しては定まっているけれども、要は一定の効果を引き出すために現場ではどういう工夫をすべきかということである。提案したいのが、児童文化財で最もポピュラーな「絵本の読み聞かせ」と「その応用」である。読み聞かせが有効なのは、幼児期の子どもたちの連想能力は各自の思い描く遊びでのいろいろな生活場面においての全

く別物を思い描くイメージ力は認めるところであり、そのものになりきって遊んだり、そのものと思い込んで道具にするので、想像力は高い。没頭できるので、シミュレーションが大人よりも容易である。この部分から絵本の読み聞かせの効用として障害者の回善の実績などを考慮して新たな遊び＝学習に取り組みたい。先に絵本の読み聞かせの効用についてあとの4)「言葉の育つ環境としての土台」で、述べてみたい。

2-4)「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

この「言葉」に関するのが、「(9) 言葉による伝え合い」である。先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言語や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

小学校の教科「国語」の目標を参照すればわかるが、多くのものがこの3行に詰め込まれている。このいわゆる「十の姿」の解説部分はすべての文章の構成が一致しており、最初の段落は「関わりの深い領域」、二段落目が「幼児の状況」三段落目が「事例」、四段落目が「教師の役割」、五段落目が「小学校との接続」という構成である。対象が主に5歳児の後半であるので、小学校の入門期の扱いでも可能と思えるが、最後の段落の小学校との接続においては、「伝え合い」が重視され、入学当初の戸惑いの多いことの解消に向けて役立つし、何より小学校における友達同士の生活や学習面での意思疎通や受け止めや認め合いといった交際・交流にも大きく影響するし、新たな出会いや人間関係を築いて行くうえで非常に役立つ力になる存在である。

3) 文部科学省の2019年のデータより判明した事とその対応

2019年6月11日の文部科学省の「資料：幼児期の教育と小学校教育接続について」のデータ(複数回答)では、小1プロブレムの原因の第1位が「家庭でのしつけ」が問題とする意見が87%、次に「自分のコントロールができていない」が78%と大きく占めており、三番目に「自己中心的傾向が強い」が60%という数値となっている。ただ、指導要領の改訂直後のデータであるので、この点も考慮しておかねばならない。

同データからは、幼小接続の取り組みが遅々としている理由や原因としては「双方の教育課程接続関係のわからない」という回答や「したがって、積極性に欠ける」等々の趣旨が挙げられている。しかし、前述しているように、小学校の学習指導要領の「総則」の一節を見ればわかるように、文部科学省は極めて細部に至るまで幼児への配慮がなされていると考える。また、「接続推進に大切なことは」という別の質問では、その回答に「双方が歩み寄るべき、一方が他方に合わせるべきではないとしているが、幼稚園教育要領の「総則」では、「第3 教育課程の役割と編成等」における「5 小学校教育との接続に当たっての留意事項」とあり、その中の(1)に、「小学校以降の生活や学習の基礎の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにする」とある。さらに、(2)では、「幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師と意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする」との記載がある。教育要領と指導要領の記述内容の比較をすることでもわかるが、小学校への要請の方がより細部にわたっているのではないかと考える。双方の歩み寄り、協力といえれば聞こえは良いが、実態としては、どちらといえ、受け入れる側、おそらく具体的な質問の多い小学校側から幼稚園側へのアプローチが自然と思われる。もちろん、スタート後の交流や研修会等のイベントはもちろん共同で行われるべきである。スタートの取り掛かりが重要な要素を握っていると考えている。

4) 「言葉の育つ環境としての土台」の事例＝児童文化財の活用は有効策

＝「幼児期の生活」「絵本の読み聞かせ」「語り掛け」による効用

「言葉」を話す・聞くという一連の行為は難しい事であり、それゆえにこれらの行為は極めてレベルの高い働きである。教育者や保育者に読んでほしい「言葉」に関する三冊の授業で扱った実践報告を紹介する。

4-1) 「ことば力と思考力」今井むつみ

まず、今井むつみの「ことば力と思考力」という書籍があり、一般的に言われる「小1プロブレム」についても幼児期の生活に言及しており、その解決策にいろいろな工夫を取り上げている。付け加えるが、この問題を乗り越えれば、次に小3～4年生での「9歳の壁」がある。抽象語が一気に増えて学力が追い付いてゆけない子どもが出てくるゆえの問題である。解決策としては乳幼児期からの過ごし方や育て方が重要だと述べている。今井によれば、「ことば力」を高めるために、幼児期になすべき事として、8項目提案している。

- ① とにかくたくさん対話する。
- ② 言葉同士を比べる
- ③好きなことにとことん付き合う
- ④ 買い物のときはチャンス
- ⑤ 遊びの中で空間言葉をたくさん使おう
- ⑥ お出かけや遊びのプランを立てながら、時間の言葉を使おう
- ⑦ 生活や遊びの中で「算数トーク」をしよう
- ⑧ デジタルは賢く使う、でも使いすぎない

こういう8項目を実践することによって、幼児期の遊び＝生活＝学習の充実につながる。ことば力の上昇があれば、思考力の上昇につながる期待がある。土台の重要な点は一言でいえば、大人の丁寧な関わりや対応である。領域「言葉」の授業で使用した底本テキスト¹⁰では、「安全で快適な物的環境」「豊かな遊びを支える物的環境」「人的環境としての大人の存在」「人的環境としての仲間の存在」という四項目が挙げられている。ここでも環境を通して育つことの意義が述べられており、遊びを含めた生活や周囲の人々の関りの意義が述べられている。

4-2) 「クシュラの奇跡¹¹」ナンシードロシー

児童文化財の一つである絵本の読み聞かせは有効である。基本的に読み聞か

¹⁰ 底本テキスト：「保育内容言葉」太田光洋他2名 同文書院 2021年

¹¹ クシュラの奇跡：ナンシードロシー著 のら書店 2006年

せは一つで親とのコミュニケーションを築く上で有効であるのだが、2冊目にナンシードロシーの執筆になる「クシュラの奇跡」と称される実践報告の書籍の存在を提示する。複数の障害のある「クシュラ」に大人は140冊も読み聞かせをしている。複数の障害が大きく改善されている実話であるが、だからこそ書籍の表題の「奇跡」と命名されている。児童文化財を「楽しむ」ことから障害の程度が大きく改善されている。大人の関わりと先ほど述べたが、子どもの言葉を育てるのにおとなの役割は重要であるのは言うまでもない。子どもは大人の会話をよく聞いているし、模倣もするので、日常生活においても大人はこのことに留意しなければならないし、大人の生活実態がそのまま子どもにストレートに伝わるから大人は子どもの思いを受け止めて、言葉を引き出したり、心のよりどころとしての重要な役割があることを認識した。

4-3) 「一日30分の語り掛け¹²⁾」サリーウオード

3冊目に、同じような実践報告として著名なものが「一日30分の語り掛け」という実践報告書である。アメリカの言語療法士であるサリーウオードの記録とその実践提唱であり、かなりの臨床事例に基づいての治療報告書籍である。生まれた時から赤ちゃんに一日30分間の語り掛けを推奨している。彼女の観察力も緻密であり、就学前までの乳幼児の日常生活における小さな変化や行動に至るまでの慧眼には感服する。読み物というよりも専門家による実践記録といった方が該当する。「一日30分の語り掛け」も障害が大きく減じて健常な人と大差なく過ごせるまでの改善が果たされ、大きな効力があると、その結果を報告している。領域「言葉」の中で扱うべき必須の実践報告書ではないかと思われる。

3冊すべてに共通している部分は、大人の子どもへのかかわりであり、その質的も量的にもほとんど同じ状況である。障害児が健常な人に大きく近づくまでの改善が果たされるという事実には教育関係者にとっては、子どもに向かい合うときはこの点に関しての認識を深めるべきだと思われる。これらは領域「言葉」のみならず、小学校の国語教育にも良い影響を与え、絵本の読み聞か

¹²⁾ 一日30分の語り掛け；サリーウオード著 言語療法士 小学館 2001年

せは重要性が高いものと思われる。これに近いものとしての音読の効果を今一度見直す必要もあるかと考えている。加えて、「言葉」を中心に介しての、児童生徒との信頼関係の構築、すなわち、「何が、どうすることが、子供にとって一番良いことか」という、いわゆるアセスメントについても「言葉」の授業で合わせてそれを検討すべき事項と思われる。その橋渡しの一つとしての絵本の読み聞かせも幼小接続に大きく貢献するものと提案したい。時折ではなく、毎日の実践が効果を発揮するので、せめて小学校での2年次程度までは毎日の読み聞かせは必要と考えている。

5) 国語の入門期に「絵から文章へ・文章から絵を描く」

「お絵描きトレーニング」＝「伝える力と表現力を身に付ける」

＝「個別最適な学びと協働的な学び」に関連して

市販されているが、「お絵かきトレーニング¹³」という書籍がある。考学舎の坂本聡の取り組みである。最初は単語から始めても良いと思われるが、ごく簡単な果物や道具類などの単語を告げて絵を描かせる、次にそれぞれの単語を一文にして、絵を描かせる。次はこの逆を行う。それを徐々にレベルアップして、場面から絵を描ける、もしくは絵から一つのストーリーを組み立てる、こうすることで、遊びながらもイメージ力の伸長と表現力、理解力の伸長が期待できる。実際、「言葉」の授業において、学生を子どもに見立てて、シミュレーションで実施したが、面白いくらい取り組んだし、結果も期待以上によくできた。つまり、表現力の不足部分や、相手の立場に立った経験ができたことや、いかにわかるように説明することが難しいのか、改めて認識を深めたと考えている。ただ、幼児や小学校低学年ではなく、大人の学生という事があったが、この取り組み自体は十分参考になるものと思われた。ユニークな「遊び」だが、「学習」の大事な一歩といえるものと考えている。この方法であれば、「個別最適な学び」にもなるし、発表会等を行えば、「協働的な学び」に通じるものであると考えている。例えば、複数の人のいる絵の中から該当する姿の人をどのようにして紹介するのか、あるいは文から絵にするのか、また、地図

¹³ お絵かきトレーニング：考学舎 坂本聡

を教材にして、地図から文へ、文から地図を書かせたり、道案内をするのも、その順番や特徴的なものなどをどのように活用するのか選択も迫られ、「相手に伝える・伝わる」ことに留意するという大きな効用が期待できる。「遊び」の教材として活用すれば、「伝える力」及び「表現力」の伸長に貢献できると考えている。特に小学校では「書くこと」に重点化してゆくようにならないといけないが、今後、我が国は、さらなるグローバル化を迎えてゆく可能性が高いと思われるが、話せる力の育成にも同時進行で重視すべきことと考えている。今回の小学校の指導要領の改訂では教科「国語」においては、「正確に理解」と「適切に表現」との順序を入れ替えたとの解説があった。全く同感である。高校の教師だった時、「国語」で何を教えるのか、と自問自答していた。そのまま15年ほど経過して、「表現」だと辿り着いたと答えに確信が持てた。その理由は「言葉」に関して、究極的には、「理解」は「表現」の前段階であり、表現するための条件の一つに入ると考えついた。自身の拙いエピソードであるが、大学卒業時に、浜本純逸¹⁴に「国語で何を教えるのか」という課題が出されていた。15年後に「表現力」だと、報告したら賛意を得られた。浜本の師である野地潤家¹⁵は「理解」と「表現」が追究する項目であるとされていたと浜本から伺った。こういうエピソードがあったが、現在でも「理解」があって、「表現」が出てくると思われるし、順序からしても間違っていないと考えている。今回の指導要領の改訂での順序の入れ替えも妥当なことと評価できる。したがって、「絵と文」のやり取りは、入門期の取り組みとして検討の余地があるのではないかと考える。

参考（NHK テレビからの筆者自身のまとめ）

「言葉の獲得」に関係すると思われるのと、今後の研究がさらに進むと見え、「脳科学の解明と言葉の獲得」の関連性が判明した最先端科学として掲載する。今後の「言葉」研究の第一歩にもなるものと想定している。

¹⁴ 浜本純逸 国語教育学者 神戸大学名誉教授 早稲田大学特任教授

¹⁵ 野地潤家 国語教育学者 広島大学名誉教授 元鳴門教育大学長

1 「出産」人は難産を選んだ 「NHK」「ヒューマニエンス クエスト」

* 明和政子教授 京都大学大学院

なぜ人は難産なのか？骨盤の骨格の作りにより骨と骨の間の穴が大小の差が出ている。穴は、人は小さく、チンパンジーは大きい。700万年前、元々は同じ種族だったと思うが、発達の過程で大きく変わってきた。なぜか？→それは、一定の時期からの脳の成長の違いによる。人は一気に大きくなる。チンパンジーの上昇線は同じ角度。人だけが急に垂直に近くなるほど脳が成長する＝大きくなる。＝言葉の獲得に関係する。すでにおなかの中で聞き耳をたてて、母親の声を聴いたり、外界の刺激を感じたり、動いたり、活動が始まっている。科学者は母性とか父性とかいわずに、親性と言うことにしようと言案中。難産の意味＝根拠のある妄想

2 「母乳」 「NHK」「ヒューマニエンス クエスト」より

* 和田友香小児科医長 国立成育医療センター

ア ミルクオリゴ糖のたくさんあるのは人間だけ

浦野匡先生によると、50種類の動物の中で、糖類が多いのは、人間だけ。それもその20%をミルクオリゴ糖が占めるらしい。この糖類が脳の機能の活性化に大きく影響することもわかっている。1年で脳が2倍の大きさになる。シアリルラクトース。実験で、豚に人間の母乳を位与えたら、脳の海馬と脳梁という部分が大きくなった実験結果が出ている。海馬（神経細胞の結合を作る役割を果たし、短期記憶から長期記憶へ情報をつなげる）や脳梁（左右の脳の情報連絡を行う役割）が拡大。

* ミルクオリゴ糖がポイント 母乳は神秘の塊 まだ解明されていない

イ 母乳は世界を知る窓

乳を通して学ぶ。例えば、母の前の日の食事したものの味や香りが翌日の母乳に入る。だから、赤ちゃんにとって、母乳は国の文化であり、家の文化であり、世界への入り口。

もうひとつ授乳時に大事なことは、昼夜の区別を知ってくること。生後1～2ヶ月では二時間おきに授乳。4ヶ月経過すると、昼夜の区別ができる。メラトニンというホルモンのせい。さらに母親が新型コロナにかかると、数日で抗体ができるので、それが赤ちゃんに伝わる。インフルエンザも風

邪もその他の感染症も同じ。よって、部屋を区別しない方が良い。隔離しない方が良い。授乳中のみ母親の乳房に免疫・抗体は存在する。

ウ ドナーミルク

エ 早い離乳と言葉の関係＝だから保育者は子どもとの関わりや保護者との関わりをどうするとよいのか？

1歳から言葉を出す芽生えがはじまる。乳離れに大きく関係している。霊長類で人間が一番短い。チンパンジーやゴリラは数年。赤ちゃんもチンパンジーなどの口の奥の構造は似ている。呼吸と飲食が同時にできる。成人は気管の入り口に軟骨で蓋ができて、呼吸の時は閉まる。赤ちゃんは空気の入る管が上に上がって呼吸と飲食は別々に入る。＝同時にできる。成人のみ違ってくるのは、舌の厚さによる。舌の厚さがあるから色々な言葉が出てくるようになる。授乳の期間は人それぞれ。離乳を決めるのは＝赤ちゃん

*火の使用で食物は消化しやすくなり、離乳が早まったものと見ている。その結果、舌が厚くなることもあって、言葉が出てくる。父親は子育てをどうするか？料理を作れば良い。育児参加になる。ヒトは複数で一緒に育児するように進化したので、父親の協力は絶対に必要。父親も別の目的でホルモン等投与したら、父が出た。父乳もあるかもしれない。早い離乳と言葉の獲得には、関係性があると思う。赤ちゃんは呼吸と飲食が同時にできる。成人は別々にしている。口蓋の構造が異なる。舌の厚さが異なる。舌が厚くなるのはいろいろな言葉を出すため。発語と授乳との関係。離乳が早まったのは、火を使用して消化しやすいものを食べるようになったから、離乳が早くなったとみられている。

V 結果と課題

令和五年に制定された「幼保小の架け橋プログラム」はアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムとの統合であるが、幼児教育に関わる人は「生活科」ともども研修を行う必然性がある。そして、小学校はもっと遊びを取り入れて子ども主体の教育内容を展開しても良いのではないかと考える。ただその中には「学習指導要領で求めている資質・能力の取り込みは必須である。難

度の高い教育形態だが工夫次第でやれると思っている。今まで見てきた「総則」などの記述から、ある意味、小学校の関係者は幼稚園教育要領を読み込んで、教育の内容が遊び＝生活＝学習そのものであることの認識と子供中心のスタイルでの教育保育であるので、その点の理解や認識が必須と思われる。小1プログラムは「家庭のしつけ」ができていないという回答が多かったけれども、幼児教育においては、家庭＝生活そのものが幼児の特性に通じるのであり、そこを基盤にして令和六年度から一般的に小学校の「生活科」の教科書を製作する各社のテキストが入手可能とされているので、手にとって接続の意味合いを探っていきたい。一社でも幼稚園教育に踏み込んでいる教科書があればうれしい。生活科のテキストの内容次第で、この家庭でのしつけ云々という回答が出てくる数値が減少すると思うところである

また、参考として、言葉の獲得に関して、教育要領にも指導要領にも特に取り上げられていない脳学者と小児科医長のドキュメント番組を取り入れたのは、言葉に関して、どちらも脳の発達に深く関係する「難産」及び「母乳」の働きから発達の課題に対応しての教育活動が関係しているからである。したがって、小学校においても子供中心に見てゆけば、初めて認識させたい気持ちからであったが、このことは折しも、2023年9月にこども家庭庁から中間発表という形での「幼児期のこどもの育ちに係る基本的なヴィジョン（仮称）」副題として「すべてのこどもの『はじめての100ヶ月¹⁶』の育ちを支え生涯にわたるウェルビーイング¹⁷向上を図るために」という政策が提示され、パブリックコメントを求めている段階であるが、まさに妊娠期からの小学校までの育ちや支援を提示しているので、科学がもっと解き明かす言葉に関するヒト研究の深化に期待したい。

また、令和の時代の教育を俯瞰してみると、ICT教育やAIやチャットGPTも含めたPC利用の時代が主となってくると思われるが、「個別最適な学びと協働的な学び」という形態で大きく教育のあり方が変化してくると思わ

¹⁶ はじめての100ヶ月：こども家庭庁 令和5年提言

¹⁷ ウェルビーイング：幸福なこと

れる。子供中心の幼児期の教育に近づくのかもしれないと考えている。しかし、機器類が活用され出せば、興味や関心の度合いから、ややもすると、失われてしまいがちな人間性等「人らしさ」を重視するアナログ的な分野の教育内容を精選する必然性が高くなると思われる。この件に関しては、合田哲雄¹⁸が「カリキュラム・オーバーロード（求められる重点化）」という文章を「最新教育動向2024¹⁹」で述べているが、次の学習指導要領の改訂の課題の一つでもあると必然的に想定される。求められる盛りだくさんの教育内容を精選して重点化することが大きな課題である。その時に子供の基礎的な資質・能力を構築する、その基盤としての、教科「国語」や領域「言葉」の持つ重要性が注目を受けることになるのも必然と思われる。その理由はPCには不可能に近い「感性」とそれを表現したり、伝えて互いが納得していくための重なる道具になったりと思うからである。汐見稔幸がその著書「教えから学びへ²⁰」で述べているように、「教員達は教え方を研修会で検討したり、議題にするのではなく、これからは児童生徒がいかにかに学べるのかという指導を中心に据えないといけない」という考え方に私個人は目から鱗であった。さまざまな調査も含めた学び方をもっと重視することに注意を向けたいと考えている。まさに「個別最適な学びと協働的な学び」である。幼保小の接続期に効用があると考え、取り上げた、「絵本の読み聞かせ」の継続と「絵と文とのやり取り」による表現力の育成はイメージ力や感性にも大きく影響すると思われるので、幼小接続に極めて有効と思われる。

終わりに際し、小1プロブレムの解消に三つの対応策を述べたが、一つ目は今井むつみの「ことば力と思考力」の内容における幼児期での実践の提唱内容、二つ目は「一日30分の語り掛け」と「絵本の読み聞かせ」、これらは障害まで

¹⁸ 合田哲雄：文化庁次長「カリキュラム・オーバーロード」

¹⁹ 最新教育動向2024：明治図書 2023年12月 讃井康智

²⁰ 教えから学びへ：河出新書 2021年 汐見稔幸

改善するといわれている。そして最後に三つ目としての「伝え合いと表現力の伸長」に「お絵描きトレーニング」つまり「遊び=学習」を行い、表現力の育成や伝え合うことの学びによる資質・能力の底上げを図ること。なぜこういう三つの提唱を取り上げるかといえば、幼児が一番多くの回数をこなしているのが「絵本の読み聞かせ」「語り掛け」であると考えからである。特に、周囲の庇護の必要な幼保小の接続期に有効な結果が出る見込みがあると予想する。

以上の結果や調査研究から研究の目的は明らかになったと考える。

主な参考文献

- 1) 「ことば力と思考力」：今井むつみ 筑摩書房 2020年
- 2) 架け橋プログラム：幼保小の架け橋プログラム参照 文部科学省 HP
- 3) 「幼児期」：岡本夏木 岩波新書 2005年
- 4) 「保育内容言葉」太田光洋他2名 同文書院 2021年
- 5) 「クシュラの奇跡」：ナンシードロシー のら書店 2006年
- 6) 「一日30分の語り掛け」；サリーウオード ST 小学館 2001年
- 7) 「幼稚園教育要領解説」：文部科学省 フレーベル館 2018年
- 8) 「小学校学習指導要領国語解説書」：文部科学省 東洋館出版社 2018年
- 9) 「NHK」「ヒューマニエンスクエスト」：2023年「人は難産を選んだ」
- 10) 「NHK」「ヒューマニエンスクエスト」：2023年「母乳」
- 11) 「最新教育動向2024」：讃井康智 明治図書 2023年12月
- 12) 「教えから学びへ」：汐見稔幸 河出新書 2021年
- 13) 「お絵かきトレーニング」：坂本聡 考学舎 2016年

これからの教職に求められる資質・能力に関する一考察

～幼小の一層の円滑な接続のためにアセスメントを活用する～

保育学科 上森哲生

A study on the qualities and abilities required for the teaching profession in the future

～Utilizing assessment for smoother connections between kindergarten and elementary school～

Childcare department Tetsuo UEMORI

要旨

幼稚園から小学校への移行期に、小学校に入学後の子どもの落ち着きのなさや情緒不安定等の小学生が比較的多くみられることから、いわゆる「小1プロブレム」として、教育問題になって久しいが、その解決策も含めて、平成28年12月の中央教育審議会の答申を受けて平成29年3月に新学習指導要領・新幼稚園教育要領が他の新保育所保育指針や新認定こども園保育要領と共に同時に公示された。また、令和4年には「幼保小の架け橋プログラム¹」も策定された。令和5年の年末には、子ども家庭庁を中心とした数々の施策が出てきている。これまでもこの問題の解決策として「幼小接続期」における教育指導の在り方が幼小の教員たちの相互乗り入れも含め、特別な配慮とともにその解消に向けての取り組みが推進されている。幼稚園の個を大事にする遊びを通しての総合的な指導による経験カリキュラムの授業から、小学校としての集団性をも大事にする明確に区分けされた教科カリキュラム主体の授業への変化の戸惑いをもたらす問題と思うが、新学習指導要領公示後は各学校や幼稚園の接続のための連携もあって、少しずつ改善に向かっていると考えている。関係各省庁は、「幼保小の架け橋プログラム」が代表するように、子どもに優しい教育施策がなされていると考える。とりわけ、学校教育における子どもと教員との信頼関係の構築は幼小中高全く同じく重視されるべきものであり、その子ども対応としての方法の一つに幼児教育においては主に保育士を対象として使用される用語に、アセスメント²がある。この方法を学校教育にも取り込んで幼小の接続はもちろん、可能であれば、小学校の全学年にも通用するのではないかとと思われるので取り上げてみた。教職に関わるものすべてに有益な方法と考えている。私自身この言葉により新たな認識を持ったので、本稿はこのアセスメントを中心に調べて

¹ 架け橋プログラム：幼保小の架け橋プログラム 文部科学省 HP 参照

² アセスメント：保護者や教師が子どもの発達や課題を共有し適切な支援を行うこと

みる。

キーワード：幼保小架け橋プログラム アセスメント 子ども理解 幼稚園教育要領
小1プロブレム 個別最適な学びと協働的な学び

I 問題の所在

幼稚園から小学校への移行期の問題として、多くの学校で見られる特異的な事例が話題となって、ずいぶんと久しい。文部科学省においてもそれが問題視され、いわゆる「小1プロブレム³」との呼称で深刻さを招いている。私個人がこの問題に関する対応事例の報告集を、最も早く目にしたのは「育ちと学びをつなぐ幼保小連携教育の挑戦 実践接続期プログラム（茅野市教育委員会の幼小接続のテキスト）⁴」からである。文部科学省も幼小接続期における対策として、幼稚園側からの小学校への「アプローチカリキュラム」また、小学校からは幼稚園側に対して「スタートカリキュラム」が開発されて、接続化を図っていたが、令和4年になって、この二つを統合した形で、文部科学省からの政策として「幼保小架け橋プログラム」あるいは子ども家庭庁からの政策としての「初めから百ヵ月ビジョン⁵」等々、矢継ぎ早に施策を公表しており、それだけ問題の深刻さが窺い知れる。しかし、スムーズに行くことこそが何よりも誰しも願うところである。この幼児児童への対処であり、かつ、子ども中心の視点から保育所の用語であり、幼稚園ではこの呼称はないものの教員として幼児理解に行ってほしい内容はまさに「アセスメント」そのものであるもので、衆目の一致する意味ではこの用語を用いたい。アセスメントは教員と子どもとの互いの意思疎通や信頼関係構築、遊びの発展等においてのわかりやすい具体的な方法であり、このアセスメントは今後の教員の資質・能力の一つとして備える必要があるのではないかと思い、取り上げてみた。そしてこの方法は小学校のみならず、中学校、高等学校でも、もっと言うなら一般社会や企業内でも活用できるのではないかと考えている。すでに、福祉や医療、介護等においては活用されているが、幼児教育とはその運用や解釈がやや異なるものである。幼児期の教育要領や保育所保育指針や認定こども園の保育要領などが学習指導要領と期を同じくして公示されたり、その内容もほとんど同じものであったりすることから、保育の用語とはいえ、教育にも通じるものがあると考えて差し支えないものとみている。教育の土台である「子ども理解」のあり方を調べてみる。幼稚園教育要領の幼児理解や教師の役割、また地域の実態などに対応するカリキュラムマネジメントにもアセスメントと同じ方向性が見て取れる。保育に関しての

³ 小1プロブレム：文部科学省 HP 参照

⁴ 「育ちと学びをつなぐ幼保小連携教育の挑戦 実践接続期プログラム」ぎょうせい

⁵ 初めから百ヵ月ビジョン：子ども家庭庁 HP 参照

この幼児教育の場でのアセスメントを小学校にも取り込むことで、いわゆる子供を真ん中においた教育指導ができるものと考えている。昭和時代は教師主導、平成時代は児童生徒の主体性出現、令和の時代は「個別最適な学びと協働的な学び⁶」とあるように、いよいよ欧米型の、体験や自由研究やフィールドワークなどの興味関心に的を絞って、その成果をクラス等で皆のものにする、つまり発表等を行うことで、各人が生き生きとしてくる。汐見稔幸がその著作「教えから学びへ⁷」で提起しているように、これからは学び方を教える時代である。教員は知識や技能を伝える一方通行の授業ではもたなくなった。大学の在り方も入試も含め大きく変化する見込みだと思われる。教育全体がDXによって変わりだしたが、人と人との交流には今回の研究のように、アナログ式の寄り添いと対話が時代の変化があっても必要と思われる。

II 研究の目的

アセスメントと幼児（子ども）理解について

アセスメントについて、汐見稔幸の「子ども理解を深めるアセスメント」⁸では、ビジネスシーンや環境分野においては、すぐに「アセスメント＝評価・査定」と言われることに対し、「保育では当てはまらない」と説明している。その点を深く調べてみて、幼児理解すなわち子ども理解につながってゆく信頼関係の構築に、また子ども中心の教育の実現を図りたい。

アセスメントとは「評価」ではなく、「子ども理解の正しい姿」とも述べている。「自己評価と子ども理解はセットの関係」とも指摘している。私自身も、子どもがわかるという事、すなわち、「子ども理解」を誤解していた。幼児教育の世界で初めて教員としての大事な資質に気づかされた。汐見の「子ども理解」すなわち「アセスメント」の内容としては、「その子が前に進むために何がどういう関りが必要か、どこを支えれば良いのか、支え時と支え所を知ること」という。それがアセスメントの目的としている。その意味では、PDCAサイクルでは間に合わない。臨機応変に現場での対応にはOODA⁹サイクルが実践的であると思われる。この方式はどの学校種にも通じるのではないかと思われるし、こどもと教師とが信頼関係を醸成し、幼児（＝子ども）理解をきちんと行う意味で有効な方法だと思われる。この点について資料等を調べてまとめる。幼保小の接続における学校や園全体としての組織的な取り組み事例は豊富であるが、子どもに深く関わりを持つ教員として各人に焦点化した実践を

⁶ 個別最適な学びと協働的な学び：文科学省 HP 参照

⁷ 「教えから学びへ」：汐見稔幸 河出新書 2022年

⁸ 汐見稔幸「子ども理解を深める保育のアセスメント」：中央法規 2023年

⁹ OODA：観察⇒方向付け⇒決定⇒行動というアセスメントの方法の一つ

見つめてみたい。究極の繋がりとは人と人だと思っただけからでもある。

Ⅲ 研究の方法

4-1) 汐見稔幸著「子ども理解を深める保育のアセスメント」よりアセスメントの理解

4-2) 幼稚園教育要領での「幼児理解」と幼児理解に関する「カリキュラムマネジメント」についてのまとめ

4-3) 「幼保小架け橋プログラム」におけるアセスメントに関して

この順番で、まず、汐見稔幸の「保育におけるアセスメント」の中からアセスメントの認識とそのまとめを行う。個人的なことを述べるならば、自分自身の「子どものことがわかる」という「わかる」概念を大きく転換するものであった。おそらく教員のほとんどの概念を覆すものと考えている。

次に幼稚園教育要領の中に同趣旨の文章を探究してゆく。最初は「幼児理解とカリキュラムマネジメント」、つまり、「総則」における「指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価」の中から、次に、「第2節 幼児期の特性と幼稚園教育の役割」の幼児期の特性」において、「(1) 幼児期の生活」、そして「(2) 幼児期の発達」、次に「2 幼稚園の生活」から、さらに、「第1章 幼稚園教育の基本」の「第1節 幼稚園教育の基本」における「3 幼稚園教育の基本に関連して重視する事項」から、「5 教師の役割」、「第3節 教育課程の役割と構成等」、「第4節 指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価」と続いて、

最後に令和5年の2月に出された「幼保小の架け橋プログラム」の中での幼小接続に関する記述の中から接続とアセスメントとの関係性を探求する。このアセスメントが小学校入門期の「教育関係者の資質・能力の向上」にできればと考えている。今回は幼小の接続の具体的手立てがテーマである。

Ⅳ 考察

4-1) 汐見稔幸著「子ども理解を深める保育のアセスメント」よりアセスメントの理解

アセスメントについて、汐見稔幸の「子ども理解を深める保育のアセスメント」では、ビジネスシーンや環境分野においては、すぐに「アセスメント＝評価・査定」とか言われるが、「保育では当てはまらない」と説明している。保育士も、多くの方が「子ども理解」を「家庭環境・兄弟関係・性格などといったことを知ること」と誤解している傾向が強いとの指摘がある。考えてみれば、誰も他人から「あなたのことはみんなわかる。心の中まで」とか言われたら、反発は必至だと思われる。実際はこの種の「わかる」が多いのがどんな社会でも散見される。教員の多くもこの手の「わかる」である。汐見は「アセスメントの語源をたどってみると、古いラテン語の意味は患者のそばにいてあげること。医師は患者に寄り添い、患者の訴えを聞き、どこが悪いのかを調べ、様々な情報を集めて初歩的な判断をし、治療の

方針を立てます。つまり、現在、福祉や医療・介護の世界で使われている『アセスメント』のほうが本来の意味により近いものです」と記している。したがって、教育界でのアセスメントでは、教育界とか保育ではという冠を附した方がより正確になる。汐見はさらに続けて「福祉や医療、介護の世界では、ケアを受ける人の身体状況を調べ、生活のニーズを聞き取って、支援につなげてゆくためのプロセスをアセスメントといいます。細かな情報を集めて記入するためのチェックリストをアセスメントと呼びます。非常に細かい質問項目があり、それによる評価や方針も定まっています」とある。これをアセスメントシートと呼ぶらしいのであるが、これは「保育の世界では使用できない」と汐見はいう。その理由としては、「相手は日々成長し、目まぐるしく変化する子どもだからです。子どもは絶えず成長し、変化してゆくので、昨日のチェックリストは OK だったことが明日も明後日も OK とは限りません。このようなチェックリストを使えば、変化し続ける多様な子どもたちに形式的で画一的な保育をすることになってしまいます。～中略～保育の世界におけるアセスメントは保育者が自分の保育を自己評価するというのが正しいあり方なのだと思います。自己評価とは、たとえば、『あの子はなぜこうしたのだろう』という子どもの気持ちや状況がしっかりつかめたかどうかということです」と説明している。こうやって見てくると、アセスメントにはより良い保育を探る上で、「観察」「記録」「評価」「見通しのある遊びの立案」「自己反省」等々の細部にわたる一連の行動が必須条件となってくる。

汐見はアセスメントとは「評価」ではなく、「子ども理解の正しい姿」とも述べている。「自己評価と子ども理解はセットの関係」とも指摘している。私自身も、子どもがわかるという事、「子ども理解」を誤解していた。幼児教育の世界で初めて教員としての大事な資質に気づかされた。汐見の「子ども理解」すなわち「アセスメント」の内容としては、「その子が前に進むために何がどういう関りが必要か、どこを支えれば良いのか、支え時と支え所を知ること」という。事例として、それぞれの幼児の特性に応じて「声援のみでよい子、ほめると頑張りすぎる子には冷静に」など、幼児一人一人の特性があるので、それぞれの発達に応じて、対応の違いが各人によって異なることを認識することが「子ども理解」という。「理解を英語では『understand』。つまり、下の方から立たせ支えてあげること。～中略～その子のどこを支えてあげれば遊びが前へ進むのかというポイントを見つけ、～中略～考え試してゆくことが『understand』なのです」「見つけ出そうとする視点をもったり、仮説を立てること」という。なるほどと納得する。こうやって、明日の保育に発展できるように、見通しをもって保育を行うことがアセスメントである。そして、見通しを持つからこそ、ここに必須条件があるのである。それは取り組みのベースになる「観察」「記録」「立案」「評価」であり、特に観察力は次の企画や意図、遊びの発展を見通す上で最も重要な力である。

小さなことも見逃さない力量を要する。そういう意味で隣り合わせの記録もこのアセスメントの大事な要素に加わるものと考えている。加えて子どもとの意思の疎通にはこのアセスメントのほかに「共感」ということも大事だと汐見は述べている。これは汐見に限ったことではないが、一般論としても、確かに「共感」することで、相手の心は氷解しやすく距離感が縮まる。信頼関係の醸成に大きく貢献する。最後に汐見はアセスメントの手順として「観察⇒記録⇒振り返り⇒計画立案⇒環境の改善」とし、最終的にはこの「改善」まで至ることがアセスメントの目的としている。その意味では、PDCA サイクルでは間に合わない。臨機応変に現場での対応には OODA サイクルで行かねばならない。この方式はどの学校種にも通じるのではないと思われるし、信頼関係を醸成し、子ども理解をきちんと行う意味で有効な方法だと教えられた。もう一つ SOAP¹⁰も紹介しているが、こちらは CA など航空関係者の使用する方式で主観⇒客観⇒評価⇒計画となり、すると、行動までには DCA が付随してゆく。しかし、この二つの方式の共通点は観察から始まっている点である。計画からのスタートは現実的ではないと思う。

4-2) 幼稚園教育要領での「幼児理解」と幼児理解に関する「カリキュラムマネジメント」についてのまとめ

次に、教育要領の「幼児（＝子ども）理解について、その記述部分を挙げてみる。まずは、「総則」の中では、「指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価」と題して、新たに示した点が以下の6点の項目である。

「指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価」

- ① 多様な体験に関連して、幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現するようにすること。
- ② 幼児の発達を踏まえた言語環境を整え、言語活動の充実を図ること。
- ③ 幼児の実態を踏まえながら、教師や他の幼児と共に遊びや生活の中で見通しを持ったり、振り返ったりするよう工夫すること。
- ④ 幼児の実態を踏まえながら、教師や他の幼児と共に遊びや生活の中で見通しを持ったり、振り返ったりするよう工夫すること。
- ⑤ 幼児期は直接的な体験が重要であることを踏まえ、視聴覚教材やコンピュータなど情報機器を活用する際には、幼稚園生活では得難い体験を補完するなど、幼児の体験との関連を考慮すること。
- ⑥ 幼児理解に基づいた評価の実施に当たっては、指導の過程を振り返りながら幼

¹⁰ SOAP：主観⇒客観⇒評価⇒計画

児の理解を進め、幼児一人一人のよさや可能性などを把握し、指導の改善に生かすようにすることに留意すること。また、評価の妥当性や信頼性が高められるよう創意工夫を行うこと。

以上が新しい総則の変更点である。当然ではあるが、小学校教育における指導要領での記述内容と変わらない。そういう風に計画をしたものであることは想定内だが、改めてその意図と連続性に感服する。「主体的で対話的な深い学び」「言語活動」「遊び（＝学習）の中での見通しを持つ・振り返りをする」「直接的な体験重視・視聴覚教材・PC活用・幼稚園では得難い体験の補完・体験重視」「幼児理解・一人一人の可能性の把握」すべてが小学校に引き継がれている。「幼稚園では得難い体験」とか、従来の枠組を飛び出そうとしている雰囲気を感じられる。加えて、「個別最適な学び」「協働的な学び」もその基盤は幼児教育で培われていることが前提となっている。それらのさらなる伸長が小学校以降18歳まで見通して連続されるのである。幼児教育は経済的な意味も含め、世界で注目され、今後の世界を構築してゆく世代の学びのスタートである。極めて重要な意味を背負っている。幼児教育関係者の自覚と責任が問われている。大学を含め大きな学校の教育改革が進もうとしている折にその実感が湧いてくる。直近の「百ヵ月ビジョン」のこの世に生を受ける前の胎内から小学校1年生ころまでの連続性のビジョンなどへの言及、そして「個別最適な学びと協働的な学び」も従来の教室における一斉授業の枠をはずして外に出ても、あるいは自宅でもシステムの問題は残っても授業そのもののへの影響は極力少ないと思われる。従前は個々人の際は別にして、同じ教育を施すことが当たり前だったけれども今後は一人一人の特異性や違いこそ価値観が認知される教育へシフトしてゆくような感じを受けている。記した上記の6項目からでさえ、行間にはじみ出ている感じがする。それもすべてにわたって、幼児を中心に据えての取り組みの提唱がなされている。幼児をいかに大切に育成させようとしているか、未来の国の存亡がかかっているといっても過言ではないので、評価できる姿勢といえる。あとでまとめるがこの子供中心の、特に主体性を支援する思考形態が実践として、小学校にも拡大できないかと考えている。

そして次が領域の5領域の新たに変更や追加された内容のまとめられている部分が2ページ分出て、その次にp10～p21まで、幼児理解に関して詳細な説明がある。

第2節「幼児期の特性と幼稚園教育の役割」

「1 幼児期の特性」

最初に「(1) 幼児期の生活」が記されている。

やはり、特性というと育ちやその環境など幼児自身の生活の状況も含め留意してゆかねばならない。ただ、ここでは入園に至るまでの「家庭においての人間関係を軸にして営まれていた生活から広い世界に目を向け始め、生活の場、他者との関係、興味や関心などが急激に広がり、依存から自立に向かう」とある。当然のことながら、幼児を取り巻く環境の大きな変化がまず来ているので、支援や援助は必須である。ただ、小学校に比べて、幼稚園教諭にとっては比較的担当人数が少ない分だけ、目が行き届く。

そして「①生活の場」として、家庭生活から外に出での同年代の集団生活を送ることで、教員が慎重に観察や声掛けやアタッチメントでの不安感の除去に努力せねばならないし、幼児は園生活を送る上で、期待感と裏合わせに不安感はもとより緊張感もあるだろうし、安心感を与える依存できる信頼のおける教員の存在が必要である。

では、そのような必要性のある場合の関わり方をどうするのか、身近な大人の存在となるにはどうするのか、ここが課題である。これは小学校も特に入学期には同じである。環境が大きく変化するときはどうするのか、同じ課題である。教育要領には「幼稚園生活が幼児にとって安心して過ごすことができる生活の場となるためには、幼児の行動を温かく見守り、適切な援助を行う教師の存在は不可欠」とある。

次に「②他者との関係」においては、同年代の幼児との言葉を交わしたりする中で「自己主張のぶつかり合いや友達との折り合いをつける体験を重ねながら・・・」「対人関係の広がりの中で、幼児は互いに見たり、聞いたりしたことなどを言葉や他の様々な方法で伝え合うことによって・・・」成長をしつつ、要領の概要をまとめてゆけば、楽しさや喜び、怒りや悲しさ、寂しさを味わう体験を重ねてゆき、相手も自分も感情を持っていることに気づき、自我の目覚めへと成長してゆくことが述べられている。こういう環境下における育ちや発達のレベルを認識してゆくのも教師の重要な職務である。

その後は「③興味や関心」と記述が進んでゆく。ここでも一つ押さえておきたいのが行動と模倣である。身近な友達や教師の言動が大きく影響をすることに留意して配慮する必要がある。

「(2) 幼児期の発達」として、「①発達の捉え方」と題して、「発達」の定義付けをしている。「自然な心身の成長に伴い、人がこのように能動性を発揮して環境と関わり合う中で、生活に必要な能力や態度などを獲得してゆく過程」としている。追記してこの「幼児の発達の特徴として、連続的ではあるが、滑らかに進行するものではなく、同じ状態が停滞するように見えたり、飛躍的に進んだりするように見える」ともある。こういう進捗状況を教員や保護者は理解していなくてはならない。特に子育て支援をする保育者はきちんと向き合う必要がある。

「②発達を促すもの」として「能動性」「環境からの刺激」と記している。

「③発達の特性」として6項目が挙げられている。紙面の都合で端折って記すが、

- ・身体の著しい発育により運動機能の急速な発達とそれに伴う著しい没頭する活動
- ・自立と依存と自分自身が受け入れられているという認識とそれに伴う安心感
- ・経験からくる自分自身のイメージ形成をし、物事を受け止める
- ・信頼や憧れをもってきている周囲の人の模倣をする
- ・環境と能動的に関わることから物事への対処に交渉するなどの基本的な枠組みを作る
- ・他者との関わり合いの中で葛藤や躓きを体験して善悪の判断が付き、自己抑制もする

この部分にはよく理解しておかないと幼児理解の進捗が進まないと思われる。発達心理学を真摯に学ぶべきと考える。幼児の発達のスピードの速さは年齢でなく月齢という単位ではかかることから理解できると思う。ペットの成長も人間の成長以上に速いのも人間を基準にはできない。

「2 幼稚園の生活」

「幼児期は自然な生活の流れの中で直接的・具体的な体験を通して人格形成の基礎を培う時期」「幼稚園においては、学校教育法第23条における幼稚園教育の目標を達成するために必要な様々な体験が豊富に得られるような環境構成」を求めている。園での生活は「生活習慣に関わる部分」「遊びを中心とする部分」とに大別される。そして園生活に、生活リズムを求めている。ここで考慮すべきことが三つ挙げられている。

- (1) 同年代の幼児との集団生活を営む場であること
- (2) 幼児を理解し、適切な援助を行う教師と共に生活する場であること
- (3) 適切な環境があること

以上の三点を通して、概括的に述べると、幼児の主体性や社会的態度を備えてゆかし、教師も幼児のコミュニケーションや不安感や緊張感を除去する援助を行い、温かく見守り援助の手を差し伸べる人の存在に気づけば、幼稚園での遊びに喜びを感じてくる。また、遊具や時間、空間、自然や動植物、高齢者施設訪問、地域行事への参加などを通して、人間性の醸成を図ってゆく環境構成がなされるように指摘されている。

「第1章 幼稚園教育の基本」

「第1節 幼稚園教育の基本」

「3 幼稚園教育の基本に関連して重視する事項」

- 「(1) 幼児期にふさわしい生活の展開」
- 「(2) 遊びを通しての総合的な指導」
- 「(3) 一人一人の発達の特性に応じた指導」

(1)～(3)まで「幼児理解」に関して、本文に目を通しての考えを述べる。

子どもは環境が変化すると、緊張感や不安しなければならない。したがって、大人もそうだが、そういう不安定な時には身近な存在があれば、受け止められているという安心感に包まれて生活における精神状態が安定して、楽しい毎日を過ごすことができる。したがって、学校や幼稚園においてはその子供を見守る教師は保護者の代役でもある。安心安定がもたらされると、「興味関心に基づいて行動し生き生きとしてくる。友達ともその関りは順調に展開すると思われる。特に(2)の「遊びを通しての総合的な指導」においては、幼児の遊びはほとんどが生活に基づくものであるので、また「遊びは遊ぶこと自体が目的」であるという部分には幼児の特性そのものが語られていて、その遊びの中で体験からいろいろな面での発達がなされてゆくと、とかく注意を受けるほど興味のあることに、楽しいことに、没頭してのめり込むことで、遊びは学習の場に変換されると考えている。こう考えてくると、個々の遊びの部分で学習と認識して対応しなければならない。さらに、「総合的な指導」という記述をよく目にするが、幼児はまだ各資質能力を発揮する、あるいは担う部分が未分化であることを特性とみて、「総合的」という文言が記されていると考えている。いわゆる「ごっこ遊び」での疑似体験は幼児の各方面の成長を促す最も有効な手段だと思われる。「一人一人に応じる」という記述には、教師の、あるいは身近な人が幼児にとって絶対的な信頼感を保つ上で、対応するときの丁寧な誠実な対応であり、保育園のシステムで専任保育制を採用して特定の子どもに向かい合う制度は「一人一人」への対応に近いものである。そしてそういう幼児の遊びの環境構成が教師にとっての大きな責任のある職務である。

「5 教師の役割」

p45～p49までの記述であるが、ここに記されている事柄が、汐見稔幸のいう「保育におけるアセスメント」そのものである。成長から見れば、幼児(=子ども)の主体性な活動を見守り援助する教師の役割には重要なものがある。特にここでの記述内容は後ろの p116～p123における「第4節 3 指導計画作成上の留意事項の(7)教師の役割 (8)幼稚園全体の教師による協力体制 4 幼児理解に基づいた評価の実施 (1)評価の実施 (2)評価の妥当性や信頼性の確保」の部分と合わせてみてゆかねばならない。この「教師の役割」において、前述している重要な内容も重複しているところは枚数の関係で省くが、p46にはアセスメントと全く同等のことが記されている。すなわち、幼児の内面への視点を持つことである。「幼児一人一人の行動と内面を理解し、心の動きに沿って保育を展開することによって心身の発達を促すよう援助する」ことを「専門家としての自覚と資質の向上に教師が努めることが求められる」と記されている。そのためには幼児の活動への関わりとその振り返りをし、「翌日からの指導の視点」の明確化を図り、より良い方向へ進んでゆくことが求め

られている。教師の援助と受け止めで自我に目覚めている幼児は対立や葛藤に戸惑うことも乗り越えて、前に進める。集団の中での個人個人の動きに目を向けていないと幼児の悩みや葛藤を見逃してしまう恐れもある。したがって、OODA と前述しているように、まず大事なことは観察である。幼児の行動と心の動きや状態までの理解をしなければならない。幼稚園は同年齢の集団生活と前述しているが、3年間に在籍すれば異年齢の子どもたちも共に生活をする場でもある。そこでもいろいろな場面に教師も遭遇することが予想される。だからこそ、文科学省は、保育は教師単独ではなく協力体制を構築して、チームでの指導を求めている。もちろん園内外の人によって構成されるチームであり、多様な方面の専門家もチームに入るべきであると考えます。

「第3節 教育課程の役割と構成等」

この項目では、「カリキュラムマネジメント」を扱いたい。特に幼児教育全般ではなく、幼児理解の手助けとなるような配慮をした「カリキュラムマネジメント」が必要である。「カリキュラムマネジメント」が大事な理由は、幼児教育と家庭との関係性が小学校と比較すると、深い関係性があるからで、また、「環境を通して行う教育」でもあるので、子どもたちの状況に応じてその都度の対応が必須であるからであると思われる。だから、各園はその教育方針を明らかにして、子どもの何を育てるのか、あるいは関係者にもわかりやすいように指導計画の公表とその内容の確認と振り返りを日々行うことが求められる。そのカリキュラム編成が適切であるための要素として、留意点を四項目 p76 では挙げている。「ア 幼児の心身の発達 イ 幼稚園の実態 ウ 地域の実態 エ 創意工夫」という四点である。

さらに「(2) 入園当初の配慮」という項目がある。3歳児の入園に際しての配慮事項であるが、家庭生活から集団生活への転換であるので、細部にわたる配慮事項が記されている。集団の大小に至るまでの配慮が求められている。生活のリズムも大きく変更されるので、幼児には大きな壁の一つともいえる。ここで、教師や保育士の役割はとても重要なものとなってくる。「(3) 安全上の配慮」とつぎにあるが、ここも領域「健康」とともに十分に留意しなければならない項目である。そして、「5 小学校との接続に当たっての留意事項」が出てくる。架け橋プログラムを活かす意味で、「幼児期までに育ててほしい姿」を手掛かりに幼児期から小学校の児童期への移行期の子どもの発達の状況を把握していかなければならない。幼児期と児童期の教育内容や指導方法などの違いを述べるばかりでなく、互いに共通点も探り、理解を進めることが大切だと思われる。特に幼児へのアセスメント面を小学校の一学期くらいは教師が同様に幼稚園の方法で信頼関係の構築や観察、見守り、援助を行うべきと考える。始まるまでには互いの行き来を行い、交流も大事と思うが、一番大事なのは、幼児(=

子ども) 一人一人の不安感の払拭を援助する姿勢と考えている。教科という枠組も新たな教育内容となるので、こういう観点も合科的な「生活科」という科目で対応する方向性は望ましいと思っている。

「第4節 指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価」

本稿の p5～p6 にかけて5項目を挙げているがその中の「⑤幼児理解に基づいた評価の実施に当たっては、指導の過程を振り返りながら幼児の理解を進め、幼児一人一人のよさや可能性などを把握し、指導の改善にようにすることに留意すること。また、評価の妥当性や信頼性が高められるよう創意工夫を行うこと」の部分で、もう少し具体的に考えると、ここには二つのポイントがあると考え。一つは、幼児一人一人の良さや可能性の把握による幼児理解に基づいた評価、もう一つは、教育要領の p121 にも掲載されているが、他の幼児との比較や一定の成績などのいわゆる評定で評価しないという事ではないかということである。それが「評価の妥当性や信頼性」なのではないかと思っている。

「3 指導計画作成上の留意点」において、「(2) 体験の多様性と関連性」という項目では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて考えると、体験の量を求めているというよりはその質を求めていると考える。それが幼児の心、内面の成長につながって発達をしてゆくと考えるからである。だからこそ、アセスメントの最後の行為、振り返りを行いつつ授業の改善に当たらねばならない。ほかにも「言語活動の充実」「見通しや振り返りの工夫」「行事の指導」「情報機器の活用」等々と求められているが、改札されているとおりである。小学校の教師もこの要領を必読書にすると、幼小接続はもっとスムーズと思われる。この項目の最後は「教師の念頭に置くこと」として5点記されていることを記しておきたい。

- 1 一人一人の幼児の体験を理解しようと努めること
- 2 幼児の体験を教師が共有するように努め、共感すること
- 3 ある体験からどのような興味や関心が幼児の心に生じてきたかを理解すること
- 4 ある体験から幼児が何を学んだかを理解すること
- 5 入園から修了までの幼稚園生活の中で、ある時期の体験が後の時期のどのような体験とつながり得るのかを考えること

以上であるが、これを小学校の教師にも伝えて取り組むことが幼児(=子ども)理解の一つになるものと考えている。「(7) 教師の役割」において、その記載内容は、今まで述べてきたことや抜き出したことと大きくは変わらないが、この項目で気づかされるのは、「幼児との共同者」「同じ目線」「憧れのモデル」「遊びの援助者」「援助のタイミングやヒントについて考慮」「自立心。生きる力の育成」「安定感」「信頼感」「多角的な視点から姿をとらえる(=

チーム学校)」「温かく受け止める」等々語句を拾い上げるだけで、アセスメントそのものが繰り返して説明されている。

4-3)「幼保小架け橋プログラム」におけるアセスメントに関して (波線部は筆者)

最初に、汐見 (2023 年) の唱える「アセスメント」の定義を以下のとおりまとめて述べる。
「アセスメントとは、保育者が自分の保育を自己評価すること。子どもの気持ちや状況がしっかりとつかめたか否か、自己評価は子ども理解とセットです。子ども理解とはその子が前へ進むために何がそしてどういう関わりが必要か、どこを支えればよいかというポイントを見つけること。支え時支え所を知ること。子ども各人に様々な方法での対応をとることです。それが子ども理解です。アセスメントとは子どもをよく観察し、できるだけ深く理解する試みのこと。そして自分の言動は適切であったか否かと自己評価して改善してゆくこと。保育の質を高めるために、保育者に欠かすことのできない日々の仕事の一つなのです。」

この定義の要点 (波線部) から以下のとおり、令和 5 年の 2 月に「学びや生活の基盤を作る幼児教育と小学校教育と接続」と題して副題が「学びの協働による架け橋期の教育の充実」とし、幼保小接続に関する施策が中央教育審議会初等中等教育分科会から出されたが、そのなかに、「幼保小」の共通する、幼児 (=子ども) の姿「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基盤にして双方の幼児理解 (=子ども理解) がなされて接続に向かって歩めるのであるが、その有効な手段としての教師と子どもとの信頼関係の構築をなす上で、子ども理解は必須であるので、発表された施策にもう一步踏み込んで、学生への幼児教育の講義を行った、アセスメントの手法を活用してはと考え、様々な求められる内容と方策等が提言されている中で、具体的な手段としてのアセスメントに関する記述を探した。「学びや生活の基盤を作る幼児教育と小学校教育との接続」に見られる保育・教育上のアセスメントと同等の内容記述と思われるものを抽出した。

「二、現状と課題、目指す方向性 1. 架け橋期の教育の充実 (1) 現状と課題」より
○ このため、幼保小においては、これらの違い等を認識しながら、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に取り組むことが求められる。なぜなら、幼児教育と小学校教育の教育課程の構成原理等の違いは、子供の発達の段階に応じた教育を行うために必要な違いではあるが、子供一人一人の発達や学びは幼児期と児童期ではっきりと分かれるものではなく、つながっているため、必ずしも合致しない場合があるためである。また、合致しない場合に、小学校入学当初の子供が、小学校での学習や生活に関する自らの不安や不満を自覚し大人に伝えることは難しいと考えられ、一人で戸惑いや悩みを抱えこむことにより、その後の小学校での学習や生活に支障をきたすおそれがある。子供にとっては、初めての進学であり、この時期につまずいてしまうことは、その後の学校生活や成長に大きな負の影響を与えかねない。

そして、ひいては不登校の要因にもなりかねず、低学年の不登校の子供への支援の観点からも、幼児教育と小学校教育の円滑な接続が重要であることが指摘されているところである。

○ また、文部科学省では、令和3年答申を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善等の取組を進めており、幼児教育施設においては、このような小学校以降の学校教育における授業改善等やそれらを通して育まれる資質・能力を見直し、遊びを通して学ぶ幼児教育の特性を踏まえつつ、その充実に取り組むことが求められている。その際、幼児教育では、従来から一人一人に応じた指導や一人一人のよさを生かした子供同士の関わりを重視しており、そのような子供の活動を通して協同性を育てていることの意義についても再確認をしながら、幼児教育の充実を図っていくことが重要である。

(2) 目指す方向性

①「子供の発達の段階を見通した架け橋期の教育の充実」より

○ 幼児期に培った資質・能力は、生涯にわたり重要なものであり、それを小学校において更に伸ばしていくことが必要である。一方、幼児教育と小学校教育においては、教育課程の構成原理など様々な違いを有することから、とりわけ義務教育の開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間の「架け橋期」は、幼保小が意識的に協働して子供の発達や学びをつなぐことにより、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくることが重要である。幼保小においては、架け橋期の円滑な接続をより一層意識し、乳幼児期の子供それぞれの特性など発達の段階を踏まえ、一人一人の多様性や0歳から18歳の学びの連続性に配慮しつつ、教育内容や指導方法を工夫することが重要である。

○ 特に小学校入学前後の架け橋期は、子供が幼児教育施設における遊びを通じた学びや成長を基礎として、小学校において主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことを可能にするための重要な時期である。そのため、小学校の入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきた資質・能力が、低学年の各教科等における学習に円滑に接続するよう教育活動に取り組むことが求められる。

「②架け橋期のカリキュラムの作成及び評価の工夫による PDCA サイクルの確立」より

(ア) 幼保小の協働による架け橋期のカリキュラムの作成

○ 幼保小が教育課程の構成原理等の違いを越えて相互理解を深めるためには、幼保小が協働し、共通の視点を持って教育課程や指導計画等を具体化できるよう、架け橋期のカリキュラムを作成することが重要である。また、その際は、3要領・指針において幼児期の資質・能力が具体的に現れる姿として定められている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等を手掛かりとして活用することが考えられる。

○ 具体的には、3要領・指針の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等や小学校学習指導要領を参照しながら、地方自治体が定める教育に関する基本的な方針等²¹や幼児教育施設・小学校の教育目標、子供の実態等を踏まえて、幼保小が協働して「期待する子供像」や「育みたい資質・能力」を明らかにするとともに、この「期待する子供像」や「育みたい資質・能力」を基にして、「園で展開される活動」や「小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等」等を具体的に明確化していくことが考えられる。そして、このような取組を幼保小それぞれのカリキュラム・マネジメントと連動させていくことが大切である。

○ その際には、幼児期の遊びを通した学びが小学校の学習にどのようにつながっているかについて、幼保小の先生が子供の姿の事例を通して、具体的に対話することが重要になる。例えば、幼児期に友達と集めた木の実の合計の数を数えたり、同数に分け合ったりすることは数への興味や関心を高め、小学校の算数の学習にもつながっていくものである。このような具体的な事例を用いて、大事にしている子供の経験等の対話を通じて相互理解を深めていくことが非常に重要であり、幼児期の興味や関心に基づいた多様な体験が小学校以降の学習や生活の基盤となること、ひいては言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の持続可能な社会の創り手として必要な力の育成等につながっていくことについて共通理解を図ることが求められる。

○ なお、小学校入学当初は、生活科を中心としたスタートカリキュラムの編成・実施により、幼児期の生活に近い活動と児童期の学び方を織り交ぜながら、幼児期の豊かな学びと成長を踏まえて、子供が主体的に自己発揮できるような場面を意図的につくることが求められている。

○ また、幼保小の相互理解を図るためには、自分が所属する幼児教育施設又は小学校の教育内容等を相手に伝えるだけでなく、相手の教育内容や指導方法を理解し、自らの指導を見直し工夫することが求められる。異なる施設類型や学校種の教育内容や指導方法を理解し、指導の見直しや工夫を行うことは、幼児教育施設や小学校の先生の双方にとって、自らの指導や子供の学びを豊かにする貴重な機会につながると考えられる。

(イ) 架け橋期の教育の評価、家庭・地域との連携

○ 架け橋期のカリキュラムを作成した後は、その実効性を高めていくため、幼保小が架け橋期の教育や子供の姿等を共に振り返り、教育の改善・充実につなげていくことが重要である。

○ このような架け橋期の継続的なPDCAサイクルを構築していくためには、幼保小の接続担当を園務・校務の分掌に位置づけ、幼保小の合同会議等をオンラインも適宜活用しながら定期的に開催するなど、幼保小の対話を継続するための工夫が必要である。その際、幼保

小の合同会議では、参加者が互いに尊重し合いながら率直に語り合い、架け橋期という重要な時期を担う仲間として学び合えるような同僚性を形成しながら対話を行うことが重要である。また、架け橋期のカリキュラムに取り組む意義やねらい、子供の変容等について共有を図りつつ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等を活用しながら 具体的に話し合い、目の前の子供の実態に応じて、架け橋期のカリキュラムの実践・改善等を行っていくことも大切である。

○ なお、小学校段階では生徒指導上の諸課題への対応が求められているが、生徒指導では、子供の自発的・主体的な成長や発達を支えることが大切である。このような考え方に立てば、幼児期において、信頼する大人との温かな関係の中で、子供が自己を発揮しながら、他の子供や地域の人々との関係を深めていくことが重要であり、幼児教育の成果が小学校教育へと引き継がれ、子供の発達や学びが連続するようになる必要がある。

「2. 幼児教育の特性に関する社会や小学校等との認識の共有 (1) 現状と課題」より

○ 全ての子供に格差なく学びや生活の基盤を保障していくためには、～中略～そのためには、幼児期に生まれた資質・能力が小学校教育にどのようなつながっているか、関係者がイメージを共有し、実践できるようにする必要があるとともに、学びや生活の基盤を育むため、幼児教育施設がどのような工夫をしているかについて理解を広げていく必要がある。

○ 幼児期は、子供が遊びを中心として、頭も心も体も動かして、主体的に様々な対象と直接関わりながら 総合的に学んでいくとともに、遊びを通して思考を巡らし、想像力を発揮し、自分の体を使って、友達と共有したり、協力したりして、様々なことを学んでいくことが重要である。このような遊びを通して学ぶという幼児期の特性は、普遍的に重視すべき視点であり、社会の変化に伴い、今まで以上に重要になってきている。

「(2) 目指す方向性 ①幼児教育の特性に関する認識の共有」より

○ 幼児期は身体と感覚・感性を通じた体験が必要な時期であることや、幼児教育はいわゆる早期教育や小学校教育の前倒しではなく、子供が主体的な遊びの中で試行錯誤し考えたり、先生の関わりや環境の構成を工夫したりすることにより、「主体的・対話的で深い学び」を実現していることなど、遊びを通して学ぶという幼児教育の特性について、様々な研究や実践の成果に基づく知見を活用して幅広く伝えながら、社会や小学校等と共通認識を図っていくことが重要である。

○ 例えば、いわゆる認知能力と非認知能力は相互に関連し、支え合って育っていくと言われている。子供の体験の幅を広げ、質を深めるための関わりや環境の構成に取り組むことが求められ、その際、言語や数量等との出会い、人やものとの関わりなどの中で感じたこと等も、子供にとっては貴重な体験であるということを認識することが大切である。

○ また、教育が有する文化の伝達・継承機能を意識することが大切である。日常生活や自然の移り変わりに根差した言葉遊びなどを通して、楽しみながら豊かな言葉や表現に触れる機会をつくるなどの配慮が重要となる。例えば、絵本や物語の読み聞かせなどを通して言葉に親しむことや、子供が興味を持つような言葉の響き・リズムの面白さや身体を使った表現との組合せなどを生かした工夫をしつつ、日本語の伝統にある名文等の豊かな文章や表現の響きに親しむようにすることは、楽しい言葉や美しい言葉との出会いを通して言葉の感覚を身に付けることにつながっていくと考えられる。

○ このように、遊びを通して学ぶという幼児教育の特性を踏まえ、日本語の豊かな表現に慣れ親しみ、楽しく遊びながら日本語感覚を身に付けることによって、コミュニケーション能力や自己表現する感性を育むなど、言葉を豊かにする遊びの工夫が必要である。このことは将来の小学校教育において、語彙量を豊かに増やしていく学びにもつながると考えられる。

以上、引用部分が多くなったが、波線部分を読むと、先に掲げた汐見の唱える「アセスメント」の有効性に気づかされる。接続期の必要性は多くの文章で書かれているけれども、そのための手法に関しては、互いの交流等は述べられているが、幼児＝子どもとのやり取りに関しては、抽象的な言動等が多く見られたので、子どもとの関わりを当事者が持つ意味、一番重要であるとする「幼児理解＝子ども理解」が必須であろうと思い、関係を述べてみた。そしてこのアセスメントの導入は、「わかる」という概念をアンラーンして、真の意味での子ども理解と寄り添いが可能になると考えている。保育・教育上のアセスメントの方法を取り入れることは、有効的な根拠となる状況や実態、接続のスムーズさを追求する目的等も改めて認識が進むと考える。そこで、幼児を対象にする側にも必須であるが、受け入れる側の小学校側にもその後の18年間の教育の連続性を見通して、子どもにとって、初めての大きな変化を成功に導くうえでも積極的に幼児教育への理解と幼児理解を進めていただきたい。その仲介が「幼児期までに育ててほしい姿」であり、そこを基盤にして、共に子どもの実態から、明日の教育内容や方法をどうするのがよいのか、興味関心のさらなる深まりをどうするのか、あくまでも幼児側に寄り添ってゆき、互いの人間関係の構築を行うのである幼児理解、子ども理解へ連続して関係の構築ができれば、まずは接続の第一歩であるし、歓迎すべきところであると考えている。ここでは、本文も意味の分かるように傍線部以外も記述した。その理由は小学校の学習指導要領の記述が今回はほとんどないので、あえて小学校の顔が出ている文章を使いたいからである。

V 最後に

幼稚園教育要領において、その前文には、「教育は、教育基本法第1条に定めるとおり、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を備え

た心身ともに健康な国民の育成を期すという目的・・・」という書き出しから始まる。5つの目標に続いて、「また。幼児期の教育については、同法第11条に掲げるとおり、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの・・・」と記されている。この記述から「幼児期の教育の重要性と人格形成の基礎を培う」という文言の重要性を改めて考えた時、子どもの資質・能力の育成に何が重要か、子どもに関わるものにとっては、極めて重い課題でもある。

今、教育界が大きな変革を迎えつつあるのではないかと思われる。それはこの教育基本法や幼稚園教育要領の最初に唱えている重要な内容を踏まえて、具現化するには具体的にどうするのか、ここからの思考や取り組み、配慮からであろうと考える。こども家庭庁の「はじめから百ヵ月ビジョン」「こどもまんなか社会」という提言から、「子ども基本法」「こども大綱」の制定と連続して政策が打ち出されている。文科学省も加わっての施策であり、これらが共通しているのは、「こども中心」の思考である。であるならば、その一環として、教員にとっては、その研修が教え方に焦点化されるのではなく、「教え方よりも学び方へのシフト」（汐見稔幸の書籍）とされるように、学びを「教員から子どもに」焦点化することは当然である。しかしながら、汐見の唱えるまで私個人には、その認識ができなかった。さらに、小学校以上の学校においては一斉とか集団という観点が重視されて来た。それが、「個別最適な学び」という幼児教育の個を重んじる観点も拡大されつつある。そういう意味でもまた、教育界の大きな変革ととらえている。

昭和時代の教師は知識を伝える講義形態の一斉授業、平成時代の教師は「ゆとり」とか、「アクティブラーニング」もあり、教師は進行司会のマネジメント業務、子どもの主体性や興味が授業に登場して、個人が存在意義を持ちだし始めた。そして、いよいよ現代の令和時代の教師はといえば、コロナもあって、ICT・AIなどの活用とGIGAスクール構想、一人一台端末等々の政策の実現も含め、教室という狭い枠から外の世界へ出てゆき体験等を取り込んで、そしてプレゼンスをするといった自由な形態の学習とシフトしている様子である。それが「個別最適な学びと協働的な学び」での提起であろうと考える。まさに、教師へ対しても「教え方」の伝授ではなく、「学び方」の指導のできる、かつ専門性の高い資質を持つ教師づくりが課せられている。令和時代になって、ようやく文部科学省の言われる発達障害のある方も希望する職種へ進めるのが可能であるというように私自身変化をしつつある。最初のうちは不可能としか思っていなかったが、この「個別最適な学び」を行うことで、それは可能であるように思われてきた。特異性を大いに発揮できるようになってくるからである。一人一人が学びに積極的に没頭できる。それが一人一人を活かすことに繋がってくると思われる。その際に必須なことは教師と幼児や児童生徒との信頼関係の構築と寄り添いである。こういう授業形態では、教師はより専門性をたかめ、多様性のある子ども達一人一人と向き

合わなくてはならないので、教師は文字通り、幼児理解の教師に同じく子どもの支援者であり、マネジメントする司会者 こども中心の視点での授業。面白く、わくわくするような教育に変化しようとしている。

要は、このように子どもたちは興味・関心を持つことで、「主体的・対話的で深い学び」に向かうし、それをじっくりと援助してきたのが、アセスメントの手法を活用している幼児教育である。子ども中心に志向する視点を持った教員の持つ資質として取り入れてほしいところである。

本稿のテーマは幼小の円滑な接続における視点等の具体化であるが、小学校低学年における児童へのアプローチ、特に架け橋期においては、幼児教育の幼児理解を活用してほしいこと、つまり、アセスメントの活用を、少なくとも半期ほどは幼稚園教育を中心にするとう有効であるのではないかという問題提起である。さらには「寄り添う・支える」教育の具体的な説明、それは、「幼保小の架け橋プログラム」によって、スムーズな学びのスタートへの配慮も示されている。あとは現場の教師たちの実践にかかっている。本稿は低学年における児童への関わり方を幼児教育に求めた提案であり、期待値は高いと想定している。根拠は教育活動に絶対的に必須の「観察 記録 評価 振り返り」が網羅されていることにもよる。さらに「わかる」という概念を大きく転換する可能性が高いと考える。次なる課題として、「個別最適な学び」にシフトする場合は、一人一人への対応が種々様々な形態も想定される中、こういう信頼関係の構築とコミュニケーション力が必要不可欠であるとも思われる。また、子ども達がそれぞれ興味関心のある方向に進むことの内容把握をする意味でも、この方法がうまく機能すれば、3年生から6年生にも通じるのではないかと検証してみたい。相対評価から絶対評価になり、評価は評定であっても自己の伸長度・発展度が評価されている時代である。以上により、研究目的は明らかになったと考える。

参考文献

- ・「育ちと学びをつなぐ幼保小連携教育の挑戦 実践接続期プログラム」
長野県茅野市教育委員会 ぎょうせい 2015年
- ・「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して」
奈須正裕 伏木久始 北大路書房 2023年
- ・「教えから学びへ」：汐見稔幸 河出新書 2022年
- ・「子ども理解を深める保育のアセスメント」：汐見稔幸 中央法規 2023年
- ・幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館 平成30年

- ・「学びや生活の基盤を作る幼児教育と小学校教育と接続 ～学びの協働による架け橋期の教育の充実～」令和5年2月27日 中央教育審議会初等中等教育分科会

編集後記

令和5年7月に地域連携センターを設立して、年報を創刊できたことを大変喜ばしく、これには多くの人々に協力をして頂き、執筆者、資料提供者や関係者の方々に心より感謝申し上げます。この年報が地域における活動や成果を広く共有し、地域の発展に貢献することを祈っております。

地域連携センターは、本学が基盤となり、地域の様々な団体や個人と手を繋ぎ、地域の発展に貢献するために活動して参ります。私たちは、地域が抱える課題やニーズを理解し、その解決に向けた取り組みを積極的に推進しています。また、開かれた大学として地域社会と交流し、お互いの理解を含めながら、より良い社会を実現することを目指します。

本年報では、本学が主導した取り組みやイベントの報告だけでなく、子ども食堂、北九州市や地元企業との連携、学生の地域連携活動、子ども教育と連携、国際交流など地域にとって必要な活動を取り上げ、ここに多くの成果を公表することが出来ました。

今後も、地域連携センターは地域と連携をしながら、より良い地域社会の実現に向けて邁進していきます。ご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

令和6年3月1日

編集者 杉元 康志

地域連携センター教育・研究年報

(令和5年度創刊号)

発行 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学
地域連携センター

発刊日 令和6年3月1日

発行者 室井 廣一

編集者 杉元 康志